

2020年度

講義要綱 (Syllabus)

〈口腔保健学科〉

神戸常盤大学短期大学部

KOBE TOKIWA JUNIOR COLLEGE

口腔保健学科

目次

- | | |
|------------------|-----|
| 1. 1年次開設科目 | 1 |
| 2. 2年次開設科目 | 107 |
| 3. 3年次開設科目 | 179 |

索引

【1年次】	【2年次】	【3年次】	
キャリア基礎	1 コンピュータ演習Ⅱ	107 プレゼンテーション技法	179
医療英語	4 生命倫理	109 生涯発達論	182
コンピュータ演習Ⅰ	7 くらしと法律	112 遺伝子と再生医療	185
健康スポーツ科学	9 地球と環境	114 歯科医療と法律・制度	187
人間関係論	11 口腔健康統計学	116 災害援助と救急医療	189
健康科学総論	14 社会福祉総論	119 医療情報システム学	192
国際関係論	17 臨床歯科Ⅲ（口腔外科・歯科放射線）	121 歯科医療と経済	195
福祉社会の理解	20 臨床歯科Ⅳ（小児歯科）	125 歯科保健指導演習Ⅳ	197
日本文化の理解	23 臨床歯科Ⅴ（矯正歯科）	128 歯科衛生過程演習	201
人体の構造	26 臨床歯科Ⅵ（高齢者・障害者）	131 地域口腔保健支援実習Ⅰ	203
人体の機能	29 臨床検査学	133 地域口腔保健支援実習Ⅱ	206
口腔の構造	32 歯科診療補助演習Ⅱ	135 診療補助実習Ⅱ	209
口腔の機能	34 歯科診療補助演習Ⅲ	138 口腔保健衛生学実習Ⅱ	212
生化学・栄養学	37 オーラルリハビリテーション	141 災害時の歯科衛生士の働き	215
薬理学	40 オーラルリハビリテーション演習	143 ボランティアの理論と実践	219
病原微生物学・免疫学	43 歯科衛生過程Ⅱ	146 コミュニカティブ イングリッシュ	222
病理学	46 コミュニケーション・医療面接	149 海外研修	225
口腔衛生学	48 栄養指導法	152 口腔保健特論Ⅰ	227
公衆衛生学	51 歯科予防処置演習AⅡ（う蝕）	154 口腔保健特論Ⅱ	229
歯科診療補助論	54 歯科予防処置演習BⅡ（歯周病）		
臨床歯科Ⅰ（歯科保存）	56 歯科保健指導演習Ⅱ		160
臨床歯科Ⅱ（歯科補綴）	59 歯科保健指導演習Ⅲ		163
医療安全	62 総合歯科実習		166
器材学	64 診療補助実習Ⅰ		169
歯科診療補助演習Ⅰ	67 口腔保健衛生学実習Ⅰ		172
歯科衛生学概論	70 地域との協働B		175
歯科衛生過程Ⅰ	72		
歯科予防処置論A（う蝕）	75		
歯科予防処置論B（歯周病）	78		
歯科保健指導論Ⅰ	81		
歯科保健指導論Ⅱ	84		
歯科予防処置演習AⅠ（う蝕）	87		
歯科予防処置演習BⅠ（歯周病）	90		
歯科保健指導演習Ⅰ	93		
学びの基礎	96		
まなぶる▶ときわびとⅠ	98		
まなぶる▶ときわびとⅡ	101		
地域との協働A	104		

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
キャリア基礎 (O21010)	演習	1	30	1	前期	必修	-	光成研一郎	7号館5階 研究室他
学ぶ+ Able → 学ぶ喜び、知る楽しさ								複数担当	
科目担当者	光成研一郎、伴仲謙欣、基盤「まなぶる▶ときわびとI」担当者								

授業の概要	この授業では、そもそも「学ぶ」とはどういうことかを仲間と共に考え、実践し、また卒業後も学び続ける力を身につけてもらうことをねらいとしています。この授業では、一貫してグループで活動することを基本としています。その学習方法を Team Based Learning といいます。これからどのような活動をしていく中においても、またどのような職業に就くとしても、他者との関わりなくして生きていくことは絶対にありえません。仲間と共に考え、実践することは、どの社会においても必須の力となります。自分だけの世界に閉じこもることなく、心を開き、楽しく仲間と学び合える授業にしてください。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク (レ) 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション (レ) 課題解決型学習(外部協定 有・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	この授業について知ろう ・授業の概要や進め方について	【事前】 シラバスの熟読 【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述
第2回	グループを作ろう ・共に学ぶ仲間をつくる。	
第3回	チームの絆を深めよう① テーマ：第一印象	【事前】 必要としない 【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述
第4回		
第5回	チームの絆を深めよう② テーマ：私のコミュニケーション	【事前】 必要としない 【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述
第6回		
第7回	チームの絆を深めよう③ テーマ：社会に出て求められる能力とは？	【事前】 必要としない 【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述
第8回	そのために自分がすべきことは？	
第9回	ロジカルコミュニケーション① テーマ：リーディング	【事前】 LTD に備えて、テキストを読む 【事後】 ショートレポートを manaba 上に記述
第10回	・話し合い学修 (Learning Through Discussion) の実践	
第11回	ロジカルコミュニケーション② テーマ：ライティング I	【事前】 必要としない 【事後】 ショートレポートを manaba 上に記述
第12回	・資料を正確に読み、自分の考えをまとめる	
第13回	ロジカルコミュニケーション③ テーマ：ライティング II	【事前】 必要としない 【事後】 ショートレポートを manaba 上に記述
第14回	・レポートの書き方をまなぶ	

第 15 回	ロジカルコミュニケーション④ テーマ：ロジカルシンキング	【事前】 反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述 【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述
--------	---------------------------------	---

学修の到達目標
Team Based Learning を通して、以下に示す色々な“できる (able)”を身につける。 仲間を作ることができる、仲間と議論することができる、論理的に考えることができる、自分の考えを表現することができる、自らの学びを振り返ることができる、学び・考え・実行する姿勢とその努力を継続することができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①他者と一つの課題について協力して取り組むことができる。 (協調性・協働力)	秀	別の意見や批判的な意見を取り入れながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の意義を具体的に示しながらグループ活動全体のパフォーマンスが向上していることを全員が実感できるようにその役割を果たすことができる。
	優	別の意見や批判的な意見に耳を傾けながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の必要性を他者に説明しつつそれを果たすことができる。
	良	グループの中で自ら役割を見出し、それを果たすことができる。
	可	自分に与えられた役割を果たすことができる。
	不可	自分に与えられた役割を果たすことができない。
②根拠に基づき、論理的に考えることができる。 (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっている、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くともある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
③他者に対して自らの考えを表現することができる。 (表現力)	秀	他者に対して自らの考えや取り組みが他とどのように違うのかを示しつつ、それが相手にとってどのような意味があるのかも含めて、客観的に分かりやすく伝えることができる。
	優	他者に対して自らの考えや取り組みが他とどのように違うのかを示しつつ、それらを客観的に分かりやすく伝えることができる。
	良	他者に対して自らの考えや取り組みを、相手が理解しやすいように整理して伝えることができる。
	可	他者に対して自らの考えや取り組みをそのまま伝えている。
	不可	他者に対して自らの考えや取り組みを伝えない。
④自らの学びに対して正しく振り返ることができる。 (省察力)	秀	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明するとともに、課題の克服や成長に関する具体的な指針を学びの成果から示すことができる。
	優	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明することができる (学びを自らの成長と結びつけて振り返る)。
	良	自分が何を学んだのかとともに、その学びが自分にとってどのような意味があったのかを振り返って説明することができる (学びを総体的に振り返る)。
	可	自分が何を学んだのか説明することができる。
	不可	自分が何を学んだのか説明することができない。
⑤学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。 (継続力)	秀	与えられた課題にとどまらず、主体的に学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	優	与えられた課題に対して、主体的に学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	良	与えられた課題に対して、学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	可	与えられた課題に対して、学び、考え、実行することができている。
	不可	与えられた課題に対して、学び、考え、実行することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	20	20	20	0	20	20	100
評価項目	① 協調性・協働力	0	0	0	0	0	20
	② 論理的思考力	20	0	0	0	0	20
	③ 表現力	0	0	20	0	0	20
	④ 省察力	0	0	0	0	20	20
	⑤ 継続力	0	20	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レポート試験を実施する。
	② レ	
	③	
	④	
	⑤	
提出物	①	manaba 上で提出する、事前・事後課題について、指示されたとおりに取り組み、提出されたかどうかを評価する。
	②	
	③	
	④	
	⑤ レ	
成果発表 (口頭・実技)	①	プレゼンテーションを評価する。 評価は、学生の自己評価と教員による評価で行う。
	②	
	③ レ	
	④	
	⑤	
ポートフォリオ	①	各自が授業で取り組むワークシートと、取り組みを自ら振り返り評価する振り返り票を、それぞれの学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。ポートフォリオとして蓄積する書類のファイリングが正しくなされているかについても評価する。もちろん正当な理由なく、ワークシートや振り返り票が欠落していることは減点の対象となる。最終的に凝縮ポートフォリオを作成した上で総合的に評価する。
	②	
	③	
	④ レ	
	⑤	
その他	① レ	グループ活動において積極的に発言することや、主体的・能動的に取り組んだことについては、加点の評価対象となる。評価は、学生の自己評価と教員による評価で行う。
	②	
	③	
	④	
	⑤	

履修に必要な知識・技能・態度など

この授業では、一貫してグループで活動することを基本としています。まだ見知らぬ人と一緒に半期共に活動をしていくわけですが、特段不安に思うことなく気を楽しんで授業に臨んでほしいと思います。

ただし、学ぶことには常に一生懸命であってほしいため、こちらが提示する課題についてはすべて真剣に取り組むようにしてください。

教科書・参考書

教科書：適宜、教材・資料等は配布する。

参考書：使用しない。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
医療英語 (O21020)	演習	1	30	1	後期	必修	-	山崎麻由美	4号館3階 研究室
世界で活躍するDHをめざす								単独担当	
科目担当者	山崎麻由美								

授業の概要	医療の現場で英語はますます必要になり、会話レベルから専門用語にいたるまで幅広い英語力が求められる。この授業のねらいは口腔保健に関する様々な英語に触れ、専門用語から臨床でのコミュニケーションに必要な英語運用能力をつけることである。また国際的な医療活動を知り、世界の現状に目を向け視野を広げることもねらいのひとつである。
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション 口腔に関連する用語を学ぶ	【事前】 シラバスを読んでくる 【事後】 口腔に関する用語をまとめる
第2回	海外の医療現場について調べる	【事前】 海外の医療現場に関する資料を読む 【事後】 発表原稿とパワポの作成
第3回	海外の医療現場に関するプレゼンテーションをする 文化の違いを学ぶ	【事前】 発表の準備 【事後】 文化違いについてまとめる
第4回	大人の歯・子どもの歯 グループ制作1 (オリエンテーション)	【事前】 配布プリント予習 (大人の歯・子どもの歯) 【事後】 本日のまとめ
第5回	口腔の健康について (栄養)	【事前】 配布プリント予習 (栄養) 【事後】 本日のまとめ
第6回	口腔の健康について (日常習慣) グループ制作2 (テーマを決める)	【事前】 配布プリント予習 (日常習慣) 【事後】 本日のまとめ
第7回	問診の英語表現を学ぶ グループ制作3 (計画表作成)	【事前】 配布プリント予習 (問診の英語表現) 【事後】 本日のまとめ・計画表を仕上げる
第8回	臨床に関する用語と表現を学ぶ グループ制作4 (日本語原稿作成)	【事前】 配布プリント予習 (臨床に関する表現) 【事後】 本日のまとめ・日本語原稿仕上げる
第9回	英文の書き方を学ぶ (文法の復習) グループ制作5 (英語原稿作成)	【事前】 配布プリント予習 (英文法) 【事後】 本日のまとめ・英語原稿作成
第10回	口腔の病気に関する用語と表現を学ぶ グループ制作6 (英語原稿提出)	【事前】 配布プリント予習 (口腔の病気) 【事後】 本日のまとめ
第11回	口腔ケア指導 (歯磨き指導)	【事前】 配布プリント予習 (歯磨き指導) 【事後】 本日のまとめ
第12回	口腔ケア指導 (フロス指導)	【事前】 配布プリント予習 (フロス指導) 【事後】 本日のまとめ
第13回	英語のリズムについて学ぶ	【事前】 英文音読 【事後】 マナバに掲載の練習問題
第14回	英文読解と英作文のまとめ グループ制作7 (媒体制作と発表に向けての練習)	【事前】 媒体の制作 【事後】 発表の準備
第15回	グループ制作発表と復習	【事前】 発表の準備 【事後】 授業の振り返り

学修の到達目標

歯科医療で使われる英語の基礎知識の定着と実践的な活用を目指す。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①専門用語の習得 (専門力)	秀	正確に理解し、使いこなせる。
	優	理解と使い方において若干の間違いをするが、他者からの助けを必要としない。
	良	理解と使い方において他者からの助けを必要とする。
	可	理解と使い方において他者からの助けを借りなければならない。
	不可	全く理解も使うこともできない。
②読解力 (論理的思考力)	秀	文法を正しく理解し、テキスト内容も正確に理解することが出来る。
	優	文法を概ね理解し、テキスト内容の理解もほぼ正確にできる。
	良	文法を概ね理解しているが、テキスト内容の理解を誤ることがある。
	可	文法の理解は十分でなく、テキスト内容の理解を誤ることが多い。
	不可	文法も理解できず、テキストを読むことが出来ない。
③英語の的確な表現力 (表現力)	秀	様々な英文構造を理解し的確に使うことができる。正確に発音できる。
	優	様々な英文構造を理解しほぼ的確に使うことができる。発音もほぼ正確である。
	良	様々な英文構造を理解しているが、時々不適切な表現を使う。発音も時々不正確である。
	可	適切な英文の構造をある程度理解している。発音はしばしば不正確である。
	不可	適切な英文の構造を理解できず、発音も不正確である。
④国際社会での多様な文化・習慣への理解力 (知欲)	秀	文化・習慣の多様性や国際問題について深い理解力と洞察力を持っている。
	優	文化・習慣の多様性や国際問題について、分析し評価することができる。
	良	文化・習慣の多様性や様々な国際問題を認識している。
	可	文化・習慣の多様性や国際問題があることに気づいている。
	不可	文化・習慣の多様性や国際問題について、全く理解しない。
⑤他者と協力して課題に取り組む力 (協調性・協働力)	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が社会に還元される場合もある。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	協調・協働への興味は薄いですが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調・協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げってしまう。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	10	20	0	0	10	100
評価項目	① 専門用語の習得	20	0	0	0	0	5	25
	② 読解力	40	5	0	0	0	0	45
	③ 英語の的確な表現力	0	0	10	0	0	0	10
	④ 国際社会での多様な文化・習慣への理解力	0	5	5	0	0	0	10
	⑤ 他者と協力して課題に取り組む力	0	0	5	0	0	5	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	定期試験（筆記試験）では、授業中に学んだ内容の修得を測る。
	② レ	
	③	
	④	
	⑤	
提出物	①	読書レポートとリストの提出。
	② レ	
	③	
	④ レ	
	⑤	
成果発表 (口頭・実技)	①	グループでのプレゼンテーションを評価する。
	②	
	③ レ	
	④ レ	
	⑤ レ	
その他	① レ	積極的な受講態度を評価する。
	②	
	③	
	④	
	⑤ レ	

履修に必要な知識・技能・態度など
1. 授業には必ず辞書を持参すること 2. 積極的に授業に参加すること 3. 課題は期限厳守で提出すること
教科書・参考書
教科書：使用しない 参考書：随時紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

学修の到達目標

Word、Excel の基本操作をマスターする。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①Word,Excelを活用することができる (常識力)	秀	Word,Excel 等を十分に使いこなし、様々な場面で活用することができる。
	優	Word,Excel 等を十分に使いこなすことができる。
	良	Word,Excel 等を使うことができる。
	可	ある程度、Word,Excel 等を使うことができる。
	不可	Word,Excel 等をあまり使えない。
②必要な情報を収集し、Word,Excelで活用することができる (情報力)	秀	必要な情報をネットから収集し、Word,Excel で様々な場面で活用することができる。
	優	必要な情報をネットから収集し、Word,Excel でかなり活用することができる。
	良	必要な情報をネットから収集し、Word,Excel で活用することができる。
	可	必要な情報をネットから収集することができる。
	不可	必要な情報をネットから収集することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	30	0	0	0	40	100
評価項目	① Word,Excel を活用できる。	20	20	0	0	0	20	60
	② 情報を収集し、Word,Excel で活用できる。	10	10	0	0	0	20	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	実技試験
	②	
提出物	①	授業内で作成した課題の提出(時間割・カレンダー)
	②	
その他	①	受講態度・積極性
	②	

履修に必要な知識・技能・態度など

各自が興味を持って、積極的にコンピュータに触れていくことが大切なので、出席することが大事である。

教科書・参考書

教科書：『例題 50 + 演習問題 100 でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト Windows10/Office2019 対応版』
定平誠 技術評論社

参考書：使用しません

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
健康スポーツ科学 (O21100)	演習	1	30	1	前期	必修	-	柳本有二	7号館4階 研究室
身体が心がうれしくなる授業を目指して								複数担当	
科目担当者	柳本有二、柳敏晴。								

授業の概要	健康スポーツ科学では、身体と心のトータルヘルスの視点から、運動・スポーツに関連する応用理論を学習した。IIでは、それぞれのスポーツ種目での活動量を歩数計で、運動強度を心拍数などで測定することにより、運動中の生理的反応を学習する。また障害者のスポーツ実践をとおして、その基礎的スキルや活動の意義を理解する。体力や健康の保持増進ができる能力をより身につけるとともに、日常生活にスポーツ活動が習慣化するための態度を育成する。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション・ガイダンス (担当者：柳、柳本)	【事前】シラバスで概要確認 【事後】授業の実施内容を把握しておく
第2回	球技の基本練習(サッカー型) (担当者：柳) 室内：ユニホック (担当者：柳本)	【事前】適切な体調管理をしておく 【事後】実施した種目などの歴史を知る
第3回	球技の応用練習(サッカー型ゲーム) (担当者：柳) 室内：インディアカ、バドミントン (担当者：柳本)	【事前】適切な体調管理をしておく 【事後】実施した種目などの歴史を知る
第4回	球技の基本練習(野球型) (担当者：柳) 室内：ゴールボール、アルティメット (担当者：柳本)	【事前】適切な体調管理をしておく 【事後】実施した種目などの歴史を知る
第5回	球技の応用練習(野球型ソフト) (担当者：柳) 室内：ブラインドサッカー、フットサル (担当者：柳本)	【事前】適切な体調管理をしておく 【事後】実施した種目などの歴史を知る
第6回	室内：バスケット型球技 (担当者：柳) 室内：ウエルネスダーツ (担当者：柳本)	【事前】適切な体調管理をしておく 【事後】実施した種目などの歴史を知る
第7回	球技の基本練習(サッカー型) (担当者：柳) 室内：ユニホック (担当者：柳本)	【事前】適切な体調管理をしておく 【事後】実施した種目などの歴史を知る
第8回	屋外：球技の応用練習(サッカー型ゲーム) (担当者：柳) 室内：インディアカ、バドミントン (担当者：柳本)	【事前】適切な体調管理をしておく 【事後】実施した種目などの歴史を知る
第9回	屋外：球技の基本練習(野球型) (担当者：柳) 室内：ゴールボール、アルティメット (担当者：柳本)	【事前】シラバスで概要確認 【事後】授業の実施内容を把握しておく
第10回	屋外：球技の応用練習(野球型ソフト) (担当者：柳) 室内：ブラインドサッカー、フットサル (担当者：柳本)	【事前】適切な体調管理をしておく 【事後】協力関係の重要性を知る
第11回	室内：バスケット型球技(1) (担当者：柳) 室内：ウエルネスダーツ(1) (担当者：柳本)	【事前】適切な体調管理をしておく 【事後】実施した種目などの歴史を知る
第12回	室内：バスケット型球技(2) (担当者：柳) 室内：ウエルネスダーツ(2) (担当者：柳本)	【事前】適切な体調管理をしておく 【事後】実施した種目などの歴史を知る
第13回	運動会型競技(A,B合同) (担当者：柳、柳本)	【事前】適切な体調管理をしておく 【事後】実施した種目などの歴史を知る
第14回	映画「東京オリンピック1」鑑賞 (担当者：柳、柳本)	【事前】適切な体調管理をしておく 【事後】実施した種目などの歴史を知る
第15回	映画「東京オリンピック2」鑑賞 (担当者：柳、柳本)	【事前】適切な体調管理をしておく 【事後】チームワークの意味を知る

学修の到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> 各スポーツ種目の身体活動量や運動強度などを把握する。 屋外スポーツの総合的な応用技術を習得する。 ニュースポーツの特性を理解する。 障がい者のスポーツを学ぶ。 	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①自己管理能力 健康の保持増進に向けて、自分の心身を適切に管理することができる。	秀	身体と心が健全で、欠席もなく、意欲的で積極的な姿勢が認められる。
	優	身体と心が健全で、積極的な姿勢が認められる。
	良	身体と心が健全で、意欲を持つための姿勢が認められる。
	可	身体と心が健全になるように努めることができる。
	不可	自己の身体と心の管理ができていない。
②探究力 毎回の授業について、自ら深く考えることができる。	秀	意欲的で積極的な探究心で、授業に参加し、さらに授業ノートや課題レポートを完成できる。
	優	積極的な探究心で、授業に参加し、さらに授業ノートや課題レポートを書くことができる。
	良	意欲的に授業に参加し、授業ノートや課題レポートを書くことができる。
	可	意欲的に授業に参加し、課題レポートを書くことができる。
	不可	探究力のある授業参加および授業ノートや課題レポートを書くことができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	50	0	0	50	0	100
評価項目	① 自己管理能力	0	25	0	0	25	0	50
	② 探究力	0	25	0	0	25	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	実技レポートとして、本授業で学んだ運動生理学的な実践および実技に関するルールや歴史などをまとめる。あるいは、それらに関連した健康情報などをまとめる。評価においては、自分の意見や主張表現の有無価が関係する。さらに、障がい者のスポーツ活動の在り方について把握しておくことが評価につながる。
	② レ	
ポートフォリオ	① レ	毎授業で書く授業感想ノートに、当時の身体と心の環境(歩数計による運動量など)や当該授業種目の経験からの感想などをまとめる(例:障がい者の気持ちなどの理解)。
	② レ	

履修に必要な知識・技能・態度など	
<ul style="list-style-type: none"> 出席は、重視する。授業ノートが評価に関係するため。また、授業に適した服装をする。集合などでは、積極的に行動する。 暑くなる時期があるので、その準備を怠らないように工夫する(水分補給など) 	
教科書・参考書	
教科書：使用しない 参考書：基礎から学ぶスポーツリテラシー	

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
人間関係論 (O21120)	講義	2	30	1	前期	選択	-	柳原利佳子	7号館5階 研究室
人間関係って難しい?								単独担当	
科目担当者	柳原利佳子								

授業の概要	人間は誕生時からさまざまな人との関係の中で生きている。互いに影響し合い、支え合いながら生活している社会的存在であると言える。一方で、現代社会において「人間関係が難しくなっている」とも言われ、人間関係の問題が個人あるいは集団にとっての関心事であり、心身の健康の維持にとっても重要な意味を有している。本講義では人間関係の基礎理論について心理学的観点から講述する。さまざまな人間関係を理解し、日常生活において自らの人間関係の理解と改善に役立てられるようにすることを目的とする。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	人的環境の必要性	【事前】シラバス内容を熟読する、人的環境の必要性について調べる 【事後】学びの確認
第2回	人間関係の形成 ー愛着理論	【事前】愛着理論について調べる 【事後】学びの確認
第3回	親子関係の理解と測定	【事前】親子関係の測定について調べる 【事後】学びの確認
第4回	人間関係の広がり	【事前】人間関係の広がりについて調べる 【事後】学びの確認
第5回	人間らしさとは	【事前】人間らしさとは何か考えておく 【事後】学びの確認
第6回	野生児の記録 (映画鑑賞)	【事前】アヴェロンの野生児について学んだことを整理しておく 【事後】学びの確認
第7回	発達心理学的観点から人間関係をふりかえる (小テスト1: 第1回～第6回まで)	【事前】第1回～第6回までを復習し小テスト対策をする 【事後】発達心理学的観点から人間関係の解釈を確認
第8回	対人魅力	【事前】対人魅力について調べる 【事後】学びの確認
第9回	態度変容① 説得	【事前】説得について調べる 【事後】学びの確認
第10回	態度変容② 集団圧力への同調	【事前】集団圧力への同調実験について調べる 【事後】学びの確認
第11回	権威への服従	【事前】権威への服従実験について調べる 【事後】学びの確認
第12回	協同と競争	【事前】協同と競争について調べる 【事後】学びの確認
第13回	ジグソー学習による協同学習	【事前】協同学習について調べる 【事後】学びの確認

第 14 回	対人関係の分析	【事前】 エゴグラムについて調べる 【事後】 学びの確認
第 15 回	補足とまとめ (小テスト 2: 第 8 回～第 14 回まで)	【事前】 第 8 回～第 14 回までを復習し小テスト対策をする 【事後】 学びの確認と期末試験対策をする

学修の到達目標	
人的環境としての人間存在の意味を考えることができる。また、心理学の視点と方法論の学びを通して、自らの人間観の醸成や人間関係を理解することができる。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①人間関係の理解について、基本的な必要な知識を身につけている。 (専門力)	秀	人間関係の理解について十分なレベルで知識を身につけている。なおかつ、得た知識を自らの過去の経験に当てはめて子どもの理解に活用できる。
	優	人間関係の理解について十分なレベルで知識を身につけている。なおかつ、得た知識を自らの過去の経験に当てはめることができる。
	良	人間関係の理解について十分なレベルで知識を身につけている。
	可	人間関係の理解について基本的な知識を身につけている。
	不可	人間関係の理解についての知識を身につけていない。
②学ぶこと・知ること、愉しさと喜びを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつながられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ること、愉しさと喜びを覚えることができない。
③自他の利害をこえて、協力して物事に取り組むことができる。 (協調性・協働性)	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協同学習することができる。それにより周囲も協同学習作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となる。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協同学習することができる。それにより周囲も協同学習のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協同学習することができる。
	可	協同学習への興味は薄い、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協同的に作業することはできる。
	不可	協同学習する意志がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	35	25	0	0	0	100
評価項目	① 専門力	40	35	0	0	0	0	75
	② 知欲	0	0	15	0	0	0	15
	③ 協調性・協働性	0	0	10	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	レポートにおいて、人間関係の理解について、考え、学ぶ姿勢が身についたかどうかを評価する。
	②		
	③		
提出物	①	レ	小テストにおいて人間関係の理解についての知識や心理学用語などの理解ができていたかどうかを評価する。
	②		
	③		
成果発表 (口頭・実技)	①		授業内に行う復習チェックや授業内において発言するなど、積極的に授業参加していたかどうかを評価する。また、グループワークの成果について口頭発表を行う。
	②	レ	
	③	レ	

履修に必要な知識・技能・態度など

私語厳禁。積極的な授業参加を期待します。

教科書・参考書

教科書：使用しない。毎回プリントを配布します。
参考書：適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
健康科学総論 (O21140)	講 義	2	30	1	後 期	選 択	-	八木孝和	5号館3階 研究室他
健康とは何かを見つめてみましょう								複数担当	
科目担当者	八木孝和、吉田幸恵、岩越美恵								

授業の概要	本講義では「健康とは何か」という命題をもとに、『健康』を科学的にとらえ、健康の維持・増進に関わる課題を学習し、自分なりの『健康観』を考えることを主眼としています。肉体的、精神的な医学上の健康という概念だけでなく、障害を持ちながら生き活きと生きることなど、社会的な側面をも包含する『健康』という言葉の持つ多様性を学ぶことで命と人格を尊重し、社会に貢献できる歯科衛生士としての基盤を創りましょう。
アクティブ・ラーニングの要素	<p>(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業</p> <p>() ディスカッション、ディベート</p> <p>() 実習、フィールドワーク</p> <p>(レ) 反転授業</p> <p>(レ) ICT (manaba) 活用の自主学习支援</p> <p>(レ) グループワーク () プレゼンテーション</p> <p>() 課題解決型学習(外部協定 有・無)</p> <p>() その他 ()</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	私の健康観① - 医学における健康の維持・増進とは (担当者：八木)	【事前】 manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと 【事後】 まとめを作成すること
第2回	私の健康観②- 障害を持って生きるとはどういうことなのか (担当者：岩越)	【事前】 健康について自身の意見を考えること 【事後】 レポート作成
第3回	私の健康観③- 歯科衛生士として健康と向き合うために - 栄養など全身を見ることの重要性 (担当者：吉田)	【事前】 健康について自身の意見を考えること 【事後】 レポート作成
第4回	「健康とは？」第1～3回のまとめ - 自分自身の健康観を考える (担当者：八木)	【事前】 1 から 3 回までの資料を読み返す 【事後】 自らの健康観についてレポート作成
第5回	歯科衛生士として知っておくべき疾病①- 生活習慣病、メタボリックシンドローム (担当者：八木)	【事前】 manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと 【事後】 まとめを作成すること
第6回	歯科衛生士として知っておくべき疾病② - 高血圧、糖尿病 (担当者：八木)	【事前】 manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと 【事後】 まとめを作成すること
第7回	歯科衛生士として知っておくべき疾病③ - 糖尿病 (担当者：八木)	【事前】 manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと 【事後】 まとめを作成すること
第8回	歯科衛生士として知っておくべき疾病③ - 虚血性心疾患 (担当者：八木)	【事前】 manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと 【事後】 まとめを作成すること
第9回	歯科衛生士として知っておくべき疾病④ - 脳血管疾患 (担当者：八木)	【事前】 manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと 【事後】 まとめを作成すること
第10回	歯科衛生士として知っておくべき疾病⑤ - 認知症、高次脳機能障害 (担当者：八木)	【事前】 manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと 【事後】 まとめを作成すること
第11回	歯科衛生士として知っておくべき疾病⑥ - タバコ (喫煙) 病 (担当者：八木)	【事前】 manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと 【事後】 まとめを作成すること
第12回	歯科衛生士として知っておくべき疾病⑦ - がん疾患 (担当者：八木)	【事前】 manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと 【事後】 まとめを作成すること
第13回	歯科衛生士として知っておくべき疾病①～⑦のまとめ (担当者：八木)	【事前】 前回までの配布資料を読み返すこと 【事後】 歯科衛生士としてできることをまとめること
第14回	摂食嚥下障害の基礎・臨床- 解剖生理、病態 (担当者：八木)	【事前】 manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと 【事後】 まとめを作成すること
第15回	口腔機能と体の機能- フレイルとオーラル・フレイル (新しい概念- 今後の医療の動向) (担当者：八木)	【事前】 manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと 【事後】 まとめを作成すること

学修の到達目標

歯科衛生士を目指す上で、必要な臨床知識を習得するために下記の内容について「できる」ことを目指す。

1. 自分自身の「健康観」を説明できる。
2. 生活習慣病（がん・心筋梗塞・脳卒中・糖尿病・認知症等）について概説できる。
3. 正常な摂食嚥下運動とその障害について概説できる。
4. 口腔の機能と全身との関連について概説できる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①各専門職の実務遂行に必要な知識を身につけている (専門力)	秀	口腔保健に関する専門基礎領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	口腔保健に関する専門基礎領域についての知識を高いレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	口腔保健に関する専門基礎領域についての知識を一定のレベルで身につけている。
	可	口腔保健に関する専門基礎領域についての知識を身につけているが十分ではない。
	不可	口腔保健に関する専門基礎領域についての知識を身につけていない。
②各専門職の実務遂行に必要な基礎知識をもとに論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	口腔保健に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	優	口腔保健に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	良	口腔保健に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき一定のレベルであるが論理的に考えることができる
	可	口腔保健に関する専門基礎領域についてある程度論理的に考えることができるが十分ではない。
	不可	口腔保健に関する専門基礎領域について論理的に考えることができない。
③学ぶこと・知ることに楽しさと喜びを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつながられる。
	優	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見いだすことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	60	0	0	0	10	100
評価項目	① 専門力	10	20	0	0	0	0	30
	② 論理力	10	20	0	0	0	0	30
	③ 知欲	10	20	0	0	0	10	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験
	②	レ	
	③	レ	
提出物	①	レ	レポートの提出内容（探求心と整理能力）
	②	レ	
	③	レ	
その他	①		出席率・受講態度・積極的な質問
	②		
	③	レ	

履修に必要な知識・技能・態度など

私語は厳禁である。各回の講義内容は事前に配布資料やそのテーマに関する事項について調べておくこと。

教科書・参考書

教科書：ありません

参考書：『4 疾病のオーラルマネジメント』 足立了平 編集 金芳堂

『知りたいことがすぐわかる高齢者歯科医療－歯科医療につながる医学知識－』 小谷順一郎 編 永末書店

『一歩進んだ口腔ケア』 足立了平 編集 金芳堂

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
国際関係論 (O21200)	講 義	2	30	1	前 期	必 修	-	濱田道夫	本館3階 学長室
グローバル化の時代を生きる								複数担当	
科目担当者	濱田道夫、内橋一恵								

授業の概要	東西冷戦の終結とともに、1990年代からグローバル化が急速に進展した。授業ではグローバル化が国際社会や地域社会にもたらした変化を概観するとともに、身近になった多文化社会をどう生きるかについて考える。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	グローバル化と国際社会 (担当: 濱田)	【事前】 シラバスを読み授業の方向を把握する。 【事後】 グローバル化について大づかみに理解する。
第2回	グローバル化と人口移動 (担当: 濱田)	【事前】 配布プリントを読み不明な点をチェックする。 【事後】 人口移動の経済的背景について確認する。
第3回	格差社会とは何か (担当: 濱田)	【事前】 配布プリントを読み不明な点をチェックする。 【事後】 格差のさまざまな様相を確認する。
第4回	経済成長の限界 (担当: 濱田)	【事前】 配布プリントを読み不明な点をチェックする。 【事後】 経済成長と環境破壊との関連を確認。
第5回	地球温暖化と国際社会 (1) (担当: 濱田)	【事前】 配布プリントを読み不明な点をチェックする。 【事後】 地球温暖化の影響について理解を深める。
第6回	地球温暖化と国際社会 (2) (担当: 濱田)	【事前】 配布プリントを読み不明な点をチェックする。 【事後】 国際的な地球温暖化対策について理解を深める。
第7回	SDGs (持続可能な開発目標) (担当: 濱田)	【事前】 配布プリントを読み不明な点をチェックする。 【事後】 国連が提唱する SDGs の意義について理解。
第8回	これまでの講義のまとめ (担当: 濱田)	【事前】 配布プリントを再読する。 【事後】 国際社会のグローバル化への対応について理解。
第9回	グローバル化と地域社会 (担当: 内橋)	【事前】 配布プリントを読み不明な点をチェックする。 【事後】 グローバル化と地域社会とのつながりを理解。
第10回	多文化共生のための教育 (1) (担当: 内橋)	【事前】 配布プリントを読み不明な点をチェックする。 【事後】 多文化共生社会と教育の関係を知る。
第11回	多文化共生のための教育 (2) (担当: 内橋)	【事前】 配布プリントを読み不明な点をチェックする。 【事後】 多文化共生社会への教育の寄与について理解する
第12回	多言語社会から複言語社会へ (担当: 内橋)	【事前】 配布プリントを読み不明な点をチェックする。 【事後】 言語の違いとコミュニケーションについて考える
第13回	伝播する民間説話 (担当: 内橋)	【事前】 配布プリントを読み不明な点をチェックする。 【事後】 古くからの人や物語の移動について理解する。
第14回	グローバル化とわたし (担当: 内橋)	【事前】 配布プリントを読み不明な点をチェックする。 【事後】 グローバル化と個人とのつながりを考える。

第 15 回	これまでの講義のまとめ (担当者：内橋)	【事前】 配布プリントを読み不明な点をチェックする。 【事後】 グローバル化する世界と地域について理解する。
--------	-------------------------	---

学修の到達目標
履修者はグローバル化の歴史と現状を知るとともに、グローバル化によってもたらされた課題に国際社会や地域社会がどう対応してきたかについて理解を深めることができる。同時に、このテーマについて論理的、系統的に説明することができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
③国際社会と国際関係に関する基本的知識を身につけている。 (教養)	秀	授業で学んだ国際社会・国際関係に関する基本的知識を十分修得し、系統的に深く理解している。
	優	授業で学んだ国際社会・国際関係に関する基本的知識を十分修得している。
	良	授業で学んだ国際社会・国際関係に関する基本的知識を修得している。
	可	授業で学んだ国際社会・国際関係に関する基本的知識をある程度修得している。
	不可	授業で学んだ国際社会・国際関係に関する基本的知識を修得していない。
②国際社会の現在について論理的に考えることができる。 (論理的思考力)	秀	授業で学んだ国際社会に関する基本的知識・概念をもとに、十分論理的に考えることができる。さらに新たな視点を示すなど豊かな構想力をもつ。
	優	授業で学んだ国際社会に関する基本的知識・概念をもとに、十分論理的に考えることができる。
	良	授業で学んだ国際社会に関する基本的知識・概念をもとに、論理的に考えることができる。
	可	授業で学んだ国際社会に関する基本的知識・概念をもとに、ある程度論理的に考えることができる。
	不可	授業で学んだ国際社会に関する基本的知識・概念をもとに、論理的に考えることができない。
③国際社会の現在を他者に説明することができる。 (表現力)	秀	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に十分説得的に伝えることができ、さらに書き言葉、話し言葉などで表現豊かである。
	優	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に十分説得的に伝えることができる。
	良	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に説得的に伝えることができる。
	可	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者にある程度説得的に伝えることができる。
	不可	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に説得的に伝えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	20	0	0	0	0	100
評価項目	① 国際社会に関する基本的知識の修得	40	0	0	0	0	0	40
	② 国際社会に関する論理的思考力	20	10	0	0	0	0	30
	③ 他者への説明	20	10	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	8回目と15回目の授業後に、レポートの提出を課す。授業で学んだ基礎知識や基本的概念をもとに、自らの意見がどれくらい論理的にまた系統的に提示できるかが試される。
	②	レ	
	③	レ	
提出物	①		授業内容の理解を深めるため、毎授業後に受講票（質問・コメント）の提出を求める。
	②	レ	
	③	レ	

履修に必要な知識・技能・態度など

国際社会や多文化社会を理解するための入門的な授業です。授業で学ぶ基本的知識をもとに、現在進行中のグローバル化を身近な問題としてとらえたい。

教科書・参考書

教科書：使用しない。講義内容に沿ったプリント・資料を毎回配布する。

参考書：随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
福祉社会の理解 (O21230)	講 義	2	30	1	後 期	選 択	-	中田康夫	7号館4階 研究室
保健医療と福祉の連携・協働と融合								単 独 担 当	
科目担当者	中田康夫								

授業の概要	福祉の基本理念としてのノーマライゼーション・自立支援やリハビリテーションについて学び、福祉サービスの基本的視点である利用者のQOLの向上とは何かを理解する。さらに、今注目されている地域福祉／地域包括ケアの意義と役割について正しく理解し、歯科衛生士として地域福祉／地域包括ケアに寄与できるようになることを目指す。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション・保健医療領域における福祉の重要性	【事前】シラバスを熟読してくる 【事後】「本日の授業のまとめ」を作成
第2回	福祉の意味・定義①(調査と整理)	【事前】授業内容に関する基礎的知識をまとめてくる 【事後】「本日の授業のまとめ」を作成
第3回	第3回 福祉の意味・定義②(発表とディスカッション)	【事前】授業内容に関する基礎的知識をまとめてくる 【事後】「本日の授業のまとめ」を作成
第4回	QOLとは?	【事前】授業内容に関する基礎的知識をまとめてくる 【事後】「本日の授業のまとめ」を作成
第5回	21世紀の保健医療福祉における地域の重要性	【事前】授業内容に関する基礎的知識をまとめてくる 【事後】「本日の授業のまとめ」を作成
第6回	地域福祉とは？(地域福祉の意義と役割) 福祉・医療政策の施策の動向	【事前】授業内容に関する基礎的知識をまとめてくる 【事後】「本日の授業のまとめ」を作成
第7回	地域における多様な福祉課題と自助・互助・共助・公助	【事前】授業内容に関する基礎的知識をまとめてくる 【事後】「本日の授業のまとめ」を作成
第8回	地域福祉を推進するために必要な条件とその整備方策	【事前】授業内容に関する基礎的知識をまとめてくる 【事後】「本日の授業のまとめ」を作成
第9回	障がい・障がい者とは？(内閣府：「障がいのある当事者からのメッセージ」を元にして)	【事前】授業内容に関する基礎的知識をまとめてくる 【事後】「本日の授業のまとめ」を作成
第10回	新しい障害モデル(国際障害分類初版(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)へ)	【事前】授業内容に関する基礎的知識をまとめてくる 【事後】「本日の授業のまとめ」を作成
第11回	ノーマライゼーション・インクルージョン・ユニバーサルデザイン	【事前】授業内容に関する基礎的知識をまとめてくる 【事後】「本日の授業のまとめ」を作成
第12回	リハビリテーションとは？(概念の再考)	【事前】授業内容に関する基礎的知識をまとめてくる 【事後】「本日の授業のまとめ」を作成
第13回	リハビリテーション≠機能訓練	【事前】授業内容に関する基礎的知識をまとめてくる 【事後】「本日の授業のまとめ」を作成
第14回	リハビリテーションの思想	【事前】授業内容に関する基礎的知識をまとめてくる 【事後】「本日の授業のまとめ」を作成
第15回	まとめ	【事前】1～14回までの授業の要点をまとめてくる 【事後】授業の総括と最終レポートに向けた準備

学修の到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の定義、社会福祉の目的について述べることができる。 ・保健医療福祉における「地域」の重要性について述べるができる。 ・障がいとリハビリテーションの思想について述べるができる。 ・口腔保健と福祉、口腔保健と地域について自己の考えを述べるができる 	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①福祉に関する基礎的な知識を修得している (知欲)	秀	基礎的な知識のみならず、能動的学習により知識を向上させようとしている。
	優	基礎的な知識を十分なレベルで修得している。
	良	基礎的な知識を修得しているが、十分なレベルには達していない。
	可	必要最低限の知識を修得している。
	不可	必要最低限の知識を修得していない。
②自己の思考や行動をリフレクト(省察)することができる (省察力)	秀	自己の課題が具体的に明示され、なおかつ実効性を伴った次への行動指針がみられる。
	優	自己の課題と次への行動指針がみられる。
	良	自己の課題はみられるが、次への行動指針が具体的かつ明瞭ではない。
	可	自己の課題はみられるが、抽象レベルに留まっている。
	不可	自己の課題と次への行動指針が明確にされていない。
③物事の本質について自ら深く考え抜くことができる (探究力)	秀	それぞれの概念について、多角的に分析・検討し、自分なりの「考え」を十全にもっている。
	優	それぞれの概念について、多角的に分析・検討し、自分なりの「考え」にもっている。
	良	それぞれの概念について、授業内の知識に留まらず、それを深めようとしている。
	可	それぞれの概念について、授業内の知識に留まっている。
	不可	それぞれの概念について、多角的に分析・検討することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	0	0	0	0	30	100
評価項目	① さらに学びたいという意欲	30	0	0	0	0	15	45
	② リフレクトする力	20	0	0	0	0	0	20
	③ 探究力	20	0	0	0	0	15	35

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	最終レポートにて評価する。
	② レ	
	③ レ	
その他	① レ	学修・課題に取り組む姿勢・態度を評価する。
	②	
	③ レ	

履修に必要な知識・技能・態度など

主体的・能動的な学修への姿勢・態度

「教員が何を教えてくれるか」ではなく「自らが何を学ぶか・学びたいか」が極めて重要である

教科書・参考書

教科書：なし

参考書：適宜紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
日本文化の理解 (O21240)	講義	1	15	1	前期	選択	-	中葉芳子	7号館2階 非常勤講師 控室
職場での活用を目指して								単独担当	
科目担当者	中葉芳子								

授業の概要	日本文化は、古代から現代まで脈々と続いてきたものである。昔とは変わってきているものが多いが、古代の風俗・習慣などを受け継いでいるものも見られる。 そこで、古代から現代まで続く文化を取り上げ、その文化が現代の文化にどのような影響を与えているかを考えていきたい。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	概説 日本文化について	【事前】 関心のある日本文化や年中行事などを考えておく。 【事後】 授業内容の復習をする。
第2回	春の暦	【事前】 家庭・地域での行事などを確認してまとめておく。 【事後】 授業内容の復習をする。
第3回	夏の暦	【事前】 家庭・地域での行事などを確認してまとめておく。 【事後】 授業内容の復習をする。
第4回	秋の暦	【事前】 家庭・地域での行事などを確認してまとめておく。 【事後】 授業内容の復習をする。
第5回	冬の暦	【事前】 家庭・地域での行事などを確認してまとめておく。 【事後】 授業内容の復習をする。
第6回	五節句（雛祭り、端午の節句など）	【事前】 家庭・地域での行事などを確認してまとめておく。 【事後】 授業内容の復習をする。
第7回	七夕、十五夜、お盆	【事前】 家庭・地域での行事などを確認してまとめておく。 【事後】 授業内容の復習をする。
第8回	正月行事（お雑煮、おせち料理、正月飾りなど）	【事前】 家庭・地域での行事などを確認してまとめておく。 【事後】 試験に向けて授業内容を確認する。

学修の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> 昔から変わらない文化、近代になって変容した文化を理解することを通して、視野を広げることを目標とする。 歯科衛生士として、勤務先での季節に合わせた行事やディスプレイが考えられるようになる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①多様な人と関わることのできる人間性の基盤として、教養を身につけている (教養)	秀	当該授業科目に関する知識を十分に修得・理解するだけでなく、さらなる理解を深め、かつその内容が秀逸である。
	優	当該授業科目に関する知識を十分に修得・理解するだけでなく、さらなる理解を深めようとしている。
	良	当該授業科目に関する知識を十分に修得・理解している。
	可	当該授業科目に関する知識を十分に修得・理解しようと努力している。
	不可	当該授業科目に関する知識・理解を修得しようという努力が見られない。
②社会の一員として知っておくべき知識を身につけている (常識力)	秀	一般常識などの社会性を人間関係において十分に発揮させ、他者と深く交流できる。
	優	一般常識などの社会性を人間関係において十分に発揮させることができる。
	良	一般常識などの社会性を人間関係において発揮させることができる。
	可	一般常識などの社会性を、なじみのある人間関係において発揮させることができる。
	不可	一般常識などの社会性が身につけていない。
③様々な考えや知識を総合して、課題の解決策をデザインすることができる (デザイン力)	秀	自発的に様々な知識や考えを総合して、課題解決策をデザインでき、そのレベルが十分に高い。
	優	自発的に様々な知識や考えを総合して、課題解決策をデザインでき、そのレベルが高い。
	良	自発的に様々な知識や考えを総合して、課題解決策をデザインできる。
	可	他者から促されることで、様々な知識や考えを総合して、課題解決策をデザインできる。
	不可	課題解決策をデザインすることができない。
④想いや考えを表現し、他者に伝えることができる (表現力)	秀	自分の内面を他者に伝えることができ、あらゆる人にとって理解しやすい表現である。
	優	自分の内面を他者に伝えるのに十分な表現力がある。
	良	自分の内面を他者に伝えるのが可能な表現力がある。
	可	自分の内面を他者に伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	0	0	0	0	40	100
評価項目	① 教養	0	0	0	0	0	20	20
	② 常識力	0	0	0	0	0	20	20
	③ デザイン力	30	0	0	0	0	0	30
	④ 表現力	30	0	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
定期試験	①	定期試験で、筆記試験を実施する。	
	②		
	③		レ
	④		レ
その他	①	受講態度・授業参加で評価する。 各回のテーマに関して、授業中の質問に回答できるようにしておくこと	
	②		レ
	③		
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など

それぞれのテーマについて、学生からの意見・経験も求めるので、積極的な授業参加を希望する。

教科書・参考書

教科書：必要に応じてプリントを配布する。

参考書：授業中に指示する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
人体の構造 (O22000)	講 義	2	30	1	前 期	必 修	-	八木孝和	5号館3階 研究室
臨床の基礎を解剖学で学ぼう								単独担当	
科目担当者	八木孝和								

授業の概要	本授業は、歯科臨床に必要な人体の正常な形態、構造、発生を理解することを目的とします。人体解剖学はすべての医学・歯学を学ぶ上で最も重要な基礎となります。従って、歯科医療に携わる者はこの知識を必ず習得していなければならないのですが、初めて歯科医学を学ぶ方にとっては、用語がたくさん出てくるので、戸惑うことも多いと思いますが、機能面を考えながら書き込み式の図を用いて、自ら学ぶことができるようにしています。また、実際の解剖学見学を行い、人体を理解する一助とします。								
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク (レ) 反転授業			(レ) ICT (manaba) 活用の自主学习支援 (レ) グループワーク () プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他 ()					

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	解剖学総論『人体の構造と機能1』(序章)	【事前】 教本・manaba 配布物の通読 【事後】 まとめ・口腔顎顔面解剖ノート名称記入など
第2回	組織学・発生学概論 『人体の構造と機能1・歯と口腔の構造と機能』 (組織と発生 顔面と口腔の発生)	【事前】 教本・manaba 配布物の通読 【事後】 まとめ・口腔顎顔面解剖ノート名称記入など
第3回	運動系1 『人体の構造と機能1』(1章 骨格系)	【事前】 教本・manaba 配布物の通読 【事後】 まとめ・口腔顎顔面解剖ノート名称記入など
第4回	運動系2 『人体の構造と機能1』(2章 筋と運動)	【事前】 教本・manaba 配布物の通読 【事後】 まとめ・口腔顎顔面解剖ノート名称記入など
第5回	内臓1 『人体の構造と機能1』(3章 消化・吸収)	【事前】 教本・manaba 配布物の通読 【事後】 まとめ・口腔顎顔面解剖ノート名称記入など
第6回	顎・顔面・口腔内観察実習	【事前】 それまでの内容の整理・見学実習に対する抱負 【事後】 見学内容のまとめ
第7回	顎・顔面・口腔内観察実習	【事前】 それまでの内容の整理・見学実習に対する抱負 【事後】 見学内容のまとめ
第8回	内臓2 『人体の構造と機能1』(6章 呼吸 8章 排泄)	【事前】 教本・manaba 配布物の通読 【事後】 まとめ・口腔顎顔面解剖ノート名称記入など
第9回	脈管系1 『人体の構造と機能1』(4章 循環)	【事前】 教本・manaba 配布物の通読 【事後】 まとめ・口腔顎顔面解剖ノート名称記入など
第10回	脈管系2 『歯・口腔の構造と機能』(2章 口腔付近の解剖学)	【事前】 教本・manaba 配布物の通読 【事後】 まとめ・口腔顎顔面解剖ノート名称記入など
第11回	神経系1 『人体の構造と機能1』(5章 神経系)	【事前】 教本・manaba 配布物の通読 【事後】 まとめ・口腔顎顔面解剖ノート名称記入など
第12回	神経系2 『人体の構造と機能1』(5章 神経系)	【事前】 教本・manaba 配布物の通読 【事後】 まとめ・口腔顎顔面解剖ノート名称記入など
第13回	神経系3 『歯・口腔の構造と機能』(2章 口腔付近の解剖学)	【事前】 教本・manaba 配布物の通読 【事後】 まとめ・口腔顎顔面解剖ノート名称記入など
第14回	感覚器系・内分泌・生殖器 『人体の構造と機能1』(7章 感覚)	【事前】 教本・manaba 配布物の通読 【事後】 まとめ・口腔顎顔面解剖ノート名称記入など

第 15 回	『人体の構造と機能 1』(10 章 内分泌 11 章 生殖)	【事前】 教本・manaba 配布物の通読 【事後】 まとめ・口腔顎顔面解剖ノート名称記入など
--------	--------------------------------	--

学修の到達目標	
様々な病態を理解し予防を考えることができる歯科衛生士となるために、下記内容が‘できる’ようになることを目指す。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の区分及び方向用語を用いた運動方向と位置関係を説明できる。 2. 骨格系の基本構造と連結様式を説明できる 3. 筋組織の種類と特徴を説明できる。 4. 呼吸器の構造を概説できる。 5. 血液循環の経路と主要な動静脈の名称を説明できる。 6. 神経系・感覚器の構造の概略を説明できる。 7. 消化器・生殖器の基本構造を概説できる。 8. 泌尿器系を概説できる。 	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①人体の機能と構造の基本知識を身に着けている。 (専門力)	秀	人体解剖に関する専門領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	人体解剖に関する専門領域についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	人体解剖に関する専門領域についての知識を一定のレベルで身につけている。
	可	人体解剖に関する専門領域についての知識を身につけているが十分ではない。
	不可	人体解剖に関する専門領域についての知識を身につけていない。
②人体の各構造の連携について論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	人体解剖に関する専門領域について客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	優	人体解剖に関する専門領域について客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	良	人体解剖に関する専門領域について一定のレベルで論理的に考えることができる。
	可	人体解剖に関する専門領域についてある程度論理的に考えることができるが十分ではない。
	不可	人体解剖に関する専門領域について論理的に考えることができない。
③学ぶこと・知ることに楽しさと喜びを覚えることができる (知欲)	秀	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	優	さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつながられる。
	良	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	ある程度自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	不可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見いだすことができる。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	40	0	0	0	10	100
評価項目	① 専門力	30	10	0	0	0	0	40
	② 論理的思考力	10	10	0	0	0	0	20
	③ 知欲	10	20	0	0	0	10	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	定期試験：どの程度の知識を得たかを評価
	②	レ	
	③	レ	
提出物	①	レ	まとめと口腔顎顔面解剖ノートの提出：完成度・考察の程度を評価
	②	レ	
	③	レ	
その他	①		出席状況・受講態度：積極性や周囲との協力度を評価
	②		
	③	レ	

履修に必要な知識・技能・態度など

講義中の私語は厳禁です。暗記しなければならない専門用語が多いので、こまめに整理しておく必要があります。授業を通じて、人体の構造（しくみ）や精密さに対して興味を持ち、もっと知りたい！という、積極的な好奇心、知欲を駆り立ててください。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能1』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 歯と口腔の機能と構造』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『口腔顎顔面解剖ノート』井出吉信 監修 学研書院

参考書：

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

学修の到達目標

様々な病態を理解し予防を考えることができる歯科衛生士となるために、下記内容が‘できる’ことを目指します。

1. 細胞の基本的生理機能が概説できる。
2. 呼吸器系・神経系の機能を概説できる。
3. 肺循環と体循環並びに心臓の構造と機能を概説できる。
4. 運動器系・消化器系の基本機能について概説できる。
5. ホルモンの働きについて概説できる。
6. 尿の生成と体液の調節について概説できる。

高齢化社会にともなって変化する歯科医療に対応できる歯科衛生士となるために、下記内容が‘できる’ことを目指します。

1. 加齢と老化を説明できる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①人体の機能に関する知識を身につけている (専門力)	秀	人体の機能に関する専門基礎領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	人体の機能に関する専門基礎領域についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	人体の機能に関する専門基礎領域についての知識を一定のレベルで身につけている。
	可	人体の機能に関する専門基礎領域についての知識を身につけているが十分ではない。
	不可	人体の機能に関する専門基礎領域についての知識を身につけていない。
②人体の機能に関する基礎知識をもとに論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	人体の機能に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	優	人体の機能に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	良	人体の機能に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき一定のレベルであるが論理的に考えることができる。
	可	人体の機能に関する専門基礎領域についてある程度論理的に考えることができるが十分ではない。
③学ぶこと・知ること に楽しさと喜びを覚 えることができる (知欲)	秀	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつながられる。
	優	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見いだすことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	40	0	0	0	10	100
評価項目	① 専門力	30	10	0	0	0	0	40
	② 論理的思考力	20	20	0	0	0	0	40
	③ 知欲	0	10	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験
	②	レ	
	③		
提出物	①	レ	まとめなどのレポートの提出：まとめレポートは出席者のみ点数として評価します。
	②	レ	
	③	レ	
その他	①		出席数・受講態度・積極的な発言
	②		
	③	レ	

履修に必要な知識・技能・態度など

私語は厳禁。

講義は、解剖学など他の領域の知識も必要なため、講義の進行状況・理解度により本シラバスの内容は適宜変更する。覚えるべき項目が多いため予習・復習は欠かさないようにしてください。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能1』全国歯科衛生士教育協議会 監修医歯薬出版

参考書：『標準生理学』小澤澁司、福田康一郎 総編集 医学書院

『基礎歯科生理学第6版』森本 俊文, 山田 好秋, 二ノ宮 裕三, 岩田 幸一 医歯薬出版株式会社
 歯科衛生士テキスト「生理学」 学建書院

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
口腔の構造 (O22020)	講義	3	45	1	前期	必修	-	竹内雅規	7号館2階 非常勤講師 控室
歯科治療に役立つ基礎知識								単独担当	
科目担当者	竹内雅規								

授業の概要	近年、歯科衛生士の活躍分野が広がっており、その役割も大きくなっている。衛生士としての基礎として口腔解剖学を学び、さらに歯列の発育・成長・咀嚼機能と加齢変化、口腔機能の回復など最新の研究および治療にも対応できる歯科衛生士の養成を目指し講義を行う。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	総論①(歯の定義、歯の機能、歯の組織、歯の形態、歯の種類数、歯の表記法)	【事前】歯の形態について 【事後】
第2回	総論②(方向用語、歯の各部の名称、根管形態、歯に共通する形態的特徴)	【事前】歯の用語、根管の形態、左右の識別 【事後】歯の形態、歯式、種類等
第3回	永久歯の形態①(切歯、犬歯)	【事前】永久歯(切歯、犬歯)(上下) 【事後】歯の用語、根管、左右の識別
第4回	永久歯の形態②(小白歯)	【事前】小白歯(上下) 【事後】切歯(中切歯、側切歯)、犬歯
第5回	永久歯の形態③(大白歯 上顎)	【事前】上顎大白歯 【事後】小白歯
第6回	永久歯の形態④(大白歯 下顎)	【事前】下顎大白歯 【事後】上顎大白歯
第7回	乳歯の形態	【事前】乳歯(上下A~E)の形態 【事後】下顎大白歯
第8回	歯の異常、歯列と咬合	【事前】歯の異常、歯列と咬合 【事後】乳歯の形態
第9回	歯の発生	【事前】歯の発生(蕾状期、帽状期、鐘状期等) 【事後】歯の異常、歯列
第10回	エナメル質	【事前】歯、歯周組織の構造と機能、エナメル質 【事後】歯の発生
第11回	象牙質・歯髄①(象牙質の機能、構造等)	【事前】象牙質の機能、構造 【事後】エナメル質
第12回	象牙質・歯髄②(歯髄の構造)	【事前】歯髄の構造、機能 【事後】象牙質
第13回	セメント質、歯根膜	【事前】セメント質、歯根膜の機能、構造 【事後】歯髄
第14回	歯槽骨、口腔粘膜	【事前】歯槽セメント質、歯根膜 【事後】セメント質、歯根膜
第15回	歯肉	【事前】歯肉の機能、構造 【事後】セメント質、歯根膜

学修の到達目標

歯および歯周組織、当該顔面に関する解剖学的、組織学的構造および機能を理解する。
 歯の形態を理解、説明できるようにする。各歯牙の歯種を鑑別できるようにする。
 歯の萌出順、歯列と咬合を理解する。歯の発生の概要を理解する。
 エナメル質、象牙質、セメント質の形成、機能の違いを理解する。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①各専門職の実遂行に必要な知識・技能を身につける (専門力)	秀	臨床検査・看護・教養・口腔保健、自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムをもち合わせている。
	優	臨床検査・看護・教養・口腔保健、自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも伴っている。
	良	臨床検査・看護・教養・口腔保健、自らの専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	臨床検査・看護・教養・口腔保健、自らの専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	臨床検査・看護・教養・口腔保健、自らの専門領域についての知識・技術を身につけていない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		90	0	0	0	0	10	100
評価項目	① 専門性知識の習得	90	0	0	0	0	10	100

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ 定期試験(筆記試験)を行う
その他	①	レ 小テスト等

履修に必要な知識・技能・態度など

歯科治療の基礎となる名称、形態、歯式、各歯牙の特徴、組織発生を理解し、活用する。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』
 全国歯科衛生士教育協議会 監修
 参考書：随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
口腔の機能 (O22030)	講 義	2	30	1	前 期	必 修	-	八木孝和	5号館3階 研究室
口腔領域の機能のすばらしさを考える								単独担当	
科目担当者	八木孝和								

授業の概要	<p>本講義では、顎口腔・顔面領域の諸器官の生理機能について解説する。特に正常な咀嚼機能・嚥下運動および構音機能の形成および維持を目標とする歯科医学の基礎として、顎口腔・顔面領域の構造を咀嚼・嚥下および構音の器官系と捉えて、その運動・感覚・自律機能について理解することを目的とする。運動機能としては、咀嚼運動、嚥下運動、構音運動を中心として顎・舌・顔面の運動およびその協調の神経・筋機構を対象とし、感覚機能としては、顎口腔・顔面領域の体性感覚とともに味覚を取り扱う。</p> <p>また、自律機能としては唾液分泌を中心に解説する。さらに歯科臨床と関連の深い「咬合」や「歯痛」について、その神経機構を解説する。</p>	
アクティブ・ラーニングの要素	<input checked="" type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> 反転授業	<input checked="" type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	口腔生理学総論、歯および支持組織の生理	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第2回	顎・口腔・顔面感覚の特徴と意義1 (歯の感覚および歯痛)	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第3回	顎・口腔・顔面感覚の特徴と意義2 (顔面皮膚、口腔粘膜、口唇の感覚)	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第4回	臭覚	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第5回	味覚器の構造と味覚受容機	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第6回	味覚情報の伝達	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第7回	咬合と下顎位	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第8回	顎運動と顎反射	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第9回	摂食行動	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第10回	咀嚼運動の制御機構	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第11回	咬合力と咀嚼能力	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第12回	吸啜運動と舌運動	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第13回	嚥下、嘔吐とその制御機構	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第14回	発声機構	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等

第 15 回	唾液腺の構造と機能	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
--------	-----------	--

学修の到達目標

1. 顎口腔領域の機能維持を理解するために、下記内容について‘できる’を目指す。
 - ①頭頸部の基本的な構造並びに機能が概説できる。
 - ②三叉神経と顔面神経の走行と線維構成が説明できる。
 - ③顎関節の機能を概説できる。
 - ④下顎の運動・味覚・吸啜・嘔吐について概説できる。
 - ⑤摂食・咀嚼・嚥下の機序を説明できる。
 - ⑥舌の機能を説明できる。
 - ⑦唾液の性状と役割について説明できる。
 - ⑧音声器官としての口腔を概説できる。
2. 高齢化社会にともなって変化する歯科医療に対応できる歯科衛生士となるために、下記内容について‘できる’を目指す。
 - ①口腔・顎顔面の老化と歯の喪失に伴う変化を説明できる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①人体の機能に関する知識を身につけている (専門力)	秀	口腔生理機能に関する専門基礎領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	口腔生理機能に関する専門基礎領域についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	口腔生理機能に関する専門基礎領域についての知識を一定のレベルで身につけている。
	可	口腔生理機能に関する専門基礎領域についての知識を身につけているが十分ではない。
	不可	口腔生理機能に関する専門基礎領域についての知識を身につけていない。
②人体の機能に関する基礎知識をもとに論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	口腔生理機能に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	優	口腔生理機能に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	良	口腔生理機能に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき一定のレベルであるが論理的に考えることができる。
	可	口腔生理機能に関する専門基礎領域についてある程度論理的に考えることができるが十分ではない。
	不可	口腔生理機能に関する専門基礎領域について論理的に考えることができない。
③学ぶこと・知ること に楽しさと喜びを覚えることができる (知欲)	秀	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつながられる。
	優	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見いだすことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	40	0	0	0	10	100
評価項目	① 専門力	40	10	0	0	0	0	50
	② 論理的思考力	10	10	0	0	0	0	20
	③ 知欲	0	20	0	0	0	10	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験
	②	レ	
	③		
提出物	①	レ	まとめなどのレポートの提出：まとめレポートは出席者のみ点数として評価します。
	②	レ	
	③	レ	
その他	①		出席数・受講態度・積極的な発言
	②		
	③	レ	

履修に必要な知識・技能・態度など

私語は厳禁。

講義は、口腔解剖学等の領域の知識も必要なため、講義の進行状況・理解度により本シラバスの内容は適宜変更する。覚えるべき項目が多いため予習・復習は欠かさないようにしてください。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能1』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

参考書：『標準生理学』 小澤澗司、福田康一郎 総編集 医学書院

『基礎歯科生理学第6版』 森本俊文、山田好秋、二ノ宮裕三、岩田幸一 医歯薬出版株式会社
 歯科衛生士テキスト「生理学」 学建書院

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
生化学・栄養学 (O22040)	講 義	2	30	1	後 期	必 修	-	八木孝和	5号館3階 研究室等
口腔からえられる健康の基本を考えよう								複数担当	
科目担当者	八木孝和、川野亜希								

授業の概要	本講義では、分子レベルで進歩する歯科医学を理解するために、栄養学の基盤となる生化学の基礎知識を養います。次に、生化学で得た知識をもとに栄養学の基礎を学び、口腔を専門として扱う歯科衛生士として栄養指導ができるようになるための基盤づくりを行います。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク (レ) 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク () プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	I編1章 生体の構成要素 総論 (担当者：八木)	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第2回	I編1章 生体の構成要素 各論1 (担当者：八木)	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第3回	I編1章 生体の構成要素 各論2 (担当者：八木)	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第4回	I編2章 生体における化学反応 (担当者：八木)	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第5回	I編3章 糖質と脂質の代謝 (担当者：八木)	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第6回	I編4章 タンパク質とアミノ酸の代謝 (担当者：八木)	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第7回	I編5章 生体における恒常性の維持 (担当者：八木)	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第8回	II編1章 歯と歯周組織の生化学 (担当者：八木)	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第9回	II編2章 硬組織の生化学 (担当者：八木)	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第10回	II編3章 唾液の生化学 (担当者：八木)	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第11回	II編4章 プラークの生化学1 (担当者：八木)	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第12回	II編4章 プラークの生化学2 (担当者：八木)	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第13回	III編1章 栄養の基礎知識・2章 食事摂取基準 (担当者：川野)	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第14回	III編3章 栄養の働き (担当者：八木)	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第15回	IV編1章 食生活と健康 (担当者：八木)	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等

学修の到達目標	
人体の生命現象を分子レベルで理解するために、下記内容について‘できる’を目指す。 ①生体の構成要素・化学反応・エネルギー代謝について説明できる。 ②糖質・脂質・タンパク質の代謝とその酵素の種類と作用を説明できる。 ③生体における恒常性について説明できる。 口腔における生命現象の分子レベルで理解するために、下記内容について‘できる’を目指す。 ①歯と歯周組織・硬組織について生化学的な概説ができる ②唾液とデンタルプラークに関する説明ができる 人間が生命を維持するために重要な栄養・食生活を理解するために、下記内容について‘できる’を目指す。 ①栄養と健康について概説できる ②食事摂取基準について説明できる ③栄養素の働きと食品の成分について概説できる ④食生活と健康について概説できる	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①人体の栄養と代謝に関する基本的な知識を身につけている (専門力)	秀	人体の栄養と代謝に関する専門基礎領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	人体の栄養と代謝に関する専門基礎領域についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	人体の栄養と代謝に関する専門基礎領域についての知識を一定のレベルで身につけている。
	可	人体の栄養と代謝に関する専門基礎領域についての知識を身につけているが十分ではない。
	不可	人体の栄養と代謝に関する専門基礎領域についての知識を身につけていない。
②人体の栄養と代謝に関する知識をもとに論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	人体の栄養と代謝に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	優	人体の栄養と代謝に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	良	人体の栄養と代謝に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき一定のレベルであるが論理的に考えることができる。
	可	人体の栄養と代謝に関する専門基礎領域についてある程度論理的に考えることができるが十分ではない。
	不可	人体の栄養と代謝に関する専門基礎領域について論理的に考えることができない。
③学ぶこと・知ること に楽しさと喜びを覚 えることができる (知欲)	秀	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつながられる。
	優	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見いだすことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	40	0	0	0	10	100
評価項目	① 専門力	40	10	0	0	0	0	50
	② 論理的思考力	10	20	0	0	0	0	30
	③ 知欲	0	10	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験
	②	レ	
	③		
提出物	①	レ	まとめなどのレポートの提出：まとめレポートは出席者のみ点数として評価します。
	②	レ	
	③	レ	
その他	①		出席数・受講態度・積極的な発言
	②		
	③	レ	

履修に必要な知識・技能・態度など

私語は厳禁。予め教科書と配布資料に目を通しておくことが望まれる。
 講義領域は他の分野とも関連するため、前回の授業だけでなく、他の領域と関連づけると理解が深まります。
 自分が必要と思うことは必ずノートに書くこと。
 講義の進行状況・理解度により本シラバスの内容は適宜変更する。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
 参考書：『口腔生化学 第6版』 早川 太郎 須田 立雄 監修 医歯薬出版
 『イラストでわかる歯科医学の基礎（第3版）』 溯端孟 他監修 永末書店

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
薬理学 (O22050)	講義	2	30	1	後期	必修	-	八木孝和	5号館3階 研究室他
薬はどのように効くのか? — 歯科治療と薬 —								複数担当	
科目担当者	國友勝*、八木孝和								

授業の概要	薬理学は、薬物（医薬品）の生体に及ぼす作用を学修する分野である。歯科領域では多くの薬物が使用され、また、複数の薬物を服用している高齢者や複数の疾患を有する患者が歯科治療を受ける機会も増えている。本講義では、歯科衛生士として必要な薬理学の基礎的な知識を修得するため、代表的薬物の作用と作用機序、投与方法、副作用などを学修し、薬物の安全かつ適切な使用法を学ぶ。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input checked="" type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> 反転授業	<input checked="" type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	総論①：薬理学の概念、薬物療法の分類、医薬品医療機器法と日本薬局方、薬物の剤形、薬物の保存（担当者：國友）	【事前】 授業内容を教科書で調べる。 【事後】 学習した知識を反復理解する。
第2回	総論②：薬理作用、薬物の作用機序、薬物の用量と作用（担当者：國友）	【事前】 授業内容を教科書で調べる。 【事後】 学習した知識を反復理解する。
第3回	総論③：薬物の投与方法と体内動態、薬物の作用を規定する因子（担当者：國友）	【事前】 授業内容を教科書で調べる。 【事後】 学習した知識を反復理解する。
第4回	総論④：薬物の副作用・有害作用・相互作用(担当者：國友)	【事前】 授業内容を教科書で調べる。 【事後】 学習した知識を反復理解する。
第5回	末梢神経系に作用する薬物：シナプス伝達、自律神経系作用薬（担当者：國友）	【事前】 授業内容を教科書で調べる。 【事後】 学習した知識を反復理解する。
第6回	中枢神経系に作用する薬物：全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬、抗うつ薬、抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬（担当者：國友）	【事前】 授業内容を教科書で調べる。 【事後】 学習した知識を反復理解する。
第7回	呼吸器系・循環器系に作用する薬物：気管支喘息治療薬、高血圧治療薬、心不全治療薬、狭心症治療薬（担当者：國友）	【事前】 授業内容を教科書で調べる。 【事後】 学習した知識を反復理解する。
第8回	消化器系に作用する薬物：消化性潰瘍治療薬（担当者：國友）	【事前】 授業内容を教科書で調べる。 【事後】 学習した知識を反復理解する。
第9回	代謝系に作用する薬物：糖尿病治療薬、骨粗しょう症治療薬（担当者：國友）	【事前】 授業内容を教科書で調べる。 【事後】 学習した知識を反復理解する。
第10回	局所麻酔に用いる薬物：局所麻酔薬 止血・抗凝血に用いる薬物：止血薬、抗凝固薬（担当者：國友）	【事前】 授業内容を教科書で調べる。 【事後】 学習した知識を反復理解する。
第11回	痛み・炎症に用いる薬物：麻薬性鎮痛薬、ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬、抗ヒスタミン薬（担当者：國友）	【事前】 授業内容を教科書で調べる。 【事後】 学習した知識を反復理解する。
第12回	感染症・悪性腫瘍に用いる薬物：消毒薬、抗菌薬、抗がん薬 免疫調節に用いる薬物：免疫抑制薬、ワクチン（担当者：國友）	【事前】 授業内容を教科書で調べる。 【事後】 学習した知識を反復理解する。
第13回	歯・歯髄疾患と薬：齲蝕の予防に用いる薬物、歯・歯髄疾患の治療に用いる薬物（担当者：八木）	【事前】 事前に公開された授業内容を教科書で調べる。 【事後】 学習した知識をまとめて理解する。

第14回	歯周疾患と薬：歯周治療における薬物療法、急性炎症に用いる薬物 (担当者：八木)	【事前】事前に公開された授業内容を教科書で調べる。 【事後】学習した知識をまとめて理解する。
第15回	服薬指導：一般的な服薬指導、対象者別の服薬指導 (担当者：八木)	【事前】事前に公開された授業内容を教科書で調べる。 【事後】学習した知識をまとめて理解する。

学修の到達目標	
歯科衛生士として必要な薬物について理解するために以下の項目について‘できる’ようになることを目指す。	
1. 薬物の作用に関する基礎的な知識を修得し、その概要を説明できる。	
2. 歯科治療で使用される薬物の適正使用について説明できる。	
3. 全身疾患を有する患者が歯科治療を受ける際の注意点について説明できる。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①薬物の作用を理解するために必要な基礎知識を身に付けている。 (専門力)	秀	薬理学の基礎知識を十分なレベルで身につけ、その内容を正しく理解できている。
	優	薬理学の基礎知識をほぼ完全なレベルで身につけ、その内容を一定水準以上理解できている。
	良	薬理学の基礎知識をかなりのレベルで身につけ、その内容をある程度理解できている。
	可	薬理学の基礎知識を部分的に身につけ、その内容を何とか理解できている。
	不可	薬理学の基礎知識を修得しようとする努力が見られない。
②歯科治療時に注意すべき薬物投与について理解できている。 (論理的思考力)	秀	歯科治療時に注意すべき薬物投与について十分に説明できる。
	優	歯科治療時に注意すべき薬物投与について一定水準以上説明できる。
	良	歯科治療時に注意すべき薬物投与についてある程度説明できる。
	可	歯科治療時に注意すべき薬物投与について辛うじて説明できる。
	不可	歯科治療時に注意すべき薬物投与について全く説明できない。
③学ぶこと・知ること に楽しさと喜びを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつながられる。
	優	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見いだすことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びをみいだすことがなく、全く学修をしない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	10	10	0	0	20	100
評価項目	① 薬物の作用に関する基礎知識と歯科治療時の注意点についての修得	60	0	0	0	0	0	60
	② 授業への積極性	0	5	10	0	0	20	35
	③ 知欲	0	5	0	0	0	0	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	筆記試験
	②	
	③	
提出物	①	課題レポート：期限を守ること、考察・参考文献は必ずつけること、創造性の豊かな内容であれば高評価につながります。整理能力も問われますので、よく考えて作成すること。
	②	
	③	
成果発表 (口頭・実技)	①	講義中にグループワークによる発表を行います。インターネットなどを活用して、積極的な情報収集を行うこと。
	②	
	③	
その他	①	授業への積極性（出席・遅刻）、受講態度（私語は厳禁）
	②	
	③	

履修に必要な知識・技能・態度など

本科目を履修するには、人体の構造と機能、口腔の構造と機能、生化学、病原微生物学・免疫学の知識が必要であり、予め教科書に目を通しておくことが望まれる。私語は厳禁。

講義の進行状況・理解度により本シラバスの内容は適宜変更する。

教科書・参考書

教科書：『歯科衛生士テキスト 最新薬理学 疾病の成り立ち及び回復過程の促進』 大浦清、戸荻彰史 編 学建書院

参考書：『最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学』

全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
病原微生物学・免疫学 (O22060)	講 義	2	30	1	前 期	必 修	-	柳田学	5号館3階 研究室等
私たちの周りに潜む感染症について学ぶ								複数担当	
科目担当者	柳田学、川野亜紀								

授業の概要	歯科の二大疾患であるう蝕と歯周病は病原微生物による感染症である。私たちをとりまく病原微生物と、それらに対する生体防御機構をはじめとするヒトの免疫制御機構について解説する。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	微生物と感染症 (担当: 柳田)	【事前】 シラバスに目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第2回	微生物の病原性: 細菌感染症1 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第3回	微生物の病原性: 細菌感染症2 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第4回	微生物の病原性: 細菌感染症3 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第5回	微生物の病原性: ウイルス感染症1 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第6回	微生物の病原性: ウイルス感染症2、その他の感染症 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第7回	免疫機構: 免疫学総論 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第8回	免疫機構: 自然免疫と獲得免疫 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第9回	免疫機構: アレルギー (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第10回	口腔微生物の種類と生態 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第11回	う蝕と口腔微生物 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第12回	歯周病原細菌 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第13回	歯周病の病原因子と宿主因子 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第14回	口腔感染症と抗菌薬 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第15回	感染症の予防、消毒滅菌 (担当: 川野)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること

学修の到達目標

1. 病原微生物の感染機構を説明できる。
2. 生体防御機構、免疫担当細胞の機能を説明できる。
3. デンタルプラークの形成と、その構成微生物叢を説明できる。
4. う蝕、歯周病に関わる病原微生物の種類、病原性、病態との関係を説明できる。
5. 感染症予防、化学療法の目的、原理を説明できる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①病原微生物学・免疫学の知識を身につけている (専門力)	秀	病原微生物学・免疫学の専門領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	病原微生物学・免疫学の専門領域についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	病原微生物学・免疫学の専門領域についての知識を一定のレベルで身につけている。
	可	病原微生物学・免疫学の専門領域についての知識を身につけているが十分ではない。
	不可	病原微生物学・免疫学の専門領域についての知識を身につけていない。
②病原微生物学・免疫学の知識をもとに論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	病原微生物学・免疫学の専門領域について客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	優	病原微生物学・免疫学の専門領域について客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	良	病原微生物学・免疫学の専門領域について客観的な根拠に基づき一定のレベルであるが論理的に考えることができる。
	可	病原微生物学・免疫学の専門領域についてある程度論理的に考えることができるが十分ではない。
	不可	病原微生物学・免疫学の専門領域について論理的に考えることができない。
③学ぶこと・知ること に楽しさと喜びを覚 えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつながられる。
	優	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見いだすことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	0	0	0	0	30	100
評価項目	① 専門力	60	0	0	0	0	0	60
	② 論理的思考力	10	0	0	0	0	10	20
	③ 知欲	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ
	②	レ
	③	
提出物	①	
	②	レ
	③	レ

履修に必要な知識・技能・態度など

予め教科書に目を通しておくことが望まれる。私語は厳禁。
 自分が必要と思うことは必ずノートに書くこと。
 講義の進行状況・理解度により本シラバスの内容は適宜変更する。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学』
 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
 参考書：なし

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

学修の到達目標	
1. 病理学総論において、疾患の発症メカニズムに関わる様々な現象および理論を習得し、個々の病態を論理的に理解できる能力を身につける。	
2. 口腔病理学において、病理学総論で習得した知識を基礎として、口腔領域に発生する疾病の病因および病態を理解し、臨床科目を履修する上で必須となる基礎的学識を習得する。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士の実務遂行に必要な知識を身につけている。 (専門力)	秀	歯科衛生士として専門的な知識を十分身につけており、かつ幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムを持ち合わせている。
	優	歯科衛生士として専門的な知識を十分身につけており、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	歯科衛生士として専門的な知識を身につけており、最低限のプロフェッショナリズムも伴っている。
	可	歯科衛生士として専門的な知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	歯科衛生士として専門的な知識を身につけていない。
② 社会の一員として知っておくべき知識・振る舞いを身につけている。 (常識力)	秀	講義にすべて出席し、かつ小テストにおいても病理学の知識を確実に身につけている。
	優	講義にほぼ出席し、かつ小テストにおいても病理学の知識を高いレベルで身につけている。
	良	講義にほぼ出席し、かつ小テストにおいても病理学の知識を一定レベルで身につけている。
	可	講義にほぼ出席し、かつ小テストにおいても病理学の知識を最低限身につけている。
	不可	受講に消極的で、かつ病理学的知識の習得に乏しい。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		90	0	0	0	0	10	100
評価項目	① 知識の修得	90	0	0	0	0	0	90
	② 受講態度と基礎的な知識の修得	0	0	0	0	0	10	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	衛生士国家試験形式に準じた筆記試験を実施する。
	②	
その他	①	小テストおよび授業に対する積極性と受講態度により評価する。
	② レ	

履修に必要な知識・技能・態度など	
1. 前回の講義内容を復習するとともに、予め教科書に目を通して授業に臨む。	
2. 「病変」および「異常」を理解する上で、解剖学および生理学的な「正常」についての知識が整理されていることが望ましい。	
教科書・参考書	
教科書：『最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1 病理学・口腔病理学』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版	
参考資料：講義毎にスライドの資料を配布	

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
口腔衛生学 (O22100)	講義	2	30	1	前期	必修	-	柳田学	5号館3階 研究室等
歯科衛生士が担う口腔の健康								複数担当	
科目担当者	柳田学、川野亜紀								

授業の概要	口腔の健康と疾患予防法を理解する。また、口腔の健康が国民の健康、QOLの向上にどのように関わるかを考えられるようにする。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	口腔衛生学の概要 (担当者：柳田)	【事前】 予めシラバスに目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第2回	疾病予防の概念 (担当者：柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第3回	口腔の構造 (担当者：柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第4回	唾液の働き (担当者：柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第5回	歯・口腔の沈着物 (歯石) (担当者：柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第6回	歯・口腔の沈着物 (デンタルプラーク) (担当者：柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第7回	歯磨剤 (担当者：柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第8回	歯科・口腔疾患の疫学 (担当者：柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第9回	う蝕の病因 (担当者：柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第10回	フッ素の役割 (う蝕予防) (担当者：柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第11回	フッ素の役割 (慢性中毒について) (担当者：柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第12回	歯周疾患の病因 (担当者：柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第13回	歯周疾患の予防 (担当者：川野)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第14回	口腔乾燥症・口臭 (担当者：柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第15回	まとめ (担当者：柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 全ての講義ノート、教科書の該当部を再読すること

学修の到達目標

1. 口腔の機構について説明できる。
2. 口腔と全身の健康への関わりについて説明できる。
3. 歯・口腔の付着物・沈着物に対する清掃手段を説明できる。
4. う蝕・歯周病の発症機序およびその予防法を説明できる。
5. 健康に関わる地域の取り組みについて説明できる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①口腔衛生学の知識を身につけている (専門力)	秀	口腔衛生学の専門領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	口腔衛生学の専門領域についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	口腔衛生学の専門領域についての知識を一定のレベルで身につけている。
	可	口腔衛生学の専門領域についての知識を身につけているが十分ではない。
	不可	口腔衛生学の専門領域についての知識を身につけていない。
②口腔衛生学のあり方について深く考え、その本質を見極めようとする事ができる (探求力)	秀	自発的に口腔衛生学のあり方について十分に突き詰めていくことができる。
	優	口腔衛生学のあり方について十分に突き詰めていくことができる。
	良	口腔衛生学についてある程度突き詰めていくことができる。
	可	他者から促されれば、ある程度突き詰めていくことができる。
	不可	自ら突き詰めていくことができない。
③学ぶこと・知ること に楽しさと喜びを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつながられる。
	優	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見いだすことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	0	0	0	0	30	100
評価項目	① 専門力	60	0	0	0	0	0	60
	② 探求力	10	0	0	0	0	10	20
	③ 知欲	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験
	②	レ	
	③		
その他	①		受講態度・積極的な質問
	②	レ	
	③	レ	

履修に必要な知識・技能・態度など

専門用語が多いのでこまめに復習すること。私語厳禁、ただし質問は歓迎します。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 保健生態学 第3版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

参考書：なし

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
公衆衛生学 (O22110)	講義	2	30	1	後期	必修	-	新庄文明	7号館2階 非常勤講師 控室
人々の健康な生活を支える社会のしくみ								単独担当	
科目担当者	新庄文明								

授業の概要	公衆衛生学は疾病の発生要因を広く社会との関連から追求し、疾病予防や健康の維持・増進に貢献する学問である。診療室における医学的・臨床的な対処だけでなく、人々の生活改善や、その環境を整えるための社会への働きかけによって、健康を確保することをめざすものであり、予防医学あるいは社会医学とも呼ばれる。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他 (個々の学生との対話形式にて思考方法、理解度を確認する)

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	予防医学という考え方 (1章)	【事前】教科書の該当章の通読 【事後】配布プリントによる理解
第2回	衛生統計 人口予防医学という考え方 (1章) ならびに健康の指標 (2章)	【事前】教科書の該当章の通読 【事後】配布プリントによる理解
第3回	環境の健康影響と環境保全 (3章)	【事前】教科書の該当章の通読 【事後】配布プリントによる理解
第4回	疫学の考え方 疾病の原因と予防手段をさぐる (4章)	【事前】教科書の該当章の通読 【事後】配布プリントによる理解
第5回	感染症 (1) 感染と感染予防 (5章)	【事前】教科書の該当章の通読 【事後】配布プリントによる理解
第6回	感染症 (2) 感染症と院内感染予防 (5章)	【事前】教科書の該当章の通読 【事後】配布プリントによる理解
第7回	食品と健康 栄養確保と食品衛生 (6章)	【事前】教科書の該当章の通読 【事後】配布プリントによる理解
第8回	生活習慣と健康 (7章)	【事前】教科書の該当章の通読 【事後】配布プリントによる理解
第9回	地域保健 (1) 地域保健とその組織 (8章)	【事前】教科書の該当章の通読 【事後】配布プリントによる理解
第10回	地域保健 (2) 地域保健活動とその成果 (8章)	【事前】教科書の該当章の通読 【事後】配布プリントによる理解
第11回	母子保健: 母性保護と育児 (9章) 学校保健: 学校保健と保健教育 (10章)	【事前】教科書の該当章の通読 【事後】配布プリントによる理解
第12回	地域と職場における成人の健康管理 (11章・12章)	【事前】教科書の該当章の通読 【事後】配布プリントによる理解
第13回	老人保健と老人医療 (11章)	【事前】教科書の該当章の通読 【事後】配布プリントによる理解
第14回	介護予防と老人福祉 (11章)	【事前】教科書の該当章の通読 【事後】配布プリントによる理解
第15回	介護予防と老人福祉 (11章) こころの健康と精神衛生 (13章)	【事前】教科書の該当章の通読 【事後】配布プリントによる理解

学修の到達目標

疾病の発生予防（一次予防）、早期発見と早期の対処（二次予防）、そしてリハビリテーション（三次予防）に至る予防の各段階を通して、個人のライフステージに対応した、また集団の規模に応じた、健康リスクを軽減するための方法論を習得する。地球規模の健康問題に対する理解と地域保健・医療・福祉における専門家の役割を理解し、問題発見から問題解決を見据えた態度・習慣を身につけ、地域の特性に応じた実践を担う判断力、人々の生命と人格を尊重した健康政策と、対人関係形成能力、ならびに科学的な考え方と問題解決能力を身につける。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①専門職としての実務遂行に必要な知識・技能を身につけている (専門力)	秀	口腔保健の専門家としての公衆衛生に関する知識・技能を十分に身につけ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムを待ち合わせている。
	優	口腔保健の専門家としての公衆衛生に関する知識・技能を十分に身につけ、一定のプロフェッショナリズムを待ち合わせている。
	良	口腔保健の専門家としての公衆衛生に関する知識・技能を十分に身につけている。
	可	口腔保健の専門家としての公衆衛生に関する知識・技能を身につけている。
	不可	口腔保健の専門家としての公衆衛生に関する知識・技能を身につけていない。
②根拠に基づき論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができ、かつ根拠の限界を知り、自らの思考内容にみでは十分でないことを理解している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	根拠は薄くても論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
③物事を多角的・批判的に捉え、考えることができる (批判的思考力)	秀	物事を十分多角的に検討し、内容を批判的・総合的に判断することができ、既存の知識に限界があることを理解している。
	優	物事を十分多角的に検討し、内容を批判的・総合的に判断することができる。
	良	物事をある程度多角的に検討し、内容を批判的・総合的に判断することができる。
	可	物事をある程度は多角的に検討し、判断することができる。
	不可	物事を理解するが、多角的・批判的かつ総合的に判断することができない。
④物事のあり方について深く考え、本質を見極めようとする ことができる (探求力)	秀	自発的に物事について関心を示し、その本質を見極めようとする ことができ、探求するにとどまらず、それを実行に移すことができる。
	優	自発的に物事について関心を示し、その本質を見極めよう することができる。
	良	ある程度、物事について関心を示し、その本質を見極めよう することができる。
	可	他者に指摘された物事について、その本質をある程度、見極め ようとする。
	不可	物事の本質を見極めようとする ことができない。
⑤自分の思いや考えを表現し、他者に伝える ことができる (表現力)	秀	自分の思いや考えを表現し、他者に伝えるために必要な、書き言葉、話し言葉、非言語的表現力を持ち合わせている。
	優	自分の思いや考えを表現し、他者に伝えるための十分な表現力がある。
	良	自分の思いや考えを表現し、他者に伝える表現力がある程度はある。
	可	自分の思いや考えを他者に伝えることができる。
	不可	自分の思いや考えを他者に伝えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	0	0	0	0	10	100
評価項目	① 専門職として必要な知識・技能	40	0	0	0	0	0	40
	② 根拠に基づく論理的な思考力	10	0	0	0	0	5	15
	③ 物事に対する批判的な思考力	10	0	0	0	0	5	15
	④ 物事の本質を見極める探求力	10	0	5	0	0	0	15
	⑤ 思いや考えを伝える表現力	10	0	5	0	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	講義において、各項目の重点事項を毎回、問題形式のプリントとして配布する。試験は概ねその内容および、教科書、参考書の重点として<下線>を付すなど指摘した事項、ならびに講義においてふれた話題から出題する。
	② レ	
	③ レ	
	④ レ	
	⑤ レ	
成果発表 (口頭・実技)	①	小グループあるいは個人ごとに、特定の項目について、指示した内容を予習して発表する。発表内容や態度・姿勢は評価判定の材料とする。
	②	
	③	
	④ レ	
	⑤ レ	
その他	①	講師の質問への回答や意見、疑問点への質問の提示など、講義への積極的な参加姿勢は、考課として評価する。
	② レ	
	③ レ	
	④	
	⑤	

履修に必要な知識・技能・態度など
<p>高校までの暗記の多い学習や、「知識習得」が多くを占める自然科学分野の学科と異なり、社会科学としての要素の強い公衆衛生学においては、あらゆる事柄について必ず「何故か」という背景を「理解」した上で、自然や社会の「しくみ」に対する洞察力を養うことが重要である。日頃から新聞・ニュースを通じて現代の社会・経済と保健医療動向を把握する姿勢も求められる。</p>
教科書・参考書
<p>教科書 『デンタルスタッフのための衛生学・公衆衛生学』 末高武彦他 著 医歯薬出版 参考書 『最新歯科衛生士教本 保健生態学 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 その他 資料は適宜、配布する</p>

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科診療補助論 (O23000)	講 義	1	15	1	前 期	必 修	—	上原弘美	5号館3階 研究室
歯科診療補助の業務範囲を学ぶ								単独担当	
科目担当者	上原弘美								

授業の概要	歯科衛生士の3大業務の1つである歯科診療補助の実践のためには、基礎的理論の理解と技術の修得が不可欠である。本科目では歯科診療補助の意義・法的解釈・患者対応についての理解を深める。また、歯科医療の高度化や高齢社会に対応する知識を基盤にした歯科診療補助のあり方を学習する。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	歯科診療補助の意義・法的解釈	【事前】 シラバスを読む 【事後】 授業内容をまとめる
第2回	歯科診療室の基礎知識	【事前】 教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる
第3回	歯科診療所における受診の流れ 歯科を受診する患者の理解	【事前】 教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる
第4回	共同動作の基本	【事前】 教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる
第5回	主要歯科材料の種類と取り扱い	【事前】 教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる
第6回	「歯科診療における歯科衛生士の役割」についてグループワーク	【事前】 教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる
第7回	2年生との合同実習(医療人としての身だしなみ)	【事前】 教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる
第8回	2年生との合同実習(実習室の使用方法)	【事前】 教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる

学修の到達目標
1. 歯科衛生士法にある歯科診療補助の意味について述べるができる。 2. 歯科診療における歯科衛生士の役割を述べるができる。 3. 患者を中心とした歯科診療の流れを理解する。 4. 医療人としてふさわしい身だしなみができる。 5. 学内実習室を正しく使用することができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士の実務遂行に必要な知識・技術を身に付けている (専門力)	秀	歯科診療補助業務についての基礎的な知識を十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	歯科診療補助業務についての基礎的な知識を十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	歯科診療補助業務についての基礎的な知識を身につけていて、十分なレベルに達している。
	可	歯科診療補助業務についての基礎的な知識を身につけている。
	不可	歯科診療補助業務についての基礎的な知識を身につけていない。
② 学び、考え、行動する姿勢とその努力を持続することができる (継続力)	秀	学習する姿勢を身に付け、十分な忍耐力・継続的実行力をもって、楽しみながら学び続けることができる。
	優	学習する姿勢を身に付け、十分な忍耐力・継続的実行力をもって、学び続けることができる。
	良	ある程度自発的に学習し、忍耐力・継続的実行力をもって、学ぶことができる。
	可	他者からの助言を受けて学習し、忍耐力・継続的実行力をもって、学ぶことができる。
	不可	忍耐力・継続的実行力をもって、学ぶことができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	20	0	0	0	0	100
評価項目	① 専門的な知識と技術	80	0	0	0	0	0	80
	② 学ぶ姿勢を継続できる	0	20	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	筆記試験
	②	
提出物	①	授業ごとに実施する到達度確認テスト 15点
	② レ	受講後レポート 5点

履修に必要な知識・技能・態度など
歯科衛生士の3大業務の一つである歯科診療補助の基本を学習する科目です。歯科診療補助業務実践の基礎となるのでしっかりと学習してください。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯科材料』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯科機器』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
臨床歯科 I (歯科保存) (O23010)	講 義	2	60	1	後 期	必 修	-	柳田学	5号館3階 研究室
歯科保存治療における歯科衛生士の役割								単 独 担 当	
科目担当者	柳田学								

授業の概要	口腔における硬組織疾患（う蝕）、歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患、歯周病の病因、病態、治療法、予防法を理解する。歯科衛生士の主要な業務の現状と今後期待される“予防処置”と“保健指導”の役割と業務について理解する。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	保存修復学 う蝕の原因、病態と治療法	【事前】 シラバスに目を通す 【事後】 講義ノート、教科書を再読すること
第 2 回	保存修復学 保存修復学の基礎知識	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 3 回	保存修復学 う蝕に伴う歯質欠損の治療法 (1) レジン修復法 1 (組成)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 4 回	保存修復学 う蝕に伴う歯質欠損の治療法 (2) レジン修復法 2 (手順)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 5 回	保存修復学 う蝕に伴う歯質欠損の治療法 (3) セメント修復法	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 6 回	保存修復学 う蝕に伴う歯質欠損の治療法 (4) インレー修復法	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 7 回	保存修復学 う蝕に伴う歯質欠損の治療法 (5) その他	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 8 回	保存修復学 歯の漂白法	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 9 回	歯内療法学 歯髄疾患の原因と病態	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 10 回	歯内療法学 根尖性歯周病変の原因と病態	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 11 回	歯内療法学 歯髄疾患、根尖性歯周病変の分類	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 12 回	歯内療法学 歯髄疾患の治療法 1 (診査・診断)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 13 回	歯内療法学 歯髄疾患の治療法 2 (手順)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 14 回	歯内療法学 根尖性歯周病変の治療法	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 15 回	歯内療法学 外科的歯内療法	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 16 回	歯周治療学 歯周組織の形態と機能	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること

第 17 回	歯周治療学 歯周疾患の分類	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 18 回	歯周治療学 歯周疾患の病因と病態	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 19 回	歯周治療学 歯周治療の流れ	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 20 回	歯周治療学 歯周疾患の診査	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 21 回	歯周治療学 歯周基本治療（プラークコントロール）	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 22 回	歯周治療学 歯周基本治療 （スケーリング・ルートプレーニング）	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 23 回	歯周治療学 歯周基本治療（再評価）	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 24 回	歯周治療学 歯周外科（分類）	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 25 回	歯周治療学 歯周外科（フラップ手術）	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 26 回	歯周治療学 歯周外科（その他の歯周外科手術）	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 27 回	歯周治療学 歯周組織再生療法	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 28 回	歯周治療学 歯周形成外科手術	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 29 回	まとめ（保存修復学・歯内療法学）	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 全ての講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 30 回	まとめ（歯周治療学）	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 全ての講義ノート、教科書の該当部を再読すること

学修の到達目標

1. 歯の硬組織疾患の種類と治療法を説明できる。
2. 歯髄・根尖性歯周組織疾患の分類と症状、治療法を説明できる。
3. 歯周病の種類、病態、検査法、治療法を説明できる。
4. 歯周治療後のメンテナンス（SPT）を説明できる。
5. 歯周病と全身の健康との関係を説明できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科保存学の知識を身につけている (専門力)	秀	歯科保存学の専門領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	歯科保存学の専門領域についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	歯科保存学の専門領域についての知識を一定のレベルで身につけている。
	可	歯科保存学の専門領域についての知識を身につけているが十分ではない。
	不可	歯科保存学の専門領域についての知識を身につけていない。
② 歯科保存治療の根拠、手技について論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	歯科保存学の専門領域について客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	優	歯科保存学の専門領域について客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	良	歯科保存学の専門領域について一定のレベルで論理的に考えることができる。
	可	歯科保存学の専門領域についてある程度論理的に考えることができるが十分ではない。
	不可	歯科保存学の専門領域について論理的に考えることができない。
③ 学ぶこと・知ること に楽しさと喜びを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつながられる。
	優	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見いだすことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	0	0	0	0	30	100
評価項目	① 専門力	60	0	0	0	0	0	60
	② 論理的思考力	10	0	0	0	0	10	20
	③ 知欲	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	筆記試験
	②	
	③	
提出物	①	受講態度・積極的な質問
	②	
	③	

履修に必要な知識・技能・態度など
専門用語が多いのでこまめに復習すること。私語厳禁、ただし質問は歓迎します。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯周病学』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：なし

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
臨床歯科Ⅱ (歯科補綴) (O23020)	講 義	1	30	1	後 期	必 修	-	柳田学	5号館3階 研究室
歯科補綴治療における歯科衛生士の役割								単独担当	
科目担当者	柳田学								

授業の概要	失われた歯質や歯の機能を回復させ、咀嚼系の健康を維持・増進させることを理解する。 歯科補綴治療の目的、治療の流れ、補綴治療患者への指導（術後管理）について理解する。
アクティブ・ ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学习支援 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	歯科補綴治療の概要	【事前】 シラバスに目を通す 【事後】 講義ノート、教科書を再読すること
第2回	歯科補綴治療の基礎知識 (咬合関係)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第3回	歯科補綴治療の基礎知識 (咬合基準平面)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第4回	歯科補綴治療の基礎知識 (咬合様式)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第5回	歯科補綴装置	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第6回	クラウン・ブリッジの臨床 (診査・診断)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第7回	クラウン・ブリッジの臨床 (支台歯形成から合着まで)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第8回	クラウン・ブリッジの臨床 (メンテナンス)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第9回	全部床義歯の臨床 (診査・診断から印象採得)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第10回	全部床義歯の臨床 (咬合採得からメンテナンスまで)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第11回	部分床義歯の臨床 (診査・診断から部分床義歯の構成要素まで)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第12回	部分床義歯の臨床 (印象採得から義歯装着まで)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第13回	義歯装着後の患者指導	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第14回	インプラント補綴	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第15回	まとめ	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 全ての講義ノート、教科書の該当部を再読すること

学修の到達目標	
1. 歯列形態と位置関係、顎口腔系の機能、咬合について説明できる。 2. 補綴装置の種類と適応を説明できる。 3. クラウン、ブリッジの治療法を説明できる。 4. 可撤性義歯（全部床義歯、部分床義歯）の治療法を説明できる。 5. 補綴治療の印象採得、咬合採得の方法を理解できる。 6. 補綴治療後のメンテナンスの重要性を理解できる。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科補綴学の知識を身につけている (専門力)	秀	歯科補綴学の専門領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	歯科補綴学の専門領域についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	歯科補綴学の専門領域についての知識を一定のレベルで身につけている。
	可	歯科補綴学の専門領域についての知識を身につけているが十分ではない。
	不可	歯科補綴学の専門領域についての知識を身につけていない。
② 歯科補綴治療の根拠、手技について論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	歯科補綴学の専門領域について客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	優	歯科補綴学の専門領域について客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	良	歯科補綴学の専門領域について一定のレベルで論理的に考えることができる。
	可	歯科補綴学の専門領域についてある程度論理的に考えることができるが十分ではない。
	不可	歯科補綴学の専門領域について論理的に考えることができない。
③ 学ぶこと・知ること に楽しさと喜びを覚 えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつながられる。
	優	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見いだすことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	0	0	0	0	30	100
評価項目	① 専門力	60	0	0	0	0	0	60
	② 論理的思考力	10	0	0	0	0	10	20
	③ 知欲	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験
	②	レ	
	③		
その他	①		受講態度・積極的な質問
	②	レ	
	③	レ	

履修に必要な知識・技能・態度など

専門用語が多いのでこまめに復習すること。私語厳禁、ただし質問は歓迎します。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常 1 歯科補綴』第2版 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
参考書：なし

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
医療安全 (O23100)	講 義	1	15	1	前 期	必 修	-	上原弘美	5号館3階 研究室
医療安全は医療の基本中の基本								単独担当	
科目担当者	上原弘美								

授業の概要	医療事故を科学的に分析し、根底に存在する問題を解決する手法を身につけることにより、医療安全の理念とリスクマネジメントについて考える。ひいては患者の命と人権を尊重した医療を実践するための知識を修得する。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	医療安全管理の概論と基礎	【事前】教科書を読む 【事後】授業内容をまとめる
第2回	医療事故、ヒヤリ・ハット事例について	【事前】医療事故について調べる 【事後】授業内容をまとめる
第3回	事故発生の原因と防止対策(ディスカッション)	【事前】歯科医療で起こりうる医療事故について考える 【事後】授業内容をまとめる
第4回	事故発生の原因と防止対策(発表)	【事前】発表用原稿を作成する 【事後】授業内容をまとめる
第5回	感染管理とは	【事前】教本を読む 【事後】授業内容をまとめる
第6回	標準予防策と感染経路別予防策	【事前】標準予防策について調べる 【事後】授業内容をまとめる
第7回	滅菌と消毒	【事前】滅菌と消毒について学習する 【事後】授業内容をまとめる
第8回	歯科医療における院内感染予防対策	【事前】个人防护具について調べる 【事後】授業内容をまとめる

学修の到達目標
1. 医療安全の基本的な考え方を説明できる。 2. ヒヤリ・ハット事例の収集と報告の意義について説明できる。 3. インシデント、アクシデント事例の分析法について概説できる。 4. 歯科診療における院内感染予防対策の意義について説明できる。 5. 滅菌・消毒方法について列挙できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士の実務遂行に必要な知識・技術を身に付けている (専門力)	秀	医療安全についての基礎的な知識を十分なレベルで身につけている。 なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	医療安全についての基礎的な知識を十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	医療安全についての基礎的な知識を身につけていて、十分なレベルに達している。
	可	医療安全についての基礎的な知識を身につけている。
	不可	医療安全についての基礎的な知識を身につけていない。
② 学ぶこと・知ること、楽しさと喜びを覚えることができる (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこで自ら楽しさと喜びを見出して達成感を得ることができる。そして、その経験を踏まえて更なる主体的学修へと継続学習の姿勢が身についている。
	優	自発的に学修することができ、そこで自ら楽しさと喜びを見出して達成感を得ることができる。
	良	自発的に学修することができ、そこで自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができず、継続学習の姿勢が身につけていない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	15	10	0	0	5	100
評価項目	① 専門力	70	10	0	0	0	0	80
	② 知欲	0	5	10	0	0	5	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	筆記試験
	②	
提出物	① レ	到達度確認テスト (10点)
	② レ	受講後レポート (5点)
成果発表 (口頭・実技)	①	発表内容 (5点)
	② レ	発表態度 (5点)
その他	①	受講態度
	② レ	

履修に必要な知識・技能・態度など
授業は予習・復習を前提とします。授業の始め、または終わりに到達度確認のための小テストを実施しますので、積極的な姿勢で受講してください。
教科書・参考書
教科書：『5日間で学ぶ医療安全超入門』 日本医療マネジメント学会 監修 学研メディカル秀潤社 『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：『イチから学ぶ歯科医療安全』 海野雅浩 編集 医歯薬出版 『歯科衛生士のヒヤリ・ハットの事例と対策』 松田裕子 監修 口腔保健協会

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
器材学 (O23120)	講義	1	15	1	後期	必修	-	八木孝和	5号館3階 研究室
歯科材料は歯科医療の根幹の一つ								単独担当	
科目担当者	八木孝和								

授業の概要	歯科領域の予防と治療に使用される歯科材料・器具機械は種類も様々であり、その物理的な性質や取り扱い方法を理解しておく必要があります。特に歯科衛生士は歯科予防処置や診療補助行為において、歯科材料の正確な取り扱い・保管方法を理解して使用しなければ、患者さんに重大な問題を発生させる可能性があります。本講義では、歯科材料の種類と利用方法について理解することを目指します。
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク (レ) 反転授業 (レ) ICT (manaba) 活用の自主学习支援 (レ) グループワーク () プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	I編 歯科材料の基礎知識	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第2回	II編 歯科材料の種類と特性 1章 歯科衛生に関わる材料	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第3回	II編 歯科材料の種類と特性 2章 印象材、3章 模型材料	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第4回	II編 歯科材料の種類と特性 4章 合着材・接着材、5章 成形修復材	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第5回	II編 歯科材料の種類と特性 6章 仮封材、7章 暫間修復材と仮着セメント	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第6回	II編 歯科材料の種類と特性 8章 ワックス、9章 金属	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第7回	II編 歯科材料の種類と特性 10章 セラミックス、11章 その他の歯科材料	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等
第8回	II編 歯科材料の種類と特性 11章 その他の歯科材料	【事前】manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】まとめの作成等

学修の到達目標
安全な歯科予防処置や診療補助を行うために 1. 必要な歯科材料の取り扱い（保存・保管、安全、使用法、後片付け）について説明できる。 2. 模型用材料、合着・接着材・仮着用材料、印章用材料について種類と基本的性質が説明できる。 3. 歯冠修復用材料、義歯用材料、インプラント用材料、ワックスについて、種類と基本的性質が説明できる。 4. 新規の歯科材料や歯科治療法に対しても対応できる知識と態度を身に着ける。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科材料に関する知識を身につけている (専門力)	秀	歯科材料に関する専門基礎領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	歯科材料に関する専門基礎領域についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	歯科材料に関する専門基礎領域についての知識を一定のレベルで身につけている。
	可	歯科材料に関する専門基礎領域についての知識を身につけているが十分ではない。
	不可	歯科材料に関する専門基礎領域についての知識を身につけていない。
② 歯科材料に関する基礎知識をもとに論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	歯科材料に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	優	歯科材料に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	良	歯科材料に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき一定のレベルであるが論理的に考えることができる。
	可	歯科材料に関する専門基礎領域についてある程度論理的に考えることができるが十分ではない。
	不可	歯科材料に関する専門基礎領域について論理的に考えることができない。
③ 学ぶこと・知ること に楽しさと喜びを覚 えることができる (知欲)	秀	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	優	さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつながられる。
	良	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	ある程度自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	不可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見いだすことができる。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	40	0	0	0	10	100
評価項目	① 専門力	40	10	0	0	0	0	50
	② 論理的思考力	10	20	0	0	0	0	30
	③ 知欲	0	10	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	筆記試験
	② レ	
	③	
提出物	① レ	まとめなどのレポートの提出：まとめレポートは出席者のみ点数として評価します。
	② レ	
	③ レ	
その他	①	出席数・受講態度・積極的な発言
	②	
	③ レ	

履修に必要な知識・技能・態度など

私語は厳禁。予め教科書に目を通しておくことが望まれます。私語は厳禁ですが、質問は歓迎します。(自分がわからないことは周囲の人もわかっていないことが多いです。質問をすることで、自分だけでなく全員の理解が深まります。)

臨床内容に直結するため、前回の授業だけでなく、関連の臨床分野も見ておくことで大変役立ちます。

自分が必要と思うことは必ずノートに書くこと。講義の進行状況・理解度により本シラバスの内容は適宜変更する可能性があります。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科材料』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

参考書：『イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 第3版』 竹澤保政 監修 渡邊美里 編集 永末書店

『最新歯科衛生士教本 器材学』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科診療補助演習 I (O23130)	演 習	2	60	1	後 期	必 修	-	上原弘美	5号館3階 研究室
歯科診療補助の基本的な技術を 身につける								複数担当	
科目担当者	上原弘美、澤田美佐緒、氏橋貴子								

授業の概要	安全で確かな歯科診療補助を実践するために必要な基礎知識および技術を修得する。医療従事者としての歯科衛生士の役割を認識し、診療室内の環境整備から患者対応、共同動作、主要歯科材料の取り扱い方法を学ぶ。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	実習室の使用法、マネキンの取り扱い、手指消毒 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習レポートの作成
第2回	患者誘導・共同動作、手指消毒・个人防护具の装着(相互実習) (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習レポートの作成
第3回	診療室の環境整備、院内感染予防対策、歯科器械の取り扱い (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習レポートの作成
第4回	バキュームテクニック(基本操作相互実習) (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習レポートの作成
第5回	合着・接着セメント、仮封材・仮着材の基礎知識 (担当者：氏橋)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習レポートの作成
第6回	合着・接着セメント、仮封材・仮着材 実習 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習レポートの作成
第7回	ラバーダム防湿(マネキン実習) (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習レポートの作成
第8回	バキュームテクニック(応用操作相互実習) (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習レポートの作成
第9回	アルジネート印象材・歯科用石膏の基礎知識 (担当者：氏橋)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習レポートの作成
第10回	印象材練和 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習レポートの作成
第11回	印象採得(マネキン実習) (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習レポートの作成
第12回	印象採得(相互実習) (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習レポートの作成
第13回	石膏模型作成 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習レポートの作成
第14回	口腔内写真撮影法 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習レポートの作成
第15回	実技試験・口頭試問 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習レポートの作成

学修の到達目標	
1. 的確な共同動作を実践することができる。 2. 主要歯科材料の特性や用途を理解する。 3. 主要歯科材料を適正に取り扱うことができる。 4. 診療器具を適正に使用することができる。 5. 感染予防対策を実践することができる。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①基本的な歯科診療補助の遂行に必要な知識・技能を身につけている (専門力)	秀	基本的な歯科診療補助の知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナルも持ち合わせている。
	優	基本的な歯科診療補助の知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。
	良	基本的な歯科診療補助の知識・技術を、どちらか一方で十分なレベルで身につけている。
	可	基本的な歯科診療補助の知識・技術を概ね身につけている。
	不可	基本的な歯科診療補助の知識・技術を身につけていない。
②修得した知識や技術を振り返り、復習または考察することができる (省察力)	秀	日頃から修得した知識や技術を客観的に検証しており、さらなる望ましいものへとつなげ続けられる復習と考察ができる。
	優	自発的に修得した知識や技術を客観的に検証し、次につながる復習と考察ができる。
	良	自発的に修得した知識や技術を客観的に検証し、次につながる復習と考察が概ねできる。
	可	他者からの助言のもと修得した知識や技術を客観的に検証し、次につながる復習と考察ができる。
	不可	修得した知識や技術を客観的に検証し、次につながる復習と考察ができない。
③自ら心身の健康を適切に管理することができる (自己管理能力)	秀	医療専門職に就くために学修する者としての責任感のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。さらにその自己管理の必要性を他者と広く共有するために行動することができる。
	優	医療専門職に就くために学修する者としての責任感のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。
	良	ある程度自発的に、心身や生活態度等の自己管理が可能である。
	可	他社からの助言や指導のもと、心身や生活態度等の自己管理が可能である。
	不可	心身や生活態度等の自己管理ができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		75	15	10	0	0	0	100
評価項目	① 専門力	75	0	10	0	0	0	85
	② 省察力	0	10	0	0	0	0	10
	③ 自己管理能力	0	5	0	0	0	0	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験
	②		
	③		
提出物	①		演習で修得した知識や技術に対するレポート、自己学習ノートの内容や提出状況
	②	レ	
	③	レ	
成果発表 (口頭・実技)	①	レ	授業中に行う口頭試問・実技試験
	②		
	③		

履修に必要な知識・技能・態度など

歯科衛生士の3大業務の一つである歯科診療補助の基本を学習する科目です。今後の実習の基盤となるのでしっかりと学習してください。

医療従事者としてふさわしい態度と身だしなみで受講すること。また、欠席しないよう体調管理には十分留意すること。

教科書・参考書

教科書：最新歯科衛生士教本『歯科診療補助論 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
 最新歯科衛生士教本『歯科材料』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
 最新歯科衛生士教本『歯科機器』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
 改訂版 イラストと写真でわかる『歯科材料の基礎』 竹澤保政 監著 永末書店

参考書：随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

② 歯科衛生士について 広く深く考え、その 本質を見極めようと することができる。 (探究心)	秀	歯科衛生士について広く深く考え、その本質を見極めようとする事ができる。
	優	歯科衛生士について深く考え、その本質を見極めようとする事ができる。
	良	歯科衛生士について考え、その本質を見極めようとする姿勢がある。
	可	歯科衛生士について知ろうとする姿勢が認められる。
③ 学ぶこと・知ること に楽しさと喜びを覚 えることができる。 (知欲)	不可	歯科衛生士について興味がない。
	秀	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつながられる。
	優	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見いだすことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	30	0	0	0	20	100
評価項目	① 専門力	50	10	0	0	0	0	60
	② 探究心	0	20	0	0	0	0	20
	③ 知欲	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	筆記試験
	②	
	③	
提出物	① レ	レポート
	② レ	
	③	
その他	①	積極的な質問
	②	
	③ レ	

履修に必要な知識・技能・態度など
目指す専門職の理解に繋がるので、興味を持って意欲的に知識を吸収して下さい。
教科書・参考書
教科書：「最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：商業雑誌（デンタルハイジーン・歯科衛生士・DHスタイル等）、学術論文など授業の進行に合わせて指定します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科衛生過程 I (O23210)	講義	1	15	1	後期	必修	-	浅枝麻夢可	5号館3階 研究室
歯科衛生業務を行うために必要な考え方を学びましょう								単独担当	
科目担当者	浅枝麻夢可								

授業の概要	<p>歯科衛生過程の基礎を学習する。歯科衛生過程とは、歯科衛生士が歯科衛生業務を行う場合の考え方のツールであり、「歯科衛生アセスメント」、「歯科衛生診断」、「歯科衛生計画立案」、「歯科衛生介入」、「歯科衛生評価」の各過程と各過程を記録する「書面化」の6要素を言う。ここでは、論理的思考力を培い、各過程の意味を理解し、一連の流れを学習する。また、口腔保健管理の実践に必要な基礎知識を身に付け、医療職に就く者としての自覚の醸成を図る。</p>	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学习支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他(配布資料、ワークシート)

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	歯科衛生過程の概要	【事前】 『歯科衛生学概論』の「歯科衛生過程」該当ページを熟読 【事後】 次回の小テストに向けての復習
第2回	歯科衛生アセスメント	【事前】 『歯科予防処置論・歯科保健指導論』の「歯科衛生アセスメント」該当ページを熟読 【事後】 次回の小テストに向けての復習
第3回	歯科衛生アセスメントの展開	【事前】 PRECEDE-PROCEED Model (MIDORIモデル)の配布資料を熟読 【事後】 次回の小テストに向けての復習
第4回	歯科衛生診断(歯科衛生診断文の作成)	【事前】 『歯科予防処置論・歯科保健指導論』の「歯科衛生診断」該当ページを熟読 【事後】 次回の小テストに向けての復習
第5回	歯科衛生診断(優先順位の決定)	【事前】 PRECEDE-PROCEED Model (MIDORIモデル)の配布資料を熟読 【事後】 次回の小テストに向けての復習
第6回	歯科衛生計画立案 歯科衛生介入	【事前】 『歯科予防処置論・歯科保健指導論』の「歯科衛生計画立案」「歯科衛生介入」を熟読 【事後】 次回の小テストに向けての復習
第7回	書面化(記録)	【事前】 『歯科予防処置論・歯科保健指導論』の「書面化」を熟読 【事後】 次回の小テストに向けての復習
第8回	歯科衛生評価 まとめ	【事前】 『歯科予防処置論・歯科保健指導論』の「歯科衛生評価」を熟読 【事後】 定期試験に向けての復習

学修の到達目標	
1. 歯科衛生過程の利点や活用する意義について説明できる。	5. 歯科衛生介入について説明できる。
2. 歯科衛生アセスメントについて説明できる。	6. 歯科衛生評価について説明できる。
3. 歯科衛生診断について説明できる。	7. 書面化について説明できる。
4. 歯科衛生計画立案について説明できる。	8. 業務記録の書き方について理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①口腔保健管理の実践に必要な基礎知識を身に付けている。 (専門力)	秀	口腔保健管理の実践に必要な基礎知識を十分に理解し、身に付けている。さらに他者と共有ができる。
	優	口腔保健管理の実践に必要な基礎知識を十分に理解し、身に付けている。
	良	口腔保健管理の実践に必要な基礎知識を理解し、身に付けている。
	可	口腔保健管理の実践について、必要最低限の基礎知識を身に付けているが、理解に乏しい。
	不可	口腔保健管理の実践に必要な基礎知識が身に付いていない。
②歯科衛生アセスメントや歯科衛生診断について理解し、客観的な根拠と論理的思考に基づいた説明ができる。 (論理的思考力)	秀	歯科衛生アセスメント・診断について、十分な客観的根拠を得て論理的に理解し説明できる。
	優	歯科衛生アセスメント・診断について、十分な客観的根拠を得て論理的に理解できる。
	良	歯科衛生アセスメントについて、ある程度の客観的根拠を得て論理的に理解し説明できる。
	可	歯科衛生アセスメントについて、ある程度の客観的根拠を得て論理的に理解できる。
	不可	歯科衛生アセスメントについて、客観的根拠を得られず、論理的に考えることができない。
③歯科衛生計画立案について、多面的に検討を行い、それらを統合して結論付けることができ、評価も考えることができる。 (批判的思考力)	秀	歯科衛生計画立案について、多面的に検討を行い、それらを統合して結論付けることができ、評価も考えることができる。
	優	歯科衛生計画立案について、事例を多面的に検討し、それらを統合して結論づけることができる。
	良	歯科衛生計画立案について、事例を多面的に検討することができる。
	可	歯科衛生計画立案について、事例の一面のみならず、2～3の側面から検討することができる。
	不可	歯科衛生計画立案について、事例のある一面についてしか考えることができない。
④自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと悦びを見出すことができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつながられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと悦びを見出すことができる。
	可	他者から促されて、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと悦びを見出すことができる。
	不可	自発的な学修が見られず、学ぶこと・知ることに、楽しさと悦びを覚えることができない。
⑤医療職に就く者としての自覚があり、心身の自己管理ができる。 (自己管理能力)	秀	医療職に就く者としての自覚をもち、自発的に心身の自己管理ができ、他学生の手本となる。
	優	医療職に就く者としての自覚をもち、ある程度自発的に心身の自己管理ができる。
	良	医療職に就く者としての自覚が芽生え、ある程度自発的に、心身の自己管理ができる。
	可	医療職に就く者としての自覚が芽生え、他者からの助言や指導のもと、心身の自己管理ができる。
	不可	医療職に就く者としての自覚が見られず、心身の自己管理ができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	15	0	0	15	10	100
評価項目	① 口腔保健管理の実践に必要な知識	20	5	0	0	0	25
	② 客観的な根拠と論理的思考	20	5	0	0	0	25
	③ 多面的な検討と統合する力	20	5	0	0	0	25
	④ 自発的な学修とその達成感	0	0	0	0	15	15
	⑤ 心身の自己管理	0	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	筆記試験（持ち込み不可）
	② レ	
	③ レ	
	④	
	⑤	
提出物	① レ	ワークシート（アセスメントシート、歯科衛生診断シート、歯科衛生計画立案書など） 提出期限や内容を評価する 提出期限を過ぎた場合は減点対象となるが、未提出はさらなる減点対象となるため、期日を過ぎても必ず提出すること
	② レ	
	③ レ	
	④	
	⑤	
ポートフォリオ	①	授業ノート、自己学習、その他提出物 提出期限や内容を評価する 提出期限を過ぎた場合は減点対象となるが、未提出はさらなる減点対象となるため、期日を過ぎても必ず提出すること 自己学習は加点対象とする
	②	
	③	
	④ レ	
	⑤	
その他	①	出席状況、忘れ物、態度など
	②	
	③	
	④	
	⑤ レ	

履修に必要な知識・技能・態度など
<ul style="list-style-type: none"> ・考え方を学ぶ授業ですので、暗記ではなく、理解するように努力すること。 ・課題を確実に行うこと。 ・歯科衛生過程の流れを順に追って進めていきます。欠席すると理解が難しくなるため欠席しないこと。 ・2回目以降は、それまでの講義内容について、適宜、小テストを行います。毎回必ず復習を行うこと。 ・分からないことは、そのままにしないで積極的に質問に来ること。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯科衛生学概論』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：『よくわかる歯科衛生過程』 全国歯科衛生士教育協議会 編 医歯薬出版 『歯科衛生過程』 吉田直美 他 クインテッセンス出版 『歯科衛生ケアプロセス実践ガイド』 佐藤陽子 医歯薬出版 『歯科衛生ケアプロセス』 下野正基 監修 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科予防処置論A (う蝕) (O23230)	講 義	1	15	1	前 期	必 修	-	破魔幸枝	5号館3階 研究室
う蝕予防の基礎知識を学ぶ								単独担当	
科目担当者	破魔幸枝								

授業の概要	う蝕の原因・病態を歯科衛生の観点でとらえ、宿主・病因・環境の相互作用を理論的に学ぶ。また、予防は対象者を全人的に捉えることが重要であることから、予防における歯科衛生過程を展開するために必要なアセスメント能力を高め、実践できる理論を学修する。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	歯科予防処置の基礎知識	【事前】 シラバスの確認 【事後】 授業内容の確認
第2回	歯科衛生士法 (歯科衛生士の役割) う蝕について、予防のレベル	【事前】 該当するページの確認 (う蝕について) 【事後】 授業内容の確認
第3回	う蝕発症要因	【事前】 該当するページの確認 (う蝕について) 【事後】 授業内容の確認
第4回	う蝕活動性試験、情報収集 小テスト1 (第1～4回まで)	【事前】 該当するページの確認 (う蝕活動性試験) 【事後】 授業内容の振り返り
第5回	フッ化物局所応用法 (歯磨剤・洗口剤)	【事前】 該当するページの確認 (フッ化物について) 【事後】 授業内容の確認
第6回	フッ化物局所応用法 (フッ化物歯面塗布法)	【事前】 該当するページの確認 (フッ化物局所応用) 【事後】 授業内容の確認
第7回	う蝕予防処置法 (小窩裂溝填塞法)	【事前】 該当するページの確認 (小窩裂溝填塞法) 【事後】 授業内容の確認
第8回	メンテナンス (症例) 小テスト2 (第5～8回まで)	【事前】 該当するページの確認 【事後】 授業内容の振り返り

学修の到達目標
歯科予防処置の概要を説明できる。 う蝕のメカニズムとう蝕予防の種類を関連づけて説明できる。 フッ化物の効果と応用、安全性について説明できる。 う蝕予防におけるセルフケアについて説明できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①う 蝕予防処置の基礎的な知識を身につけている (専門力)	秀	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナルリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナルリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていない。
②う 蝕予防処置の知識習得に愉しさと喜びを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつながられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、愉しさと喜びを覚えることができない。
③う 蝕予防処置法に対して、自己の思考を振り返り、模索することができる (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	25	0	0	0	5	100
評価項目	① 専門力	70	10	0	0	0	0	80
	② 知欲	0	5	0	0	0	5	10
	③ 省察力	0	10	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	筆記試験
	②	
	③	
提出物	①	小テスト レポート課題
	②	
	③	
その他	①	受講態度
	②	
	③	

履修に必要な知識・技能・態度など

シラバスを確認し、授業回の項目について事前に教科書を読んでおく。また授業の最初に前回の復習を行うので、授業終了後必ず冊子を見直し、復習しておくこと。第4回・8回に小テストを行い知識の確認を行う。グループ学習を行う際には積極的に参加すること。また体調を整え、講義には必ず出席すること。口腔衛生学でまなぶことは関連が深いので、必ず理解して臨むこと。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『歯科衛生士のための齲蝕予防処置法 第2版』中垣晴男 加藤一夫 石飛國子 高坂利美 編著 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 保健生態学 第3版』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科予防処置の基礎的な知識を身につけている。 (専門力)	秀	必要な歯科予防処置の知識を確実に身につけている。
	優	必要な歯科予防処置の知識を十分なレベルで身につけている。
	良	必要な歯科予防処置の知識を一定のレベルで身につけている。
	可	必要な歯科予防処置の知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	必要な歯科予防処置の知識を身につけていない。
② 歯周治療の必要性や知識習得に楽しさを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出し、達成感を得ることができる。また、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修に導くことができる。
	優	自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出すことができる。
	可	他者からの促しによって学修し、他者からの指摘により楽しさを見出すことができる。
	不可	学修や知識習得に楽しさを見出すことができない。
③ 歯科衛生士として歯周治療の根拠に基づき、論理的に考えることができる。 (論理的思考力)	秀	歯周病の原因を理解した上で、歯周治療の流れを考察し、歯科衛生士がすべきことを考えることができる。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
④ 講義で得た情報を整理・分析し、専門職の役割を理解することができる。 (情報力)	秀	講義で得た情報を整理・分析した上で、さらに自発的な情報収集を行い、専門職の役割を理解し、目指す歯科衛生士について言及できる。
	優	講義で得た情報を整理・分析した上で、さらに自発的な情報収集を行い、専門職の役割を理解することができる。
	良	講義で得た情報を整理・分析し、専門職の役割を理解することができる。
	可	講義で得た情報を整理・分析しているが、十分ではなく、専門職の理解度が低い。
	不可	講義で得た情報が十分に整理・分析されていない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	25	0	0	0	25	100
評価項目	① 専門力	40	10	0	0	0	5	55
	② 知欲	0	5	0	0	0	10	15
	③ 論理的思考力	10	5	0	0	0	5	20
	④ 情報力	0	5	0	0	0	5	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	筆記試験を実施する。 試験は教科書と配布資料から出題し、講義過程において知識が修得できているかを確認する。
	②	
	③	
	④	
提出物	①	必要に応じて指示された課題に対しレポートを提出する。
	②	
	③	
	④	
その他	①	主体的・能動的に取り組んだ事については、加点の評価対象となる。
	②	
	③	
	④	

履修に必要な知識・技能・態度など

歯周病予防のための基本的な知識を習得する科目であり、歯科予防処置演習 B I と歯科予防処置演習 B II の基礎となる。事前に教科書と講義資料を読み、予習を行う。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
年度別歯科衛生士国家試験問題集 2020 年度版 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科保健指導論 I (O23250)	講義	1	15	1	前期	必修	-	福田昌代	5号館3階 研究室
歯科保健指導の基礎を学びましょう								複数担当	
科目担当者	福田昌代、中村美紀								

授業の概要	歯科保健指導は、歯科衛生士法に謳われている歯科衛生士の3大業務の一つである。ここでは、歯科保健指導の基礎として、歯科保健指導の定義、健康と予防の概念、健康教育と歯科保健指導の違い、個別歯科保健指導と集団歯科保健指導の違い、保健行動の理論などに関する知識と技術と態度を修得し、保健指導を実践する際の芯となる基本的な考え方を学習する。また、自身の健康管理力の醸成と健康観の育成を図る。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション・歯科保健指導の定義・予防の概念 (担当者：福田)	【事前】 教本の「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」の総論を熟読する。シラバスを読んでおく。 【事後】 授業の内容を振り返る
第2回	QOLを考える KJ法とは (担当者：福田)	【事前】 教本の「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」の総論を熟読する。 【事後】 授業の内容を振り返る
第3回	健康の概念①(グループワーク) (担当者：福田)	【事前】 健康について自身の考えをまとめておく 【事後】 グループ発表の準備
第4回	健康の概念②(発表・解説) (担当者：福田)	【事前】 グループ発表の準備 【事後】 他者の発表についての感想と自身の健康観についてまとめる
第5回	行動変容①(理論) (担当者：中村)	【事前】 教本の「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」の総論と基礎知識を熟読する。 【事後】 授業の内容を振り返る。
第6回	集団に対する歯科保健指導技術法 (担当者：中村)	【事前】 行動変容について再学習してくる。 【事後】 授業の内容を振り返る。
第7回	個別に対する歯科保健指導技術法 (担当者：中村)	【事前】 行動変容と前回の授業を再学習してくる。 【事後】 授業の内容を振り返る。
第8回	行動変容②(実践) まとめ (担当者：中村)	【事前】 第5回から7回までの授業を再学習してくる。 【事後】 定期試験に向けて復習する。

学修の到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科保健指導の定義を述べるができる。 2. 健康の概念・予防の概念を述べるができる。 3. 保健、医療、福祉分野のQOLについて述べるができる。 4. 健康教育の変遷を理解する。 5. 個別歯科保健指導と集団歯科保健指導の違いを述べるができる。 6. 各種保健行動理論を理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①適切な判断および必要な情報の収集・整理・分析・活用ができる。 (情報力)	秀	適切な判断に基づいて、必要な情報の収集・整理・分析・活用を行い、他者と共有できる。
	優	適切な判断に基づいて、必要な情報の収集・整理・分析・活用ができる。
	良	他者の助言があれば、適切な判断を行い、情報の収集・整理・分析・活用ができる。
	可	他者の助言があれば、情報を収集・整理・分析・活用ができる。
	不可	情報の収集・整理・分析ができない。
②自発的に課題学習に取り組み、納得いくまで徹底的に調べ続けることができる。 (探究力)	秀	文献検索などの課題学習に自発的に取り組み、納得いくまで徹底的に調べ続けることができる。そしてそこでの一定の結果に飽き足らず、さらなる探究心が生じ、それを実行に移していくことができる。
	優	文献検索などの課題学習に自発的に取り組み、納得いくまで徹底的に調べ続けることができる。
	良	文献検索などの課題学習に自発的に取り組み、一定の結果が出るまで調べ続けることができる。
	可	文献検索などの課題学習に取り組み、一定の結果が出るまで調べ続けることができる。
	不可	文献検索などの課題学習に取り組み、結果が出るまで調べ続けることができない。
③自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつながられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びを覚えることができない。
④医療職に就く者としての自覚があり、心身の自己管理ができる。 (自己管理能力)	秀	医療職に就く者としての自覚をもち、自発的に心身の自己管理ができ、他学生の手本となる。
	優	医療職に就く者としての自覚をもち、ある程度自発的に心身の自己管理ができる。
	良	医療職に就く者としての自覚が芽生え、ある程度自発的に、心身の自己管理ができる。
	可	医療職に就く者としての自覚が芽生え、他者からの助言や指導のもと、心身の自己管理ができる。
	不可	医療職に就く者としての自覚が見られず、心身の自己管理ができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	10	10	10	0	10	100
評価項目	① 情報の収集・整理・分析・活用	30	5	5	5	0	0	45
	② 徹底的に調べ続ける力	30	5	5	0	0	0	40
	③ 自発的な学修とその達成感	0	0	0	5	0	0	5
	④ 心身の自己管理	0	0	0	0	0	10	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	筆記試験（持ち込み不可）
	②	
	③	
	④	
提出物	①	提出期日を過ぎると減点 未提出はさらに減点となるので、提出期日を過ぎても提出すること
	②	
	③	
	④	
成果発表 (口頭・実技)	①	目的・結果・考察を明確にすること
	②	
	③	
	④	
作品	①	グループ毎の発表の成果物
	②	
	③	
	④	
その他	①	出席状況、忘れ物、態度など
	②	
	③	
	④	

履修に必要な知識・技能・態度など

- ・課題学習には図書館を活用すること。
- ・課題学習について
- ・教科書および参考図書を熟読し、理解して整理し、自分の言葉で書くこと。
- ・インターネットからのコピー張り付け禁止。
- ・グループワークを行うので、積極的に関わること。
- ・欠席しないように体調管理を行うこと。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
 参考書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
 『医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎』 松本千明 著 医歯薬出版
 『医療・保健スタッフのための健康行動理論 実践編』 松本千明 著 医歯薬出版
 『保健医療における コミュニケーション・行動科学』 高江洲 義矩 著 医歯薬出版
 『ヘルスプロモーションのすすめ』 島内憲夫 垣内出版株式会社

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科保健指導論Ⅱ (O23260)	講義	1	30	1	前期	必修	-	福田昌代	5号館3階 研究室
口腔を健康に導くための学修 自分の口腔清掃法を身につけよう								単独担当	
科目担当者	福田昌代								

授業の概要	歯科衛生士が行う個別歯科保健指導の基礎として、自己の口腔健康管理の方法を学修する。具体的には、情報収集・行動把握(生活・食生活)・口腔観察・口腔清掃状態の評価法・各種口腔清掃用具の使用法・各種口腔清掃法等についての知識を学修する。この学びを通じて、口腔の疾患は、細菌感染症であることを理解し、歯科衛生士は口腔の健康を通して全身の健康の保持増進に寄与できる職業であることへの気づきの学修とする。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input checked="" type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・ 無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション 歯科保健指導とは何か	【事前】 シラバスを読んでおく 【事後】 配布ノートの見直し
第2回	なぜ歯口清掃をするのか① (唾液中の細菌の存在)	【事前】 第6回 配布ノートの事前学修『オーラルヘルスケア事典のp2～9を熟読する。 【事後】 配布ノートの見直し
第3回	なぜ歯口清掃をするのか② (唾液中の細菌数の測定)	【事前】 『オーラルヘルスケア事典のp2～9を熟読する。 【事後】 自身のデータの確認
第4回	口腔の基礎知識(正常な口腔像)	【事前】 第2回 配布ノート事前学修 【事後】 配布ノートの見直し
第5回	口腔内観察①(口腔の異常像:歯・歯肉)	【事前】 第3回 配布ノートの事前学修 【事後】 配布ノートの見直し
第6回	口腔内観察②(付着物・沈着物)	【事前】 第4回 配布ノートの事前学修 【事後】 配布ノートの見直し
第7回	口腔内観察③(自己の口腔内観察)・プラーク染色法	【事前】 第5回 配布ノートの事前学修 【事後】 配布ノートの見直し
第8回	小テスト 指数①(プラーク指数:OHI,OHI-S)	【事前】 小テストに向けて第7回までの配布ノートの見直し、第8回 配布ノートの事前学修 【事後】 配布ノートの見直し
第9回	指数②(プラーク指数:O'lealy・歯周疾患指数)	【事前】 第9回 配布ノートの事前学修 【事後】 配布ノートの見直し
第10回	指数③(指数に関する練習問題)	【事前】 第10回 配布ノートの事前学修 【事後】 配布ノートの見直し
第11回	口腔清掃法①(歯ブラシ)	【事前】 第11回 配布ノートの事前学修 【事後】 配布ノートの見直し
第12回	口腔清掃法②(ブラッシング法)	【事前】 第12回 配布ノートの事前学修 【事後】 配布ノートの見直し
第13回	口腔清掃法③(補助的清掃用具)	【事前】 第13回 配布ノートの事前学修 【事後】 配布ノートの見直し

第 14 回	口腔清掃法④（洗口剤等） 自己の口腔清掃法の検討	【事前】 第 14 回 配布ノートの事前学修 【事後】 小テストに向けて第 8 回～ 14 回までの配布ノートの見直し、自己の口腔清掃法のまとめ
第 15 回	小テスト グループワーク（自己の口腔清掃法） まとめ	【事前】 第 8 回～第 14 回までの配布ノートの見直し 第 15 回 配布ノートの事前学修 【事後】 全体の振り返り、定期テストにむけてのまとめ

学修の到達目標	
1. 口腔の疾患は、細菌感染症であることを理解する。 2. 口腔清掃の意義を理解する。 3. 各種口腔清掃法を理解する。 4. 各種口腔清掃用具を理解する。 5. 自己の口腔健康管理ができる。 6. 口腔清掃の評価方法を理解する。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の基礎的な知識を身につけている。 (専門力)	秀	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の知識を確実に身につけている。
	優	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の知識を十分なレベルで身につけている。
	良	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の知識を一定のレベルで身につけている。
	可	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の知識を身につけていない。
② 歯科衛生士になるための学修や知識習得に楽しさを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出し、達成感を得ることができる。また、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修に導くことができている。
	優	自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出すことができる。
	可	他者からの促しによって学修し、他者からの指摘により楽しさを見出すことができる。
	不可	学修や知識習得に楽しさを見出すことができない。
③ 自己の口腔内を観察し、効果的な清掃方法について考察することができる。 (論理的思考力)	秀	授業で学んだことをふまえて、自己の口腔内を観察し分析した上で、効果的に清掃する方法について十分考察し、実行することができる。
	優	授業で学んだことをふまえて、自己の口腔内を観察し、効果的に清掃する方法について考察し、実行することができる。
	良	授業で学んだことをふまえて、自己の口腔内を観察し、効果的に清掃する方法について考察することができる。
	可	授業で学んだことをふまえて、自己の口腔内を観察し、口腔清掃する方法についてある程度考察することができる。
	不可	自己の口腔内を観察し口腔清掃する方法について考察することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	10	0	0	0	10	100
評価項目	① 知識の修得	80	0	0	0	0	10	90
	② 学修の楽しさ	0	5	0	0	0	0	5
	③ 保健指導知識の活用と考察力	0	5	0	0	0	0	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	15回の授業後に、授業の成果確認のため筆記試験を実施する。試験は教科書と配布ノートから出題し、授業の過程において知識が修得できているかを確認する。
	②	
	③	
提出物	①	第14回目の授業終了後に配布ノートを提出してもらい、そのノートの記載内容がどれだけ充実したものになっているかを評価する。また第15回目終了時に自己の口腔清掃法についてのレポートを提出してもらい、レポートの記述内容をもって評価する。
	②	
	③	
その他	①	第8回目と第15回目に小テストを実施し、その結果をもって評価する。
	②	
	③	

履修に必要な知識・技能・態度など

毎回の授業前には必ずその回の内容に関するページを読んでおくこと。配布ノートは知識習得のためのツールとなりうるものであるため、授業の説明で教員が提示した内容を書き込むだけでなく教科書や口頭での説明などを詳細に記載し充実したノートに作り上げていく必要がある。また、知識を技術に繋げていくことができるように、自己の口腔内の観察を行い自己の口腔清掃法を考察することができることを目標に、毎日の歯磨き習慣に興味を持ち日々を過ごすこと。第8回目と第15回目に小テストを行い、知識の確認を行う。

この科目は、歯科衛生士の業務にかかわる重要な科目であり、次に続く実践科目の基礎となるものであるため、体調を整え講義には必ず出席をすること。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
『オーラルヘルスケア事典』 松田裕子編著 学建書院
参考書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
『改訂歯ブラシ事典』 松田裕子編著 学建書院
『最新歯科衛生士教本 保健生態学』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科予防処置演習A I (う蝕) (O23300)	演習	1	30	1	後期	必修	-	破魔幸枝	5号館3階 研究室他
う蝕の原因に基づいた う蝕予防処置方法を習得する								複数担当	
科目担当者	破魔幸枝、高橋由希子、小林容子								

授業の概要	歯科予防処置演習A Iでは、う蝕予防とその具体的な処置方法に対する理論と実際の方法について演習を通じて学習する。また、相互実習では実際の臨床現場を想定しながらう蝕予防の術式により実践に近い形で授業を展開する。								
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業			<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学习支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()					

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション う蝕の原因・予防方法について フッ化物局所応用法について (担当者：科目担当者全員)	【事前】 シラバスの確認、歯科予防処置論A、口腔衛生学授業振り返り 【事後】 授業内容の確認
第2回	フッ化物洗口法の実践 (同上)	【事前】 前回の授業内容の確認(フッ化物局所応用) 【事後】 演習内容の反省・考察
第3回	う蝕活動性試験1(唾液) (同上)	【事前】 該当するページの確認(う蝕について) 【事後】 演習内容の反省・考察
第4回	う蝕活動性試験2(細菌) (同上)	【事前】 前回の授業内容の確認(う蝕活動性試験) 【事後】 演習内容の反省・考察
第5回	歯磨剤について 調査 (同上)	【事前】 該当するページの確認(歯磨剤) 【事後】 演習内容の反省・考察
第6回	歯磨剤について 分析 (同上)	【事前】 前回の授業内容の確認(歯磨剤) 【事後】 演習内容の反省・考察
第7回	リスクに応じたう蝕予防処置方法 (同上)	【事前】 授業内容の振り返り・整理 【事後】 演習内容の反省・考察
第8回	リスクに応じたう蝕予防処置方法(発表) (同上)	【事前】 授業内容の振り返り・まとめ 【事後】 授業内容の振り返り

学修の到達目標
う蝕の原因に基づいたう蝕予防処置方法を説明することができる。 フッ化物局所応用を説明することができる。 フッ化物洗口法を行うことができる。 う蝕リスクを検討する知識を習得する。 う蝕活動性試験を行うことができる。 フッ化物配合歯磨剤について説明できる。 う蝕の原因に基づいたう蝕予防処置方法を検討することができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①う 蝕予防処置の基礎的な知識を身につけている (専門力)	秀	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていない。
②う 蝕予防処置の実践に必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる (情報力)	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
③う 蝕予防処置法に対して、自己の思考を振り返り、模索することができる (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	15	30	0	0	5	100
評価項目	① 専門力	50	5	10	0	0	0	65
	② 情報力	0	5	10	0	0	0	15
	③ 省察力	0	5	10	0	0	5	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	筆記試験
	②	
	③	
提出物	① レ	レポート課題
	② レ	
	③ レ	
成果発表 (口頭・実技)	① レ	実技実習
	② レ	
	③ レ	
その他	①	受講態度
	②	
	③ レ	

履修に必要な知識・技能・態度など

歯科衛生士に必用な知識・技術を習得するための授業である。体調を整え、講義・演習には必ず出席すること。前期の口腔衛生学・歯科予防処置 A の教科書、授業冊子は熟読し、必ず復習してから臨むこと。演習では学習したことを理解してすぐ実践する能力や、他の学生との協調性も重要である。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『歯科衛生士のための齲蝕予防処置法 第2版』中垣晴男 加藤一夫 石飛國子 高坂利美 編著 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 保健生態学 第3版』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
参考書：『最新歯科衛生士教本 口腔保健管理』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科予防処置演習B I (歯周病) (O23320)	演 習	2	60	1	後 期	必 修	-	高橋由希子	5号館3階 研究室他
予防的スクレーリングの基本技術の習得								複数担当	
科目担当者	高橋由希子、破魔幸枝、小林容子								

授業の概要	歯周病の知識を踏まえ、歯周疾患予防における歯科衛生士の果たす役割を学ぶ。歯科予防処置の知識と具体的な技術を習得し、相互実習により患者への対応法なども習得し、互いに学びあう姿勢で学習を深めていく。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業	() ICT (manaba) 活用の自主学习支援 (レ) グループワーク () プレゼンテーション (レ) 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション (担当者：科目担当者全員)	【事前】 【事後】 演習内容の復習
第2回	予防的歯石除去に必要な器具の基礎知識 口腔内診査・基本操作・ポジショニング (同上)	【事前】 教科書の確認 【事後】 演習内容の復習
第3回	歯周組織検査マネキン実習 (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第4回	歯周組織検査相互実習 (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第5回	歯周組織検査相互実習 (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第6回	シックルスケーラー操作マネキン実習 (上顎) (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第7回	シックルスケーラー操作マネキン演習 (下顎) (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第8回	シックルスケーラー操作マネキン演習 (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第9回	シックルスケーラー操作実技テスト (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第10回	シックルスケーラー操作相互実習 (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第11回	超音波スケーラーマネキン実習 (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第12回	PCR・エアースケーラー相互演習 (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第13回	PCR・エアースケーラー相互演習 (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第14回	シャープニング講義・演習 (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第15回	フローマネキン実習 (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習

学修の到達目標

- 1) プロービング技術を修得する。
- 2) 歯の付着物・沈着物を探査することができる。
- 3) シックルスケラーの操作法を習得する。
- 4) 超音波スケラー・エアースケラーの操作法を習得する。
- 5) 歯面研磨の目的を理解する。
- 6) 歯面清掃器の操作法を習得する。
- 7) シャーピングの目的を理解する
- 8) シャーピング法を習得する。
- 9) 患者への対応法を習得する。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①必要な歯科予防処置の基礎的な知識を身につけている。 (専門力)	秀	必要な歯科予防処置の知識を確実に身につけている。
	優	必要な歯科予防処置の知識を十分なレベルで身につけている。
	良	必要な歯科予防処置の知識を一定のレベルで身につけている。
	可	必要な歯科予防処置の知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	必要な歯科予防処置の知識を身につけていない。
②歯科予防処置に対し知識・技能を学び、考え、行動する。 (継続力)	秀	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって、楽しみながら物事に打ち込み続けることができる。
	優	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって物事に打ち込み続けることができる。
	良	ある程度自発的に、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	可	他者からの助言や何らかの外的条件づけのもと、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	不可	忍耐力・継続的実行力がない。
③情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる。 (判断力)	秀	すでに持っている知識、演習中得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使し、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	すでに持っている知識、演習中得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使し、短時間で正確な状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、演習中得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力等のいくつかを機能させつつ、自力で適切な課題の遂行ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、与えられた課題を一定レベルにおいて実行することができる。
	不可	与えられた場面において何をしたらいいのかわからない。
④自らの学びに対して正しく振り返ることができる。 (省察力)	秀	自身の知識・技能の修得のための考察を確実に行うことができ、次回の学修につなげることができる。
	優	自身の知識・技能の修得のための考察を十分なレベルで行うことができ、次回の学修につなげることができる。
	良	自身の知識・技能の修得のための考察を一定のレベルで行うことができる。
	可	自身の知識・技能の修得のための考察を最低限のレベルで行うことができる。
	不可	自身の知識・技能の修得のための考察を行うことができない。または振り返りレポートを提出しない。
⑤歯周治療の必要性や知識習得に楽しさを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出し、達成感を得ることができる。また、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修に導くことができている。
	優	自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出すことができる。
	可	他者からの促しによって学修し、他者からの指摘により楽しさを見出すことができる。
	不可	学修や知識習得に楽しさを見出すことができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	0	30	0	15	5	100
評価項目	① 専門力	30	0	10	0	5	0	45
	② 継続力	5	0	5	0	5	5	20
	③ 判断力	0	0	5	0	0	0	5
	④ 省察力	10	0	5	0	5	0	20
	⑤ 知欲	5	0	5	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	筆記試験を実施する。 試験は教科書と配布資料から出題し、講義過程において知識が修得できているかを確認する。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
成果発表 (口頭・実技)	①	実技テストを実施する。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
ポートフォリオ	①	必要に応じて実習に対するポートフォリオを作成し、提出する。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
その他	①	出席状況および学内評価
	②	
	③	
	④	
	⑤	

履修に必要な知識・技能・態度など
<p>歯科衛生士に必要な知識・技術を習得するための演習であり、やむを得ない場合を除き以外は原則として欠席を認めない。前期の歯科予防処置論 B の教科書ならびに講義冊子は熟読し、必ず復習してから臨む。相互演習では学習内容を理解し、実践する能力や他者との協調性も重要である。技術習得は繰り返し行う事で身につくため、自己学習を必須とする。</p>
教科書・参考書
<p>教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論第 2 版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：『目で見るとペリオドンタルインスツルメンテーション I ベーシックスキル』 Jill S. Nield-Gehrig 著 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第 2 版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 年度別歯科衛生士国家試験問題集 2020 年度版 医歯薬出版</p>

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科保健指導演習 I (O23340)	演 習	1	30	1	後 期	必 修	-	中村美紀	5号館3階 研究室他
個別歯科保健指導技法の学修 100%磨きを達成しよう								複数担当	
科目担当者	中村美紀、福田昌代、浅枝麻夢可								

授業の概要	<p>自己の口腔健康管理の方法を基に他者の口腔健康管理の方法を学修する。具体的には自己の口腔健康管理の方法に加えて、医療面接技法を学び、学生間での相互実習による学びから他者への個別歯科保健指導の技法を習得する。また、上級生との合同実習から歯科衛生士としての知識習得の必要性や重要性を確認する。</p> <p>相互実習では患者としての体験を通じて患者配慮を学ぶ。</p>
アクティブ・ラーニングの要素	<p>(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援</p> <p>() ディスカッション、ディベート () グループワーク () プレゼンテーション</p> <p>(レ) 実習、フィールドワーク (レ) 課題解決型学習(外部協定 有・無)</p> <p>() 反転授業 () その他 ()</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション、医療面接・情報収集 (担当者：中村)	【事前】 シラバスを読んでおく。 【事後】 授業の内容を振り返り。
第 2 回	口腔清掃器具の取扱い① (歯ブラシ) 口腔清掃器具の取扱い② (補助用具) 口腔清掃器具の取扱い③ (複雑な口腔内の症例) (担当者：全員)	【事前】 歯科保健指導論IIの復習。 【事後】 授業の内容を振り返り。
第 3 回	自己 100%磨き① (歯ブラシ・補助用具) 自己 100%磨き② (電動歯ブラシ) (担当者：全員、ゲストスピーカー)	【事前】 前回の授業の復習。 【事後】 授業の内容を振り返り。
第 4 回	口腔用液体製剤の使用方法和取扱い (担当者：全員、ゲストスピーカー)	【事前】 前回の授業の復習。 【事後】 授業内容の振り返り。
第 5 回	相互 100%磨き① (歯ブラシ) (担当者：全員)	【事前】 前回の授業の復習。 【事後】 授業の内容を振り返り
第 6 回	相互 100%磨き② (補助用具) (担当者：全員)	【事前】 前回の授業の復習。 【事後】 授業の内容を振り返り
第 7 回	患者体験・2年生によるアセスメント① 医療面接・情報収集 (担当者：全員)	【事前】 医療面接・情報収集の復習。 【事後】 患者体験の記録
第 8 回	患者体験・2年生によるアセスメント② 口腔状況等情報収集 (担当者：全員)	【事前】 2年生への質問事項の準備 【事後】 患者体験記録、歯科保健指導演習 I の振り返り。

学修の到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 自己および他者の口腔清掃ができる。 他者の口腔内で口腔清掃用具を応用できる。 医療面接・情報収集ができる。 患者としての体験をまとめ、今後の学修に生かすことができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の基礎的な知識と技能を身につけている。 (専門力)	秀	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の基礎的な知識と技能を両方とも確実に身につけている。
	優	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の基礎的な知識と技能を十分なレベルで身につけている。
	良	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の基礎的な知識と技能を一定のレベルで身につけている。
	可	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の基礎的な知識と技能を最低限のレベルで身につけている。
	不可	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の基礎的な知識と技能を身につけていない。
② 他者の口腔内を把握し、口腔状況に適した口腔清掃法を選択し実行することができる。 (論理的思考力)	秀	授業で学んだことを踏まえて、他者の口腔内を観察し分析したうえで、効果的に清掃する方法について考察し、実行することができる。
	優	授業で学んだことを踏まえて、他者の口腔内を観察し、効果的に清掃する方法について考察し、実行することができる。
	良	授業で学んだことを踏まえて、他者の口腔内を観察し、効果的に清掃する方法について考察することができる。
	可	授業で学んだことを踏まえて、他者の口腔内を観察し、効果的に清掃する方法についてある程度考察することができる。
	不可	他者の口腔内を観察や口腔清掃する方法について考察することができない。
③ 自己の口腔内のプラークをすべて除去し、口腔を健康に保つことができる。 (自己管理能力)	秀	自己の口腔内を十分に把握し、口腔清掃用具を効果的に使用し、プラークを100%除去することができる。
	優	自己の口腔内を十分に把握し、口腔清掃用具を効果的に使用し、プラークを80%除去することができる。
	良	自己の口腔内を十分に把握し、口腔清掃用具を使用し、プラークを70-80%除去することができる。
	可	自己の口腔内を十分に把握し、口腔清掃用具を使用し、プラークを60-70%除去することができる。
	不可	口腔清掃用具を使用しているが、プラークを60%未満しか除去できない。
④ 演習内容を振り返り、知識・技能の修得に導くための考察を行うことができる。 (省察力)	秀	演習内容を振り返りレポートにおいて、自身の知識・技能の修得のための考察を確実に行うことができ、次回の学修につなげることができる。
	優	演習内容を振り返りレポートにおいて、自身の知識・技能の修得のための考察を十分なレベルで行うことができ、次回の学修につなげることができる。
	良	演習内容を振り返りレポートにおいて、自身の知識・技能の修得のための考察を一定のレベルで行うことができる。
	可	演習内容を振り返りレポートにおいて、自身の知識・技能の修得のための考察を最低限のレベルで行うことができる。
	不可	演習内容を振り返りレポートにおいて、自身の知識・技能の修得のための考察を行うことができない。または振り返りレポートを提出しない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	10	20	0	0	10	100
評価項目	① 専門力	60	0	0	0	10	70
	② 論理的思考力	0	0	10	0	0	10
	③ 自己管理能力	0	0	10	0	0	10
	④ 省察力	0	10	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	筆記試験（持ち込み不可）
	②	
	③	
	④	
提出物	①	内容以外に、提出期限の順守も評価の対象とする。
	②	
	③	
	④	
成果発表 (口頭・実技)	①	自己と他者において、口腔内を把握し、口腔清掃用具を使用して100%磨きが達成できるか評価する。
	②	
	③	
	④	
その他	①	小テストを実施。
	②	
	③	
	④	

履修に必要な知識・技能・態度など

歯科保健指導論Ⅱで学修した内容を実践へとつなげる授業です。
 授業の準備物等について事前に manaba にて確認してください。
 欠席のないように体調管理に注意してください。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
 参考書：随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
学びの基礎 (ZO2000)	講 義	1	15	1	前 期	選 択	-	吉田幸恵	5号館3階 研究室他
専門職を目指すための学びを知る								複数担当	
科目担当者	吉田幸恵、専任教員								

授業の概要	授業の前半は学科教員全員が担当し、小グループ（学生6名程度）で授業を行う。グループワークや入学前課題の発表等を通じて大学での学び方や学生生活の過ごし方などを知る。授業後半は病院や関連施設における医療・福祉専門職者の働く姿を見聞し、専門職者や目指す歯科衛生士の役割を理解する。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	チューター制によるグループワーク (1) オリエンテーション・自己紹介 (担当者：チューター担当教員*)	【事前】自己アピールの内容を準備する 【事後】授業時の指摘事項を確認する
第2回	チューター制によるグループワーク (2) 大学生活の過ごし方 (担当者：チューター担当教員*)	【事前】大学生活の過ごし方を考える 【事後】授業時の指摘事項を確認する
第3回	チューター制によるグループワーク (3) 学修方法・プレゼン方法 (担当者：チューター担当教員*)	【事前】入学前課題を確認する 【事後】授業時の指摘事項を確認する
第4回	チューター制によるグループワーク (4) 入学前課題プレゼンテーション (担当者：チューター担当教員*)	【事前】入学前課題の発表準備をする 【事後】授業時の指摘事項を確認する
第5回	ときわ病院見学実習のガイダンス (担当者：見学実習担当教員**)	【事前】病院における専門職とその業務について調べる 【事後】ガイダンスをふりかえる
第6回	ときわ病院（歯科口腔外科、病棟等）の見学実習 (担当者：見学実習担当教員**)	【事前】専門職間の連携について調べる 【事後】多職種連携について理解する
第7回	ときわ病院関連施設 (通所リハビリテーションたんぼぼ)の見学実習 (担当者：見学実習担当教員**)	【事前】医療と福祉について調べる 【事後】医療と福祉の連携を理解する
第8回	ときわ病院等の見学実習のふりかえり (担当者：見学実習担当教員**)	【事前】見学レポートを作成する 【事後】医療や福祉における歯科衛生士の役割を知る

*チューター担当教員：少人数（6人程度）で構成したクラスに配置された担当教員

**見学実習担当教員：A、Bクラス（各40人程度）で構成したクラスに配置された担当教員

学修の到達目標
1. グループワークに能動的に参加できる。 2. 入学前課題の発表を指示された方法で行うことができる。 3. 専門職（歯科衛生士を含む）の役割が理解できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①グループワークで思いや考えを表現し他者に伝えることができる(入学前課題の発表を含む) (表現力)	秀	グループワークや入学前課題の発表において、自分自身の思いや意見を他者に伝えることができる。その際、文字や話し言葉、表現方法については、他者が理解できるように配慮する能力がある。
	優	グループワークや入学前課題の発表において、自分自身の思いや意見を他者に伝えることができる。その際、文字や話し言葉、表現方法は適切であり、他者が理解しやすい。
	良	グループワークや入学前課題の発表において、自分自身の思いや意見を、文字や話し言葉、態度等の表現方法で他者に伝えることができる。
	可	グループワークや入学前課題の発表において、自分自身の思いや意見を何らかの方法で他者に伝えることができる。
	不可	グループワークや入学前課題の発表において、自分自身の思いや意見を他者に伝えることができない。
②見学実習で得た情報を整理・分析し、専門職の役割を理解することができる。 (情報力)	秀	病院および関連施設で得た情報を整理・分析した上で、さらに自発的な情報収集を行い、専門職の役割を理解し、目指す歯科衛生士について言及できる。
	優	病院および関連施設で得た情報を整理・分析した上で、さらに自発的な情報収集を行い、専門職の役割を理解することができる。
	良	病院および関連施設で得た情報を整理・分析し、専門職の役割を理解することができる。
	可	病院および関連施設で得た情報を整理・分析しているが、十分ではなく、専門職の理解度が低い。
	不可	病院および関連施設で得た情報が十分に整理・分析されていない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	20	20	0	0	20	100
評価項目	① 表現力	40	0	20	0	0	20	80
	② 情報力	0	20	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	レポート試験
	②	
提出物	①	見学実習の振り返りのレポート
	② レ	
成果発表 (口頭・実技)	① レ	入学前課題の口頭発表
	②	
その他	① レ	グループワークへの参加姿勢
	②	

履修に必要な知識・技能・態度など
1. 高校と大学での学び方や過ごし方の違いを考えて下さい。 2. グループワークに積極的に参加して下さい。
教科書・参考書
教科書：特になし 参考書：特になし

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
まなぶる▶ときわびと I (ZO2010)	演習	1	30	1	前期	選択	-	光成研一郎	7号館5階 研究室他
学ぶ+ Able → 学ぶ喜び、知る楽しさ								複数担当	
科目担当者	光成研一郎、伴仲謙欣、「まなぶる▶ときわびと I」担当者								

授業の概要	この授業では、そもそも「学ぶ」とはどういうことかを仲間と共に考え、実践し、また卒業後も学び続ける力を身につけてもらうことをねらいとしています。この授業では、一貫してグループで活動することを基本としています。その学習方法を Team Based Learning といいます。これからどのような活動をしていく中においても、またどのような職業に就くとしても、他者との関わりなくして生きていくことはありえません。仲間と共に考え、実践することは、どの社会においても必須の力となります。自分だけの世界に閉じこもることなく、心を開き、楽しく仲間と学び合える授業にしてください。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク (レ) 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学习支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション (レ) 課題解決型学習(外部協定 有・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	ロジカルコミュニケーション④ テーマ：ロジカルシンキング	【事前】 反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述 【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述
第 2 回	ロジカルコミュニケーション⑤ テーマ：クリティカルシンキング	【事前】 反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述 【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述
第 3 回		
第 4 回	ロジカルコミュニケーション⑥ テーマ：テキストシンキング	【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述
第 5 回		
第 6 回	ロジカルコミュニケーション⑦ テーマ：ビジュアルシンキング	【事前】 反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述 【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述
第 7 回		
第 8 回	ロジカルコミュニケーション⑧ テーマ：アカデミックディベート	【事前】 反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述 【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述
第 9 回		
第 10 回	ロジカルコミュニケーション⑨ テーマ：プレゼンテーション I ・プレゼンテーションの準備	【事前】 反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述 【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述
第 11 回		
第 12 回	ロジカルコミュニケーション⑩ テーマ：プレゼンテーション II ・プレゼンテーションの実践	【事前】 プレゼンテーション準備 【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述
第 13 回		

第14回	まとめ テーマ：リフレクション	【事後】自己評価シートの作成
第15回	・凝縮ポートフォリオの作成 ・プレゼントカードの作成および交換	

学修の到達目標	
Team Based Learning を通して、以下に示す色々な“できる (able)” を身につける。 仲間を作ることができる、仲間と議論することができる、論理的に考えることができる、自分の考えを表現することができる、自らの学びを振り返ることができる、学び・考え・実行する姿勢とその努力を継続することができる。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①他者と一つの課題について協力して取り組むことができる。 (協調性・協働力)	秀	別の意見や批判的な意見を取り入れながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の意義を具体的に示しながらグループ活動全体のパフォーマンスが向上していることを全員が実感できるようにその役割を果たすことができる。
	優	別の意見や批判的な意見に耳を傾けながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の必要性を他者に説明しつつそれを果たすことができる。
	良	グループの中で自ら役割を見出し、それを果たすことができる。
	可	自分に与えられた役割を果たすことができる。
	不可	自分に与えられた役割を果たすことができない。
②根拠に基づき、論理的に考えることができる。 (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
③他者に対して自らの考えを表現することができる。 (表現力)	秀	他者に対して自らの考えや取り組みが他とどのように違うのかを示しつつ、それが相手にとってどのような意味があるのかも含めて、客観的に分かりやすく伝えることができる。
	優	他者に対して自らの考えや取り組みが他とどのように違うのかを示しつつ、それらを客観的に分かりやすく伝えることができる。
	良	他者に対して自らの考えや取り組みを、相手が理解しやすいように整理して伝えることができる。
	可	他者に対して自らの考えや取り組みをそのまま伝えている。
	不可	他者に対して自らの考えや取り組みを伝えない。
④自らの学びに対して正しく振り返ることができる。 (省察力)	秀	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明するとともに、課題の克服や成長に関する具体的な指針を学びの成果から示すことができる。
	優	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明することができる (学びを自らの成長と結びつけて振り返る)。
	良	自分が何を学んだのかとともに、その学びが自分にとってどのような意味があったのかを振り返って説明することができる (学びを総体的に振り返る)。
	可	自分が何を学んだのか説明することができる。
	不可	自分が何を学んだのか説明することができない。
⑤学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。 (継続力)	秀	与えられた課題にとどまらず、主体的に学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	優	与えられた課題に対して、主体的に学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	良	与えられた課題に対して、学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	可	与えられた課題に対して、学び、考え、実行することができている。
	不可	与えられた課題に対して、学び、考え、実行することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		20	20	20	0	20	20	100
評価項目	① 協調性・協働力	0	0	0	0	0	20	20
	② 論理的思考力	20	0	0	0	0	0	20
	③ 表現力	0	0	20	0	0	0	20
	④ 省察力	0	0	0	0	20	0	20
	⑤ 継続力	0	20	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レポート試験を実施する。
	② レ	
	③	
	④	
	⑤	
提出物	①	manaba 上で提出する、事前・事後課題について、指示されたとおりに取り組み、提出されたかどうかを評価する。
	②	
	③	
	④	
	⑤ レ	
成果発表 (口頭・実技)	①	プレゼンテーションを評価する。 評価は、学生の自己評価と教員による評価で行う。
	②	
	③ レ	
	④	
	⑤	
ポートフォリオ	①	各自が授業で取り組むワークシートと、取り組みを自ら振り返り評価する振り返り票を、それぞれの学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。ポートフォリオとして蓄積する書類のファイリングが正しくなされているかについても評価する。もちろん正当な理由なく、ワークシートや振り返り票が欠落していることは減点の対象となる。最終的に凝縮ポートフォリオを作成した上で総合的に評価する。
	②	
	③	
	④ レ	
	⑤	
その他	① レ	グループ活動において積極的に発言することや、主体的・能動的に取り組んだことについては、加点の評価対象となる。評価は、学生の自己評価と教員による評価で行う。
	②	
	③	
	④	
	⑤	

履修に必要な知識・技能・態度など
この授業では、一貫してグループで活動することを基本としています。まだ見知らぬ人と一緒に半期共に活動をしていくわけですが、特段不安に思うことなく気を楽しんで授業に臨んでほしいと思います。
ただし、学ぶことには常に一生懸命であってほしいため、こちらが提示する課題についてはすべて真剣に取り組むようにしてください。
教科書・参考書
教科書：適宜、教材・資料等は配布する。
参考書：使用しない。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
まなぶる▶ときわびとII (ZO2020)	演習	1	30	1	後期	選択	-	光成研一郎	7号館5階 研究室他
学ぶ+ Able → 学び方をまなぶ								複数担当	
科目担当者	光成、伴仲、基盤「まなぶる▶ときわびとII」担当者								

授業の概要	「まなぶる▶ときわびとI」に引き続き、「まなぶる▶ときわびとII」でも、一貫してグループで活動することを基本とし、Team Based Learningを行います。「まなぶる▶ときわびとII」では、「まなぶる▶ときわびとI」での学びを発展させて、計画的学修および教えあい、学びあいに取り組みます。個人の力だけではなく、チームの力を伸ばすことを意識した課題に取り組みます。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク (レ) 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学习支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション (レ) 課題解決型学習(外部協定 有・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	この授業について知ろう ・授業の概要や進め方について	【事前】 シラバスの熟読 【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述
第2回	グループを作ろう ・共に学ぶ仲間をつくる。	
第3回	チームの絆を深めよう	【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述
第4回	テーマ：チームビルディング	
第5回	計画的学修と教え合い① アセスメントテスト (プレ大テスト)	【事後】 学修計画表の見直し
第6回	学修計画表の作成	
第7回	計画的学修と教え合い② プレ小テストI	【事前】 プレテスト準備 【事後】 単元の復習
第8回	協働学修 (学び合い) ポスト小テストI	
第9回	計画的学修と教え合い③ プレ小テストII	【事前】 プレテスト準備 【事後】 単元の復習
第10回	協働学修 (学び合い) ポスト小テストII	
第11回	計画的学修と教え合い④ プレ小テストIII	【事前】 プレテスト準備 【事後】 単元の復習
第12回	協働学修 (学び合い) ポスト小テストIII	
第13回	計画的学修と教え合い⑤ プレ小テストIV	【事前】 最終テスト対策 【事後】 単元の復習
第14回	協働学修 (学び合い) アセスメントテスト (ポスト大テスト)	
第15回	振り返りシートの作成 (個人・グループ)	【事後】 定期試験の準備

学修の到達目標

- ・計画的学修遂行による「独自の学修スタイル」の確立と学修に対する「達成感」を獲得する
- ・「学び合い」協働学修により「教えること」による自らの学修効果を認識する

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①他者と一つの課題について協力して取り組むことができる。 (協調性・協働力)	秀	別の意見や批判的な意見を取り入れながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の意義を具体的に示しながらグループ活動全体のパフォーマンスが向上していることを全員が実感できるようにその役割を果たすことができる。
	優	別の意見や批判的な意見に耳を傾けながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の必要性を他者に説明しつつそれを果たすことができる。
	良	グループの中で自ら役割を見出し、それを果たすことができる。
	可	自分に与えられた役割を果たすことができる。
	不可	自分に与えられた役割を果たすことができない。
②根拠に基づき、論理的に考えることができる。 (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
③学ぶこと・知ること、楽しさと悦びを見出すことができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと悦びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと悦びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ること、楽しさと悦びを見出すことができない。
④自らの学びに対して正しく振り返ることができる。 (省察力)	秀	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明するとともに、課題の克服や成長に関する具体的な指針を学びの成果から示すことができる。
	優	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明することができる（学びを自らの成長と結びつけて振り返る）。
	良	自分が何を学んだのかとともに、その学びが自分にとってどのような意味があったのかを振り返って説明することができる（学びを総体的に振り返る）。
	可	自分が何を学んだのか説明することができる。
⑤学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。 (継続力)	秀	与えられた課題にとどまらず、主体的に学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	優	与えられた課題に対して、主体的に学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	良	与えられた課題に対して、学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	可	与えられた課題に対して、学び、考え、実行することができている。
	不可	与えられた課題に対して、学び、考え、実行することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		20	20	10	0	25	25	100
評価項目	① 協調性・協働力	0	0	0	0	0	25	25
	② 論理的思考力	20	0	0	0	0	0	20
	③ 知欲	0	0	10	0	0	0	10
	④ 省察力	0	0	0	0	25	0	25
	⑤ 継続力	0	20	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レポート試験を実施する。
	② レ	
	③	
	④	
	⑤	
提出物	①	学修計画表、manaba 上で提出する、事前・事後課題について、指示されたとおりに取り組み、提出されたかどうかを評価する。
	②	
	③	
	④	
	⑤ レ	
成果発表 (口頭・実技)	①	SPI の個人成績を反映する。
	②	
	③ レ	
	④	
	⑤	
ポートフォリオ	①	チーム内での教え合いの工夫・戦略・成果、授業の振り返りなどの記述等。もちろん正当な理由なく、振り返りシートが欠落していることは減点の材料となる。
	②	
	③	
	④ レ	
	⑤	
その他	① レ	ワークの中で積極的に発言することや、主体的・能動的に取り組んだことについては、加点の評価対象となる。
	②	
	③	
	④	
	⑤	

履修に必要な知識・技能・態度など
当然のことですが、この授業は出席することが評価（単位取得）の前提条件となります。 【準備物】スマートフォン・ルーズリーフ（A4 サイズ）
教科書・参考書
教科書：これが本当の SPI3 テストセンターだ！【最新版】SPI ノートの会 参考書：使用しない。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
地域との協働A (ZO2030)	演習	1	30	1 3	通年	選択	-	大城亜水	7号館5階 研究室
ガリ勉をやめて地域へ繰り出そう								複数担当	
科目担当者	大城亜水、伴仲謙欣、紀ノ岡浩美、尾崎優子								

授業の概要	1人ひとりが地域社会の一員として、どのように生活し、さまざまな課題にどう向き合い、協力し合っどう解決し、より暮らしやすく活力のあるまちづくりに取り組めるかについて考えます。具体的には、初回のガイダンス時に説明する内容を基に社会・地域活動を実際に体験します。また、本授業はこれらの体験をリフレクトすることにより、地域社会の一員としてのあり方を自問自答し、そのことを通して市民性を身につけることを目指します。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	ガイダンス (授業説明) (担当者：大城、伴仲)	【事前】 シラバスに目を通す 【事後】 今後の授業に向けての抱負について、自分が可能だと思う役割を明確にする
第2回	大学生の社会・地域活動① 〔「サービスマーケティング(仮)」について考える〕 (担当者：紀ノ岡、尾崎)	【事前】 事後学修(第1回)の要約を指定場所に提出 【事後】 授業中に出された課題に取り組む
第3回	大学生の社会・地域活動② 〔「神戸常盤大学と地域活動(仮)」をテーマにこれまで本学が取り組んできた活動内容などを紹介〕 (担当者：大城、伴仲)	【事前】 事後学修(第2回)の要約を指定場所に提出 【事後】 授業中に出された課題に取り組む
第4回	大学生の社会・地域活動③ (ゲストスピーカーによる社会・地域活動の紹介) (担当者：ゲストスピーカー)	【事前】 事後学修(第3回)の要約を指定場所に提出 【事後】 授業中に出された課題に取り組む
第5回	神戸常盤大生の社会・地域活動実践 (社会・地域活動のニーズ調査、社会・地域活動体験など) (担当者：大城、伴仲)	【活動前】 希望する活動のアポ取りを行い、日時・場所、活動内容等を指定場所に報告 【活動後】 活動報告書を指定場所に提出
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		

第 14 回	神戸常盤大生の社会・地域活動まとめ (社会・地域活動体験の振り返り) (担当者：大城、伴仲)	【事前】 各自の活動体験がサービスマナーとどのようなつながりについて見解を述べ、指定場所に提出 【事後】 ふりかえり(第 14 回)を指定場所に提出
第 15 回	まとめ (学修の振り返りと共有) (担当者：大城、伴仲)	【事前】 今まで提出した manaba の課題等に目を通しておく。 【事後】 今まで行った授業・活動内容をふり返しておく

学修の到達目標	
<p>本科目は以下の 3 点を到達目標とします。</p> <p>①各活動を通して、自分に課せられた役割を全うし、他者に貢献することで精神的に成熟する(実行力)。</p> <p>②与えられた課題や報連相を滞ることなく遂行している(自己管理能力)。</p> <p>③ただ与えられた指示に従うだけでなく、自己の経験を振り返りながら課題の本質を見極めるようになる(省察力)。</p>	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①失敗を恐れず、想いや考えを具体的行動にすることができる (実行力)	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な課題の遂行ができる。またそれゆえその実行を踏まえた次の新たな創造的作業に移っていきやすい。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で十分適切な課題の遂行ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切な課題の遂行ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、与えられた課題を一定レベルにおいて実行することができる。
	不可	与えられた場面において何をしたいのかわからない。
②自ら、心身の健康を適切に管理することができる (自己管理能力)	秀	対人援助職に就くために学修する者としての責任感のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。さらにその自己管理の必要性を他者と広く共有するために行動することができる。
	優	対人援助職に就くために学修する者としての責任感のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。
	良	ある程度自発的に、心身や生活態度等の自己管理が可能である。
	可	他者からの助言や指導のもと、心身や生活態度等の自己管理が可能である。
	不可	心身や生活態度等の自己管理ができない。
③自己の思考や行動を振り返り、改善の道を常に模索することができる (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	20	0	0	0	40	100
評価項目	① 実行力	0	0	0	0	0	40	40
	② 自己管理能力	0	20	0	0	0	0	20
	③ 省察力	40	0	0	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	各活動で作成したポートフォリオをもとに凝縮ポートフォリオを作成し、それを最終レポートという形で提出されたものを評価対象とする。
	②	
	③	
提出物	①	指示された場所に提出する課題を中心に評価する。
	②	
	③	
その他	①	各活動に取り組む姿勢・態度を評価対象とする。
	②	
	③	

履修に必要な知識・技能・態度など

履修上の注意として、以下の点に十分留意しながら受講するようにして下さい。

- ①本科目は通年科目である。
- ②必ず2つの活動（2回ないし2日）に参加すること。
- ③本科目の特質上、時間割外での活動（土日含む）がある。

教科書・参考書

教科書：使用しません。
参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
コンピュータ演習Ⅱ (O21040)	演習	1	30	2	前期	必修	-	笹井隆邦	7号館5階 研究室
自由なテーマでスライドを作成し発表								単独担当	
科目担当者	笹井隆邦								

授業の概要	学内では実習終了時での発表会、就職した後での集团的指導などでプレゼンテーションを行う機会が増加している。この授業ではそのような機会に利用されるプレゼンテーションソフトの使い方について学ぶ。また、静止画や動画を取り込み、プレゼンテーションに利用することによってそれらを利用しないときに比べよりわかりやすく説明することができる。そこで静止画や動画を編集して発表用スライドに組み込み、実際にプレゼンテーションを行えることを目標とする。
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク (レ) プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	ガイダンス Windows10 の操作	【事前】 必要としない 【事後】 Windows10 の操作
第2回	デジタルカメラ・スマートフォン等から画像のデータ取り込み・編集	【事前】 取り込むデータの準備 【事後】 PC にデータを取り込む
第3回	スキャナーによるデータの取り込み・編集	【事前】 取り込むデータの準備 【事後】 スライドのテーマを考える
第4回	ペイントの利用	【事前】 ペイントについて調べる 【事後】 ペイントの練習
第5回	PowerPoint の操作	【事前】 PowerPoint とは何か 【事後】 操作の練習
第6回	スライドの作成Ⅰ (画像の貼り付け)	【事前】 写真の選定 【事後】 スライドの構成を考える
第7回	スライドの作成Ⅱ (構成)	【事前】 写真の選定・画像の貼り付け 【事後】 スライドの構成を考える
第8回	スライドの作成Ⅲ (ペイント)	【事前】 ペイントの操作について 【事後】 スライド用ペイントの作成
第9回	スライドの作成Ⅳ (アニメーションの設定)	【事前】 アニメーションについて 【事後】 アニメーションの練習
第10回	スライドの作成Ⅴ (プレゼンテーションの練習→スライドの修正)	【事前】 スライドの修正について 【事後】 スライドの仕上げ
第11回	スライドの作成Ⅵ (プレゼンテーションの練習)	【事前】 プレゼンテーションの内容の確認 【事後】 プレゼンテーションの練習
第12回	プレゼンテーションの実行Ⅰ (1班)	【事前】 プレゼンテーションの練習 【事後】 振り返り
第13回	プレゼンテーションの実行Ⅱ (2班)	【事前】 プレゼンテーションの練習 【事後】 振り返り
第14回	プレゼンテーションの実行Ⅲ (3班)	【事前】 プレゼンテーションの練習 【事後】 振り返り
第15回	プレゼンテーションの振り返り	【事前】 レポートの準備 【事後】 レポートの作成

学修の到達目標	
PowerPoint の基本操作をマスターし、プレゼンテーションをする。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①必要な情報を収集し パワーポイントで活用 することができる (情報力)	秀	必要な情報をネットから収集し パワーポイントの様々な場面で活用することができる。
	優	必要な情報をネットから収集し パワーポイントでかなり活用することができる。
	良	必要な情報をネットから収集し パワーポイントで活用することができる。
	可	必要な情報をネットから収集することができる。
	不可	必要な情報をネットから収集することができない。
②用して伝えたいこと をわかりやすく表現 できる (表現力)	秀	パワーポイントを利用して各自のテーマを多くの仲間にわかりやすく伝えることができる。
	優	パワーポイントを利用して各自のテーマをわかりやすく伝えることができる。
	良	パワーポイントを利用して各自のテーマを伝えることができる。
	可	パワーポイントを利用して各自のテーマについて発表する。
	不可	パワーポイントを利用して各自のテーマについて発表することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	10	30	0	0	30	100
評価 項目	① パワーポイントでスライド作成	30	10	0	0	0	30	70
	② プレゼンテーション	0	0	30	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	レポート試験
	②	
提出物	① レ	スライドデータを提出
	②	
成果発表 (口頭・実技)	①	プレゼンテーション
	② レ	
その他	① レ	受講態度・積極性
	②	

履修に必要な知識・技能・態度など
各自が興味を持って、積極的にプレゼンテーションを行うことが大切なので、出席することが大事である。
教科書・参考書
教科書：使用しません 参考書：『例題 50 + 演習問題 100 でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト Windows10/Office2019 対応版』 定平誠 技術評論社

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
生命倫理 (O21110)	講 義	2	30	2	前 期	必 修	-	森本誠一	7号館2階 非常勤講師 控室
医療のまつわる倫理学								単独担当	
科目担当者	森本誠一								

授業の概要	この授業では、安楽死、臓器移植、生殖補助医療、人工妊娠中絶など、現代の医療を取り巻く状況の中で生じてくる生命・医療倫理学上の問題について私たちがどうあうべきなのかを学修します。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学习支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	導入・現代の医療を取り巻く状況	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第2回	生命・医療倫理学の歴史	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第3回	医療倫理の四原則、患者中心の医療	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第4回	治療の中断をめぐる諸問題：命に関わるような治療の中断も許されるのか？	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第5回	安楽死・尊厳死・セデーション	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第6回	臓器移植と人身売買	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第7回	脳死者からの臓器移植	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第8回	中間のふり返り	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第9回	生殖補助医療	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第10回	人工授精・体外受精・顕微授精	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第11回	代理出産、子宮頸がんワクチンをめぐる問題	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第12回	出生前診断・着床前診断・新型出生前検査	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第13回	人工妊娠中絶	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第14回	身体拘束をめぐる倫理的問題	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第15回	全体のふり返り	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理

学修の到達目標

この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。(1) 事実の問題と価値の問題を区別して考えられる、(2) 現代の医療を取り巻く社会的状況について理解し説明できる、(3) 現代の医療を取り巻く社会的状況の中で生じてくる生命・医療倫理学上の問題について理解し、倫理的な観点から問題を整理して考えられる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①思考や判断に必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる (情報力)	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
②根拠に基づき、論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
③物事を多角的・批判的に捉え、考えることができる (批判的思考力)	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
④情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる (判断力)	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で十分適切な課題の遂行ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切な課題の遂行ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、与えられた課題を一定レベルにおいて実行することができる。
	不可	与えられた場面において何をしたいのかわからない。
⑤他者の声に耳を傾け、創造的な対話することができる (傾聴力・対話力)	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、相手が感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解した上で共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に身を置いて話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者に大きな関心はないが、会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	30	0	0	0	0	100
評価項目	① 情報力	14	6	0	0	0	0	20
	② 論理的思考力	14	6	0	0	0	0	20
	③ 批判的思考力	14	6	0	0	0	0	20
	④ 判断力	14	6	0	0	0	0	20
	⑤ 傾聴力・対話力	14	6	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	ノート・講義資料持ち込み不可の筆記試験を期末に実施。問題は一定の文章を読んで空欄補充や語句の説明をする総合問題。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
提出物	①	授業後に毎回リフレクションペーパーを提出。授業と関連するテーマの新聞記事（紙面版に限る）をスクラップし、それをもとにレポートを1回提出。
	②	
	③	
	④	
	⑤	

履修に必要な知識・技能・態度など
決して堅苦しい雰囲気 of 授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世の中で何が起きているのか知らなければ倫理的な判断のしようがありません。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科医療倫理 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版株式会社 参考書：適宜紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

学修の到達目標

1. 基礎的な法律用語を説明することができる。日常生活上での様々な（法律）手続きができるようになる。
2. 歯科衛生士として要求される社会的教養の修得を目指し、歯科衛生士としての資質の向上を目標とする。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①多様な人と関わることのできる人間性の基盤として教養を身につけている (教養)	秀	臨床検査・看護・教育・口腔保健等、自らの専門領域に加えて、当該授業科目に関する知識を十分に修得・理解するだけでなく、さらなる理解を深め、かつその内容が秀逸である。
	優	臨床検査・看護・教育・口腔保健等、自らの専門領域に加えて、当該授業科目に関して十分に知識を修得・理解するだけでなく、さらなる理解を深めようとしている。
	良	臨床検査・看護・教育・口腔保健等、自らの専門領域に加えて、当該授業科目に関して十分に知識を修得・理解している。
	可	臨床検査・看護・教育・口腔保健等、自らの専門領域に加えて、当該授業科目に関する知識を修得し、理解しようと努力している。
	不可	当該授業科目に関する知識・理解を修得しようという努力が見られない。
②社会の一員として知っておくべき法律の知識等・振る舞いを身につけている (常識力)	秀	一般常識、法律知識や礼儀等の社会性を、人間関係のあらゆる場面で十分に発揮させ、様々な場面で他者と深く交流できる。
	優	一般常識、法律知識や礼儀等の社会性を、人間関係のあらゆる場面で十分に発揮させることができる。
	良	一般常識、法律知識や礼儀等の社会性を、人間関係の多くの場面で発揮させることができる。
	可	一般常識、法律知識や礼儀等の社会性を、馴染みのある限られた人間関係の中では機能させることができる。
	不可	一般常識、法律意識や礼儀等の社会性が身につけていない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	20	20	0	0	0	100
評価項目	① 教養	30	10	10	0	0	0	50
	② 常識力	30	10	10	0	0	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	筆記試験を実施します。
	②	
提出物	①	レポート、コメントペーパーの提出を課します。
	②	
成果発表 (口頭・実技)	①	授業中の質疑、発表をお願いします。
	②	

履修に必要な知識・技能・態度など

講義時にレジュメ、資料等を配布しますので、紛失しない様に保管して下さい。また、レジュメには講義の内容をどんどん書き込んで下さい。現代日本社会の様々な法律的な問題を共に考えましょう！

教科書・参考書

教科書：使用しません。
参考書：講義の中で提示します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
地球と環境 (O21220)	講 義	2	30	2	前 期	選 択	-	笹井隆邦	7号館5階 研究室
自然環境に興味を持とう								単独担当	
科目担当者	笹井隆邦								

授業の概要	現在、地球を取り巻く環境が深刻な状況になってきている。例えば地球温暖化、森林破壊、砂漠化などである。また、我々の周りには健康を脅かす様々な化学物質、電磁波等が溢れている。それらについて、現状、原因物質、影響、対策等を紹介し、環境問題について理解を深めたい。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	ガイダンス・生物を分類してみよう	【事前】 【事後】 気になる生物の分類群を調べてみよう
第2回	生態系と生物多様性（地球上にヒトばかりでは生きていけない）	【事前】 生態系について予備知識を得よう 【事後】 身の回りの生態系を観察してみよう
第3回	共生（あなたは100兆個の微生物と共生している）	【事前】 共生について予備知識を得よう 【事後】 自分のペットはどんな生物と共生しているんだろう
第4回	外来生物（日本に昔からいる生きものが絶滅の危機に）	【事前】 外来生物について予備知識を得よう 【事後】 身の回りの外来生物について調べよう
第5回	種の絶滅と生物多様性（970年以降、陸、海、淡水の自然の豊かさは58%減少したらしい）	【事前】 絶滅危惧種について予備知識を得よう 【事後】 身近に絶滅危惧種はいるだろうか？
第6回	地球温暖化による生態系への影響（地球の温暖化により多くの生物に影響が及んでいる）	【事前】 温暖化について予備知識を得よう 【事後】 地球温暖化を防ぐためにできることは？
第7回	森林の減少と砂漠化（毎年兵庫県の面積の6倍の森林が消失している）	【事前】 砂漠化について予備知識を得よう 【事後】 森林減少を防ぐためにできることは何だろうか
第8回	ゲンジボタルの生態（光る生物は何のために光っているのだろうか？）	【事前】 光る生物について予備知識を得よう 【事後】 ホタルの観察に行ってみよう
第9回	里山・里海・ビオトープ（里山ってどんなイメージ？）	【事前】 里山について予備知識を得よう 【事後】 近くの里山を訪れてみよう
第10回	酸性雨（トマトジュースくらいの酸性の雨が降っている）	【事前】 酸性雨について予備知識を得よう 【事後】 酸性雨による影響を観察しよう
第11回	食品添加物（そのお菓子、毎日食べて大丈夫？）	【事前】 食品添加物について予備知識を得よう 【事後】 我が家の食品表示をチェックしよう
第12回	合成洗剤と化粧品（女性は一生に7本の口紅を食べている？）	【事前】 合成洗剤について予備知識を得よう 【事後】 自分の化粧品をチェックしよう
第13回	環境ホルモン（色々な物質がホルモンと同じように作用している）	【事前】 環境ホルモンについて予備知識を得よう 【事後】 食生活を考えてみよう
第14回	シックハウス・電磁波（新築の家が原因で体調不良？）	【事前】 シックハウスについて予備知識を得よう 【事後】 我が家のシックハウスの原因となりそうな場所は？
第15回	自然エネルギー（我々はどのように生活すればいいのだろうか）	【事前】 自然エネルギーについて予備知識を得よう 【事後】 将来のエネルギー問題を考えてみよう

学修の到達目標	
生態系や環境問題・健康について理解を深める。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①環境問題や健康に関する基本的な知識を習得している (教養・継続力)	秀	様々な環境問題に興味を持ち、何らかの形で学修を継続し、その成果を発信している。
	優	様々な環境問題に興味を持ち、何らかの形で学修を継続している。
	良	様々な環境問題に興味を持ち、何らかの形で学修をしたことがある。
	可	様々な環境問題についての知見のみにとどまっている。
	不可	様々な環境問題についての知見が不十分である。
②環境問題を改善するために考え行動することができる (貢献力)	秀	環境問題を改善するために何らかの形で学修を継続し、行動している。
	優	環境問題を改善するために、何らかの形で学修を継続している。
	良	環境問題を改善するために、何らかの形で学修をしたことがある。
	可	環境問題を改善するための知見のみにとどまっている。
	不可	環境問題を改善するための知見が不十分である。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	0	0	0	0	30	100
評価項目	① 環境問題や健康に関する基本的知識の習得	60	0	0	0	0	20	80
	② 自然環境を改善するための行動	10	0	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	筆記試験を実施する。持ち込み不可
	②	
その他	①	授業態度等
	②	

履修に必要な知識・技能・態度など	
環境問題に興味を持つ	
教科書・参考書	
教科書：使用しません。 参考書：随時紹介します。	

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
口腔健康統計学 (O22130)	演 習	1	30	2	前 期	必 修	-	玉川裕夫	7号館2階 非常勤講師 控室
患者さんに伝える Evidence を学ぶ								単独担当	
科目担当者	玉川裕夫								

授業の概要	現代医療では、Evidence-based medicine (EBM) という概念が広く受け入れられ、専門職である歯科衛生士は、予防処置や歯科保健指導など様々な状況下で EBM に基づいた実践が求められる。口腔健康統計学では、歯科疾患の疫学や歯科衛生統計の実データをもとに、演習を通して自ら思考し、多種多様な情報から診療現場で有用な Evidence を収集・選択・評価する能力を身につけることを目的とする。								
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業			(レ) ICT (manaba) 活用の自主学习支援 () グループワーク (レ) プレゼンテーション (レ) 課題解決型学習(外部協定 有・ 無) () その他 ()					

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	疫学概論	【事前】 シラバスに目を通しておく 【事後】 疫学の考え方を整理しレポートする
第 2 回	統計概論 (一般衛生統計)	【事前】 第 1 回目配布資料を見直しておく 【事後】 疫学と統計の違いを整理しレポートする
第 3 回	う蝕の疫学	【事前】 う蝕の成因を確認しておく 【事後】 う蝕の疫学的特徴を整理しレポートする
第 4 回	歯周疾患の疫学	【事前】 歯周病の成因を確認しておく 【事後】 歯周疾患の疫学的特徴を整理しレポートする
第 5 回	その他の疾病の疫学、歯科疾患実態調査	【事前】 歯科の疫学指標について復習しておく 【事後】 配布資料を完成しておく
第 6 回	歯科衛生統計① (基礎統計量)	【事前】 第 5 回目配布資料を見直しておく 【事後】 統計学の基礎用語について整理しレポートする
第 7 回	歯科衛生統計② (統計処理)	【事前】 第 6 回目配布資料を見直しておく 【事後】 統計処理の方法について整理しレポートする
第 8 回	歯科衛生統計③ (演習結果発表テーマの検討)	【事前】 第 7 回目配布資料を見直しておく 【事後】 発表テーマの情報収集方法を整理する
第 9 回	演習：資料収集① (オリジナルデータの収集)	【事前】 厚生労働省のサイトについて知っておく 【事後】 発表テーマに関する情報収集源を整理する
第 10 回	演習：資料収集② (収集済みデータの整理と加工)	【事前】 厚生労働省が持つデータについて知っておく 【事後】 収集したデータの加工法について整理する
第 11 回	演習：発表準備① (プレゼンテーションファイル準備)	【事前】 オフィスソフトの連携について知っておく 【事後】 プレゼンテーションの進捗を把握する
第 12 回	演習：発表準備② (プレゼンテーション個人予行演習)	【事前】 予行演習の意義を知っておく 【事後】 予行演習の結果を整理してレポートする
第 13 回	発表① (前半学生プレゼンテーション、学生相互評価)	【事前】 発表内容を予習しておく 【事後】 相互評価について整理しておく
第 14 回	発表② (後半学生プレゼンテーション、学生相互評価)	【事前】 発表内容を予習しておく 【事後】 相互評価について整理しておく
第 15 回	まとめ (プレゼンテーションの評価)	【事前】 第 15 回までの資料に目を通しておく 【事後】 統計処理の用語と概念について整理しておく

学修の到達目標

1. 歯科疾患の疫学的特徴を列挙できる。
2. 歯科衛生統計の各種指標について説明できる。
3. 統計学的指標の概要を説明できる。
4. 歯科の疫学情報について収集・選択・評価の体系を説明できる。
5. 自ら収集した情報を使ったプレゼンテーションができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①学ぶこと・知ること に、愉しさと喜びを 覚えることができる (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつながられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、愉しさと喜びを覚えることができない。
②物事のあり方について深く考え、その本質を見極めようとする ことができる (探究力)	秀	自発的に物事に献身し専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。そしてそこでの一定の結果に飽き足らず、さらなる探究心が生じ、それを実行に移していくことができる。
	優	自発的に物事に献身し専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。
	良	ある程度自発的に物事を突き詰めていくことができる。
	可	他者から促されれば、物事をある程度突き詰めていくことができる。
	不可	物事を自ら突き詰めていくことができない。
③思考や判断に必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる (情報力)	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
④根拠に基づき、論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっている。よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くともある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
⑤想いや考えを表現し、他者に伝えることができる (表現力)	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のすべてにおいて十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	10	20	10	0	0	100
評価項目	① 知欲	30	0	0	0	0	0	30
	② 探究力	0	10	0	0	0	0	10
	③ 情報力	15	0	10	0	0	0	25
	④ 論理的思考力	15	0	0	5	0	0	20
	⑤ 表現力	0	0	10	5	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	定期試験期間中に実施する筆記試験
	②	
	③	
	④	
	⑤	
提出物	①	毎回の授業終了時に提出するレポート
	②	
	③	
	④	
	⑤	
成果発表 (口頭・実技)	①	毎回の授業開始時、授業中、終了時に提出するレポート
	②	
	③	
	④	
	⑤	
作品	①	プレゼンテーション原稿の内容
	②	
	③	
	④	
	⑤	

履修に必要な知識・技能・態度など
インターネット上にある各種情報を整理し、正しく判断できる基礎的知識を身につけておくことと、それらを患者さんにわかりやすいようにどう説明するかも、日頃から考えておくことさらに良い。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 保健情報統計学』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 教科書内容の要点を講義資料として適宜配布する。 参考書：『ビジュアル歯科保健医療統計学』 安井利一 監修 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
社会福祉総論 (O22140)	講義	1	15	2	前期	必修	-	川島芳雄	7号館2階 非常勤講師 控室
子ども、高齢者、障害者等を 支援するための知識と方法								単独担当	
科目担当者	川島芳雄								

授業の概要	歯科衛生活動の対象には、子ども、高齢者、障害者、生活困窮者など、対応に理解と配慮が必要な人々が少なくない。授業では、対象別にそれらの人々が実生活でどのような困難を経験しているかを知り、その軽減のための社会的支援の制度や援助技術を学び、より有意な歯科衛生活動を実践していくための基礎づくりを図る。	
アクティブ・ ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	日本型社会保障制度の二層構造(社会保険の制度と社会福祉の制度)	【事前】テキスト1-1～1-5を読んでおく(以下同) 【事後】レジュメの図を自分で描けるようにしておく
第2回	子育て支援、ひとり親家庭の支援(児童福祉、母子福祉)	【事前】テキスト4-1～5-4 【事後】レジュメ書きこみのメモを整理・清書する
第3回	高齢者の生活と介護の保障(高齢者福祉、介護保険)	【事前】テキスト6-1～6-4、3-5～3-6 【事後】レジュメ書きこみのメモを整理・清書する
第4回	障害者の福祉と自立支援①(身体障害者福祉、知的障害者福祉)	【事前】テキスト7-1～7-2、7-5～7-8 【事後】レジュメ書きこみのメモを整理・清書する
第5回	障害者の福祉と自立支援②(精神障害者保健福祉、発達障害者支援)	【事前】テキスト7-3～7-4 【事後】レジュメ書きこみのメモを整理・清書する
第6回	貧困に対する生活保障(生活困窮者自立支援、生活保護)	【事前】テキスト8-1～8-5 【事後】レジュメ書きこみのメモを整理・清書する
第7回	社会福祉的援助の方法①(ケースワークの方法)	【事前】テキスト2-1～2-2、2-5～2-7 【事後】レジュメ書きこみのメモを整理・清書する
第8回	社会福祉的援助の方法②(グループワークの方法)	【事前】テキスト2-3～2-4 【事後】レジュメ書きこみのメモを整理・清書する

学修の到達目標
①日本の社会保障制度の全体的な仕組み(二層構造)が理解できている。 ②子どもや高齢者、障害者などの特性を理解し、適切な対応について自分で考えられるようになる。 ③対象別の社会福祉制度に関する基礎的な知識を習得し、さらに歯科衛生士国家試験に備えて自学自習が継続できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①専門的職務遂行に必要な知識・方法を身につけている (専門力)	秀	社会福祉領域についての知識・方法を両方とも十分なレベルで身につけている。尚且つ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	社会福祉領域についての知識・方法を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	社会福祉領域についての知識・方法を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	社会福祉領域についての知識・方法を身につけている。
	不可	社会福祉領域についての知識・方法を身につけていない。
②基礎知識を抛りどころに、自分で論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	基礎知識を抛りどころに、十分論理的に考えることができる。尚且つ、基礎知識の限界も分かっている、自らの思考内容のみでは決して十分でないことを認識している。
	優	基礎知識を抛りどころに、十分論理的に考えることができる。
	良	基礎知識を抛りどころに、論理的に考えることができる。
	可	基礎知識を抛りどころに、ある程度論理的に考えることができる。
	不可	基礎知識を抛りどころに、論理的に考えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	20	0	0	0	0	100
評価項目	① 専門的知識・方法	50	20	0	0	0	0	70
	② 論理的に考える	30	0	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	記述式の試験を、最終に行う。 (自分で整理したレジュメのみ持込可能。テキスト、参考書の持込は不可)
	②	
提出物	①	毎回の授業開始直後の10分間に、前回の学習内容に関するミニレポート(ミニレポート用紙は当日配布、自分で整理したレジュメを見て書いても良い)を作成し提出する。
	②	

履修に必要な知識・技能・態度など
高校卒業程度の全般的基礎学力があれば、十分理解し習得できる。
教科書・参考書
教科書：「保健医療福祉職に必要な社会福祉学」 川島芳雄 著 2017年 丸善プラネット 参考書：「社会保障の手引き」(最新版) 中央法規

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
臨床歯科Ⅲ (口腔外科 (麻酔)・歯科放射線) (O23030)	講義	2	60	2	前期	必修	-	八木孝和	5号館3階 研究室
歯科外科領域全般をながめてみよう								複数担当	
科目担当者	八木孝和、柳田学								

授業の概要	口腔外科学・歯科麻酔学・歯科放射線学は全身の関わりが深い分野であり、これらの医学知識を習得することは有病患者に対する的確な口腔機能管理を実践するうえで基盤となる。歯科医療スタッフだけでなく他の保健、医療、福祉 (介護) 関係者とともチーム医療の一翼を担い、地域社会に貢献できる歯科衛生士を目指す。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク (レ) 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク () プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	口腔外科学概論 (担当: 柳田)	【事前】 シラバスに目を通す 【事後】 講義ノート、教科書を再読すること
第2回	口腔と全身の関連—菌性感染症の全身への影響 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第3回	口腔と全身の関連—全身疾患の口腔症状 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第4回	口腔外科における診査・検査・薬剤 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第5回	口腔の先天異常 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第6回	口腔・顎顔面領域の損傷 (顎骨骨折など) (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第7回	口腔・顎顔面領域の炎症 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第8回	口腔粘膜疾患 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第9回	口腔・顎顔面領域の嚢胞 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第10回	口腔・顎顔面領域の腫瘍 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第11回	唾液腺疾患 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第12回	神経疾患・血液疾患 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第13回	口腔の小手術—抜歯・歯根端切除・創傷治癒 (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第14回	口腔の小手術—インプラント (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第15回	口腔外科学のまとめ (担当: 柳田)	【事前】 予め教科書に目を通すこと 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること

第 16 回	歯科医療と放射線 (担当者：八木)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 17 回	放射線の性質 (担当者：八木)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 18 回	歯科臨床におけるエックス線検査の種類と特徴 (担当者：八木)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 19 回	口内法 X 線写真の読影 (担当者：八木)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 20 回	パノラマ X 線写真の撮影と読影 (担当者：八木)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 21 回	写真処理と画像保存の実際 (担当者：八木)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 22 回	放射線治療・周術期の口腔機能管理 (担当者：八木)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 23 回	歯科放射線学のまとめ（テスト対策） (担当者：八木)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 24 回	麻酔学（全身管理学）概論 (担当者：八木)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 25 回	局所麻酔 (担当者：八木)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 26 回	全身麻酔（精神鎮静法） (担当者：八木)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 27 回	周術期の全身管理 (担当者：八木)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 28 回	一次救命処置講義（市民救命士講義） (担当者：八木)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 29 回	一次救命処置講義（市民救命士実習） (担当者：八木)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること

第 30 回	歯科麻酔学のまとめ (テスト対策)	(担当者: 八木)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
--------	-------------------	-----------	--

学修の到達目標
歯科衛生士を目指す上で、必要な臨床知識を習得するために下記の内容について「できる」ことを目指す。 1. 顎顔面領域に発生する疾患を概説できる。 2. 全身疾患と口腔の関連について概説できる。 3. 全身麻酔法、局所麻酔法、精神鎮静法について説明できる。 4. 全身管理の知識および一次救命処置の手順が説明、実施できる。 5. 放射線の性質、人体への影響、被曝防護について説明できる。 6. 歯、顎顔面領域の画像検査の種類、特長、適応と手順について概説できる。 7. パノラマ、口内法標準 X 線写真の正常画像およびう蝕、歯周病の画像について読影ができる。 8. 周術期口腔機能管理について概説できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①口腔外科学・歯科麻酔学、歯科放射線学の知識を身につけている (専門力)	秀	当該専門領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	当該専門領域についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	当該専門領域についての知識を一定のレベルで身につけている。
	可	当該専門領域についての知識を身につけているが十分ではない。
	不可	当該専門領域についての知識を身につけていない。
②口腔外科・麻酔、放射線領域の根拠、手技について論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	当該専門領域について客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	優	当該専門領域について客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	良	当該専門領域について一定のレベルで論理的に考えることができる。
	可	当該専門領域についてある程度論理的に考えることができるが十分ではない。
	不可	当該専門領域について論理的に考えることができない。
③学ぶこと・知ることに楽しさと喜びを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつながられる。
	優	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見いだすことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	30	0	0	0	10	100
評価項目	① 専門力	50	10	0	0	0	0	60
	② 論理的思考力	10	10	0	0	0	0	20
	③ 知欲	0	10	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ
	②	
	③	
提出物	①	レ
	②	レ
	③	レ
その他	①	
	②	
	③	レ

履修に必要な知識・技能・態度など

本講義は、1年次の解剖、生理、薬理、病理学、微生物学などが基礎になっている。事前に指示された専門基礎科目の復習を必ず行うこと。必要と感じたことはノートにまとめること。講義中の私語は厳禁である。
 臨地実習前の時期に当たることも考えて、実際の臨床現場に臨むことをイメージしながら講義に望むこと。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
 『歯科衛生士テキスト 歯科麻酔学・全身管理学』 佐久間泰司 編 学建書院
 『最新歯科衛生士教本 歯科放射線』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
 参考書：『常用歯科辞典 第4版』 中原泉 医歯薬出版
 『新・歯科衛生士教育マニュアル 口腔外科学・歯科麻酔学』 池邊哲郎 編 クインテッセンス出版
 『歯科衛生士のための口腔外科学』 古森孝英 編 永末書店

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
臨床歯科IV (小児歯科) (O23040)	講義	1	30	2	前期	必修	-	竹内幸雄	7号館2階 非常勤講師 控室
子供とどう接していいかわからない？ 意外と楽しい小児歯科								複数担当	
科目担当者	竹内幸、井上治子								

授業の概要	小児の発育過程における、精神的・身体的特徴を理解し、小児特有の口腔疾患について学ぶ 小児歯科診療に際し、小児患者の診療補助や保護者との接し方を学ぶ	
アクティブ・ ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク (レ) プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	小児歯科概論 (小児歯科とは) 小児の心身の発達と生理的特徴 顎顔面と歯の発達 歯列咬合の発育と異常 (担当者：竹内)	【事前】 教科書P 5～P 44まで読んでおくこと 【事後】 配布資料の復習
第2回	小児の歯科疾患：乳歯のう蝕・幼弱永久歯のう蝕 小児歯科診療：特徴と原則 (担当者：竹内)	【事前】 教科書P 45～P 63 p83~p92 【事後】 配布資料の復習
第3回	小児歯科における診療補助 歯冠修復・歯内療法・外科処置・咬合誘導 (担当者：竹内)	【事前】 p 92～p 105まで読んでおくこと 【事後】 配布資料の復習
第4回	小児歯科診療における歯科衛生士の役割 口腔保健管理 う蝕予防 (担当者：竹内)	【事前】 p 124～p 139まで読んでおくこと 【事後】 配布資料の復習
第5回	小児歯科診療における小児患者との対応法 マネジメント (行動変容) (担当者：竹内)	【事前】 p 64～p 82まで読んでおくこと 【事後】 配布資料の復習
第6回	小児歯科診療における小児患者との対応法 マネジメント (行動変容) 集団指導 (母親教室) (担当者：竹内)	【事前】 p 64～p 82まで読んでおくこと 【事後】 配布資料の復習
第7回	小児う蝕の原因を考える (皆で考えよう、カイスの3つ輪で は説明できない意外な原因) (担当者：竹内)	【事前】 与えられた課題をグループで考え、発表準備 【事後】 他のグループの発表を理解する
第8回	小児う蝕を考える (皆で考えよう、カイスの3つの輪では説 明できない意外な原因) (担当者：竹内)	【事前】 与えられた課題をグループで考え、発表準備 【事後】 すべてのグループ発表をまとめておく
第9回	小児歯科診療所 歯科衛生士として だから小児歯科っておもしろい！その1 ～小児歯科ってどんなところ??～ (担当者：井上)	【事前】 必要としない 【事後】 配布資料の復習
第10回	小児歯科診療所 歯科衛生士として だから小児歯科っておもしろい！その2 ～治療もまた楽し！診療補助編～ (担当者：井上)	【事前】 事前配布資料に目を通しておく 【事後】 配布資料の復習
第11回	小児歯科診療所 歯科衛生士として だから小児歯科っておもしろい！その3 ～虫歯予防を捜査する！齲蝕予防～ (担当者：井上)	【事前】 事前配布資料に目を通しておく 【事後】 配布資料の復習
第12回	小児歯科診療所 歯科衛生士として だから歯科衛生士っておもしろい！その4 ～身体・心・未来を育む～ (担当者：井上)	【事前】 事前配布資料に目を通しておく 【事後】 配布資料の復習
第13回	小児歯科診療をスムーズに進めるための保護者との関わり方 (担当者：竹内)	【事前】 必要としない 【事後】 配布資料の復習

第 14 回	小児歯科講義診療における診療補助（歯冠修復他） 実際の診療風景（ビデオ）を交えて（担当者：竹内）	【事前】教科書 p 140 p 167 まで読んでおくこと 【事後】講義内容の復讐
第 15 回	小児歯科講義のまとめ（担当者：竹内）	【事前】既に配布した資料に目を通しておく 【事後】前期試験のための準備

学修の到達目標	
1：小児の発達成長を理解する 2：各年齢の小児口腔内の状態を理解し説明できる 3：小児歯科診療における治療内容を理解し必要な器具を準備できる 4：小児患者の気持ちを理解し正しい言葉かけが出来、子供の気持ちに寄り添える感性を持った衛生士になる 5：保護者に対しても適切な対応が出来るようになる 6：SNS やインターネットに氾濫する情報を正しく整理し、保護者に説明できるようになる	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①小児歯科の診療に必要な知識・技能を身につけている (専門力)	秀	小児の口腔専門領域の知識を十分に習得・技術を持っており内容が秀逸である
	優	小児の口腔専門領域の知識を十分に習得・技術を身につけている
	良	小児の口腔専門領域の知識と技術の少なくとも一方を十分に身につけている
	可	小児の口腔専門領域の知識・技術を身につけている
	不可	小児の口腔専門領域の知識・技術を身につけていない
②小児患者や保護者とのコミュニケーションが取れる知識・対話力がある (対話力・表現力)	秀	学び知ること非常に積極性があり、表現力と他者への思いやりに対しても非常に優れている
	優	学び知ことに積極性があり、表現力と他者への思いやりが優れている
	良	学び知ことに積極性があり、表現力と他者への思いやりがある
	可	学び知ることが出来る 表現力にやや難があるが、他者への思いやりがある
	不可	学び知ことに意欲を感じられない 表現力・他者への思いやりが足りない
③他者と協力して、物事を調べ作り上げる (知力・協調性・協働性)	秀	他者との協調性・協働性・表現力が非常に優れている
	優	他者との協調性・協働性・表現力が優れている
	良	他者との協調性・協働性・表現力がある
	可	他者との協調性・協働性・表現力の幾つかに努力が必要である
	不可	他者との協調性・協働性・表現力が足りない

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	0	20	0	0	0	100
評価項目	① 専門力	60	0	0	0	0	0	60
	② 対話力・表現力	20	0	0	0	0	0	20
	③ 知力・協働性	0	0	20	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験（国家試験形式の4者択一問題と記述式問題）
	②	レ	
	③		
成果発表 （口頭・実技）	①		7～8人のグループによるプレゼンテーション
	②		
	③	レ	

履修に必要な知識・技能・態度など

問題意識をもって講義に臨むこと
社会人として常識である時間厳守

教科書・参考書

教科書：【最新歯科衛生士教本 小児歯科】 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

参考書：

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
臨床歯科V (矯正歯科) (O23050)	講義	1	30	2	前期	必修	-	八木孝和	5号館3階 研究室
きれいな歯並びと健康的な笑顔を								単独担当	
科目担当者	八木孝和								

授業の概要	矯正歯科治療は本来、予防歯科的な要素が強く、生涯にわたる口腔顎顔面の健康とその維持管理のために役立てられるべきものである。従って、単に歯並びを整える治療するだけにとどまらず、健康な歯に矯正歯科治療を行う過程においてう蝕を作らないことに努力しなければならない。また歯周組織の健全性を生涯にわたって維持管理できる環境を作り出さなければならない。歯科衛生士は歯科医師の診療を補助するだけにとどまらず、治療を成功に導くために患者全体像の把握や口腔衛生管理、食生活指導や口腔周囲筋のトレーニングを行うなど、その役割は大きい。本講義を通じて歯科矯正学の基礎知識を身につけるとともに、日常歯科矯正臨床に取り組む姿勢を身につけてもらいたいと考えている。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク (レ) 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク () プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	矯正歯科治療に関する基礎知識 矯正歯科治療の概要	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第2回	矯正歯科治療に関する基礎知識 成長発育	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第3回	矯正歯科治療に関する基礎知識 正常咬合と不正咬合	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第4回	矯正歯科治療に関する基礎知識 矯正歯科診断	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第5回	矯正歯科治療に関する基礎知識 矯正歯科治療と“力”- 矯正力・顎整形力・保定 -	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第6回	矯正歯科治療に関する基礎知識 矯正装置	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第7回	矯正歯科治療の実際 上下顎前後・垂直的關係の不調和	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第8回	矯正歯科治療の実際 成人矯正・口腔顎顔面の形成異常と変形	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第9回	矯正歯科治療の実際 矯正歯科治療時のトラブルへの対応	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第10回	矯正歯科治療の実際 健康保険が適用される矯正歯科治療	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第11回	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割 矯正歯科診断に関わる業務と診断時の業務2	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第12回	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割 矯正歯科患者と口腔保健管理	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第13回	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割 口腔筋機能訓練1	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第14回	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割 口腔筋機能訓練2	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等

第 15 回	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割 器材、資料、文章の管理・まとめ	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめを作成等
--------	---------------------------------------	--

学修の到達目標
歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状および治療法を理解するために、下記内容の‘できる’を目指す。 1. 顎顔面及び歯・歯列の成長発育について様式と評価が説明できる 2. 乳歯列から永久歯列にかけての正常咬合が説明できる 3. 不正咬合の原因と種類が説明できる 4. 不正咬合による障害と矯正治療の目標が説明できる 5. 矯正力と歯の移動時の生体反応を説明できる 6. 矯正装置の種類、構造及び機能を説明できる 7. 矯正治療に用いる器材とその取扱いを説明できる 8. 矯正治療前、治療中および保定期間における口腔健康管理法を説明できる

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科矯正学の知識を身につけている (専門力)	秀	歯科矯正学の専門領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	歯科矯正学の専門領域についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	歯科矯正学の専門領域についての知識を一定のレベルで身につけている。
	可	歯科矯正学の専門領域についての知識を身につけているが十分ではない。
	不可	歯科矯正学の専門領域についての知識を身につけていない。
② 矯正歯科治療の根拠、手技について論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	矯正歯科治療の専門領域について客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	優	矯正歯科治療の専門領域について客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	良	矯正歯科治療の専門領域について一定のレベルで論理的に考えることができる。
	可	矯正歯科治療の専門領域についてある程度論理的に考えることができるが十分ではない。
	不可	矯正歯科治療の専門領域について論理的に考えることができない。
③ 学ぶこと・知ること に楽しさと喜びを覚えることができる。 (知力)	秀	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	優	さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつながられる。
	良	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	ある程度自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	不可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見いだすことができる。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	40	0	0	0	10	100
評価項目	① 専門力	40	10	0	0	0	0	50
	② 論理的思考力	10	20	0	0	0	0	30
	③ 知力	0	10	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験
	②	レ	
	③		
提出物	①	レ	まとめなどのレポートの提出：まとめレポートは出席者のみ点数として評価します。
	②	レ	
	③	レ	
その他	①		出席数・受講態度・積極的な発言
	②		
	③	レ	

履修に必要な知識・技能・態度など

私語厳禁、ただし質問は歓迎します。歯科領域の中でも形態や携帯から生まれる機能・審美を扱い、患者さんの主訴は痛みや炎症とは異なる領域になります。時には心理学的な要素が必要な時もあり、コミュニケーション能力も必要になってきます。また、実際の現場では技能的な能力を求められることも多く、治療に関する業務は歯科医師より歯科衛生士のほうが主体的な場面が多い分野です。専門用語が多いのでこまめに復習すること。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
 参考書：『歯科矯正学 第5版』 相馬邦道他 編 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
臨床歯科VI (高齢者・障害者) (O23060)	講 義	1	30	2	後 期	必 修	-	北垣志麻	7号館2階 非常勤講師 控室
障がい児・者の口腔および全身の 特徴を学ぶ								複数担当	
科目担当者	北垣志麻、駒井正								

授業の概要	<p>老化について脳の機能と生活習慣病を関連させながら概説し、口腔ケアがどのようにかかわっているかを理解させる。</p> <p>障害の概念および障がい児・者の口腔の特徴と歯科疾患の特質を教授し、歯科衛生士として必要な知識を修得し、臨床に必要な技術を理解する。</p>	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学习支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	身体機能からみた老化 (担当者：駒井)	【事前】 参考文献を1つ選んで講義期間中に読む 【事後】 講義内容を教本で確認
第2回	内臓機能からみた老化 (担当者：駒井)	【事前】 資料冊子をみておく 【事後】 講義内容を教本で確認
第3回	認知症と健康寿命 (担当者：駒井)	【事前】 資料冊子をみておく 【事後】 講義内容を教本で確認
第4回	高齢者の睡眠と生活習慣病 (担当者：駒井)	【事前】 資料冊子をみておく 【事後】 講義内容を教本で確認
第5回	高齢者の口腔疾患と歯科医療 (担当者：駒井)	【事前】 資料冊子をみておく 【事後】 講義内容を教本で確認
第6回	地域包括ケアと歯科衛生士 (担当者：駒井)	【事前】 練習問題を解答しておく 【事後】 練習問題を復讐する
第7回	障害者歯科概論 (担当者：北垣)	【事後】 資料を再読する
第8回	歯科医療で特別な支援が必要な疾患について (知的障害等) (担当者：北垣)	【事前】 教科書第2章を一読する 【事後】 資料を再読する
第9回	歯科医療で特別な支援が必要な疾患について (運動障害等) (担当者：北垣)	【事前】 教科書第2章を一読する 【事後】 資料を再読する
第10回	障害者の歯科医療と行動調整について (担当者：北垣)	【事前】 教科書第3章を一読する 【事後】 資料を再読する
第11回	障害者の歯科医療と行動調整について (担当者：北垣)	【事前】 教科書第3章を一読する 【事後】 資料を再読する
第12回	健康支援と口腔衛生管理について (担当者：北垣)	【事前】 教科書第4章を一読する 【事後】 資料を再読する
第13回	摂食嚥下リハビリテーションについて (担当者：北垣)	【事前】 教科書第6章を一読する 【事後】 資料を再読する
第14回	障害者と薬剤について (担当者：北垣)	【事前】 資料を一読する 【事後】 資料を再読する
第15回	まとめ (担当者：北垣)	【事前】 教科書、資料を再読する 【事後】 教科書、資料を熟読する

学修の到達目標

高齢者の精神・身体機能に及ぼす生活習慣の影響を理解し、歯科医療のなかでどのように対応していくか、を理解すること。
 歯科衛生士として、歯と口腔だけでなく子どもから成人、高齢の障がい者について理解し、対応できるよう意欲的に受講すること。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士になるために必要な障害者歯科の基礎的な知識を身につける。 (専門力)	秀	歯科衛生士になるために必要な障害者歯科の知識を確実に身につけている。
	優	歯科衛生士になるために必要な障害者歯科の知識を十分なレベルで身につけている。
	良	歯科衛生士になるために必要な障害者歯科の知識を一定のレベルで身につけている。
	可	歯科衛生士になるために必要な障害者歯科の知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	歯科衛生士になるために必要な障害者歯科の知識を身につけていない。
② 常識力 社会の一員として知っておくべき知識や振る舞いを身につける。 (常識力)	秀	一般常識や礼儀などの社会性を確実に発揮することができる。
	優	一般常識や礼儀などの社会性を十分に発揮することができる。
	良	一般常識や礼儀などの社会性を一定のレベルで発揮することができる。
	可	一般常識や礼儀などの社会性を最低限のレベルで発揮することができる。
	不可	一般常識や礼儀などの社会性を発揮することができていない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		90	0	0	0	0	10	100
評価項目	① 知識の修得	90	0	0	0	0	0	90
	② 受講態度、礼儀	0	0	0	0	0	10	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ 練習問題を作成して、理解を深めたくうえで、選択形式の試験を行う。
	②	筆記式定期試験を実施する。
その他	①	授業参加・受講態度など
	②	レ

履修に必要な知識・技能・態度など

口腔ケアの理論を理解する医学的知識を「脳の機能」「睡眠の役割」「生活習慣病や認知症」をとおして理解させる。
 体調管理に努め、欠席しないように受講すること。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 高齢者歯科第2版』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
 『最新歯科衛生士教本 障害者歯科 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
 参考書：講師作成の教本に記載している刊行図書
 『歯科衛生士のための障害者歯科』 緒方克也 編 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
臨床検査学 (O23110)	講 義	1	15	2	前 期	必 修	-	上原弘美	5号館3階 研究室
臨床検査は正確な診断の基礎								複数担当	
科目担当者	上原弘美、杉山育代、澤村暢								

授業の概要	臨床検査学の概念と口腔領域における日常検査について学修する。臨床検査によって全身状態及び口腔内環境を客観的に把握し、健康上の問題解決につなげるという、科学的根拠に基づいた口腔疾患の予防・治療計画の立案を的確に実践できるための基礎を養う。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	チーム医療の実践に必要な臨床検査 (担当者：上原)	【事前】 教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる
第2回	歯科臨床における臨床検査の重要性と歯科衛生士の役割 (担当者：上原)	【事前】 教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる
第3回	一般検査(血液検査)、感染症検査、血液型 (担当者：澤村)	【事前】 血液検査について教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる
第4回	肝機能検査、糖尿病検査 (担当者：澤村)	【事前】 糖尿病の検査について教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる
第5回	生理機能検査 (担当者：杉山)	【事前】 生理機能検査について教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる
第6回	口腔領域の臨床検査(唾液検査) (担当者：上原)	【事前】 唾液検査について教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる
第7回	口腔領域の臨床検査(味覚検査・口臭検査・金属アレルギーの検査) (担当者：上原)	【事前】 味覚検査・口臭検査・金属アレルギー検査について調べる 【事後】 授業内容をまとめる
第8回	臨床検査データの読み方と疑われる疾患 (担当者：上原)	【事前】 教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる

学修の到達目標
1. 歯科医療における臨床検査の必要性を述べることができる。 2. 臨床検査における歯科衛生士の役割を理解する。 3. 臨床検査の種類を列挙することができる 4. 口腔領域の臨床検査の実施方法を説明できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士の実務遂行に必要な知識・技術を身に付けている (専門力)	秀	臨床検査についての基礎的な知識を十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	臨床検査についての基礎的な知識を十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	臨床検査についての基礎的な知識を身につけていて、十分なレベルに達している。
	可	臨床検査についての基礎的な知識を身につけている。
	不可	臨床検査についての基礎的な知識を身につけていない。
② 学ぶこと・知ること、楽しさと喜びを覚えることができる (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこで自ら楽しさと喜びを見出して達成感を得ることができる。そして、その経験を踏まえて更なる主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこで自ら楽しさと喜びを見出して達成感を得ることができる。
	良	自発的に学修することができ、そこで自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	15	0	0	0	5	100
評価項目	① 専門力	80	10	0	0	0	0	90
	② 知欲	0	5	0	0	0	5	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	筆記試験
	②	
提出物	① レ	到達度確認テスト (10点)
	② レ	受講後レポート (5点)
その他	①	受講態度
	② レ	

履修に必要な知識・技能・態度など
授業は予習・復習を前提とします。授業の始め、または終わりに到達度確認のための小テストを実施しますので、積極的な姿勢で受講してください。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 臨床検査』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：『口腔医療に必要な臨床検査 - 歯科治療には臨床検査ありき』 井上孝 編集 デンタルダイヤモンド

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科診療補助演習Ⅱ (O23140)	演 習	2	60	2	前 期	必 修	—	澤田美佐緒	5号館3階 研究室他
臨床の場面を想定した 歯科診療補助を学ぶ								複数担当	
科目担当者	澤田美佐緒、上原弘美、氏橋貴子								

授業の概要	1年次科目の「歯科診療補助論」で学修した基礎的理論と「歯科診療補助演習Ⅰ」で習得した基礎的技術をもとに、臨床の場に応じて対応する能力を学ぶ授業です。歯科診療所における様々な診療場面を想定し、それぞれの診療行為に対する歯科衛生士の役割を認識しながら診療補助業務を安全・的確におこなう技術を修得します。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学习支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	保存修復時の診療補助①歯間分離・歯肉圧排・隔壁調整 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習後レポートの作成
第2回	保存修復時の診療補助②直接法・間接法 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習後レポートの作成
第3回	歯科放射線の診療補助 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習後レポートの作成
第4回	口内法・口外法エックス線撮影 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習後レポートの作成
第5回	口腔外科・歯周外科の診療補助 (担当者：上原)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習後レポートの作成
第6回	手術・局所麻酔・全身麻酔 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習後レポートの作成
第7回	小児歯科における診療補助 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習後レポートの作成
第8回	歯内療法時の診療補助①抜髄法 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習後レポートの作成
第9回	歯内療法時の診療補助② 根管治療・根管充填 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習後レポートの作成
第10回	補綴時の診療補助 (担当者：澤田)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習後レポートの作成
第11回	クラウン・ブリッジ・暫間被覆冠 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習後レポートの作成
第12回	義歯 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習後レポートの作成
第13回	1・2年 合同実習(A・B) (担当者：科目担当者全員)	【事前】 身だしなみを整える方法、実習室の使用 方法について説明するための準備を整える 【事後】 自己評価・他者評価(1年生)を実施し、 記録する
第14回	歯科矯正における診療補助 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習後レポートの作成
第15回	項目別評価・まとめ (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 実習後レポートの作成

学修の到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科診療補助における歯科衛生士の役割を理解できる ・ 診療項目に応じた器具・器材を準備することができる ・ 患者の安全に配慮した対応方法を理解できる 	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科診療補助に必要な知識・技能を身につけている (専門力)	秀	臨床の場面に応じた歯科診療の補助についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	臨床の場面に応じた歯科診療の補助についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	臨床の場面に応じた歯科診療の補助についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	臨床の場面に応じた歯科診療の補助についての知識・技術を身につけている。
	不可	臨床の場面に応じた歯科診療の補助についての知識・技術を身につけていない。
② 自ら、心身の健康を適切に管理することができる (自己管理能力)	秀	対人援助職に就くために学修する者としての責任感のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。さらにその自己管理の必要性を他者と広く共有するために行動することができる。
	優	対人援助職に就くために学修する者としての責任感のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。
	良	ある程度自発的に、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。
	可	他者からの助言のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。
	不可	心身や生活態度等の自己管理ができない。
③ 自己の思考や行動を振り返り、改善の道を常に模索することができる (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	15	0	0	0	5	100
評価項目	① 専門的な知識	80	5	0	0	0	0	85
	② 学びの習慣・環境づくり	0	0	0	0	0	5	5
	③ 自分の学びに対する振り返り	0	10	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	筆記試験を実施する。 授業内で説明した内容、実施した技術について十分に理解しているかを評価する。
	②	
	③	
提出物	① レ	・自己学習ノート（事前学習）、授業後レポートを提出する。 授業までに取り組むように指示された課題および授業後のレポートを、指示された通りに取り組み、提出されたかどうかを評価する。 ・小テスト 学んだ内容を理解しているかどうかを評価する。
	②	
	③ レ	
その他	①	積極的な授業参加・態度
	② レ	
	③	

履修に必要な知識・技能・態度など

この授業では、実際の歯科診療に応じた器具・器材の取り扱い方法や患者さんへの対応法を学びます。臨床歯科Ⅰ・Ⅱ（1年次）・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ（2年次）で学ぶ知識および歯科診療補助演習Ⅰで身に付けた技術と関連付けて理解すること。
医療従事者としてふさわしい態度と身だしなみで受講すること。また、欠席しないよう体調管理には十分留意すること。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 口腔外科・歯科麻酔』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 歯科放射線』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 歯科材料』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 歯科機器』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 小児歯科』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 障害者歯科 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
改訂版 イラストと写真でわかる『歯科材料の基礎』 竹澤保政 監著 永末書店
参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科診療補助演習Ⅲ (O23150)	演習	1	30	2	後期	必修	-	上原弘美	5号館3階 研究室他
安全で質の高い歯科医療に 寄与するための知識と技術を学習する								複数担当	
科目担当者	上原弘美、澤田美佐緒、氏橋貴子、中田康夫								

授業の概要	対象者の全身状態を的確に把握し、安全で質の高い歯科医療を提供し、チーム医療の一員として専門性を持って業務を実践できるよう、歯科衛生士に必要な知識・技術を修得し、歯科診療補助に応用できる能力を身につける。患者の全身状態や障害を理解したうえでの歯科診療補助のあり方、在宅歯科診療や先端歯科医療など幅広く歯科医療について学習する。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	総合演習①(抜髄～根管充填)／②(インレー作製) (担当者:上原、澤田、氏橋)	【事前】保存修復・歯内療法についての学習 【事後】実習レポートをまとめる
第2回	総合演習③(義歯調整)／④(難抜歯) (担当者:上原、澤田、氏橋)	【事前】義歯・難抜歯についての学習 【事後】実習レポートをまとめる
第3回	チーム医療と多職種連携／インプラント・ホワイトニングにおける歯科衛生士の役割 (担当者:上原)	【事前】インプラントとホワイトニングについての学習 【事後】授業レポートをまとめる
第4回	ベッドメイキング／体位変換、移動の援助 (担当者:中田、澤田、氏橋)	【事前】体位変換、移動の援助についての学習 【事後】授業内容をまとめる
第5回	バイタルサイン(血圧、脈拍、体温の測定)／吸引 (担当者:中田、氏橋)	【事前】バイタルサインについての学習 【事後】授業内容をまとめる
第6回	在宅訪問診療・障害者治療における歯科診療補助 (担当者:澤田、氏橋)	【事前】在宅訪問診療について学習 【事後】実習レポートをまとめる
第7回	全身疾患を持つ患者の歯科診療補助 (担当者:上原)	【事前】教本を読む 【事後】授業レポートをまとめる
第8回	補足、授業内容の理解度の確認 (担当者:上原、澤田)	【事前】前回までの授業レポートの確認 【事後】授業内容をまとめる

学修の到達目標
1. 様々な疾患・病状にある対象者を理解する。 2. 様々な疾患・病状にある対象者の歯科診療時の歯科衛生士の果たす役割を理解する。 3. バイタルサイン、体位変換、車椅子の操作、ベッドメイキングを実施することができる。 4. 先端の歯科医療について学習することで、幅広く歯科医療について興味を持ち新しい情報を吸収できる姿勢を身につける。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士の実務遂行に必要な知識・技術を身に付けている (専門力)	秀	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていない。
② 学ぶこと・知ること、楽しさと喜びを覚えることができる (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこで自ら楽しさと喜びを見出して達成感を得ることができる。そして、その経験を踏まえて更なる主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこで自ら楽しさと喜びを見出して達成感を得ることができる。
	良	自発的に学修することができ、そこで自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができない。
③ 自己の行動や考えを振り返り、改善の道を常に模索することができる (省察力)	秀	演習で学んだ内容について、自身の行動や考えを客観的に検証し、反省の上にさらなる望ましい行動につなげることができる。
	優	演習で学んだ内容について、自身の行動や考えを客観的に検証し、反省の上に次につなげることができる。
	良	演習で学んだ内容について、ある程度自身の行動や考えを客観的に検証し、次につなげることができる。
	可	演習で学んだ内容について、他者からの助言のもと、次につなげることができる。
	不可	演習で学んだ内容について、次につなげることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	15	0	0	0	5	100
評価項目	① 専門力	80	0	0	0	0	0	80
	② 知欲	0	5	0	0	0	5	10
	③ 省察力	0	10	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	筆記試験
	②	
	③	
提出物	①	授業後レポート (10点) 自己学習ノート(予習・復習・配布プリントやレポートの整理)を作成し、定期試験終了後に提出する (5点)
	②	
	③	
その他	①	受講態度
	②	
	③	

履修に必要な知識・技能・態度など

幅広い視野を持ち、様々な臨床場面に対応できる歯科衛生士を目標にして、多方面にわたる学習をおこなうので、私たちを取り巻く医療・福祉・保健などの情報に日々関心を持って新聞やテレビを見るように心がけてください。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 臨床検査』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 口腔外科・歯科麻酔』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 保存修復・歯内療法』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 障害者歯科 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 小児歯科』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
改訂版 イラストと写真でわかる『歯科材料の基礎』 竹澤保政 監著 永末書店

参考書：随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
オーラルリハビリテーション (O23160)	講義	1	15	2	後期	必修	-	澤田美佐緒	5号館3階 研究室他
食支援を実践するための基礎を学ぶ								複数担当	
科目担当者	澤田美佐緒、中村美紀								

授業の概要	摂食嚥下機能に関する基本的知識および摂食嚥下障害を生じる全身状態、摂食嚥下障害の症状などについて学びます。また、摂食嚥下機能および口腔機能のアセスメント・評価に基づいた摂食嚥下リハビリテーションを実践するために必要な知識を身に付けます。さらに、食支援における歯科衛生士の役割を理解するとともに、生活背景を考慮した食支援を実践するため、他職種の専門性を知り、多職種で連携して協働するための知識を学びます。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input checked="" type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学习支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	歯科衛生士と摂食嚥下障害・疾患の理解 (担当: 澤田)	【事前】 シラバスに目を通しておく 【事後】 摂食嚥下障害の原因についてまとめる
第2回	摂食嚥下のメカニズム (担当: 澤田)	【事前】 摂食嚥下のメカニズムについて予習する 【事後】 摂食嚥下のメカニズムについてまとめる
第3回	摂食嚥下機能の発達・小児の摂食嚥下障害 (担当: 中村)	【事前】 摂食嚥下機能の発達について予習する 【事後】 摂食嚥下機能の発達についてまとめる
第4回	摂食嚥下機能評価 (担当: 中村)	【事前】 摂食嚥下機能評価方法について予習する 【事後】 摂食嚥下機能評価方法についてまとめる
第5回	摂食嚥下機能訓練：間接訓練 (担当: 中村)	【事前】 間接訓練について予習する 【事後】 間接訓練についてまとめる
第6回	摂食嚥下機能訓練：直接訓練 (担当: 中村)	【事前】 直接訓練について予習する 【事後】 直接訓練についてまとめる
第7回	口腔機能低下とリスク管理 (担当: 澤田)	【事前】 口腔機能低下症について予習する 【事後】 口腔機能低下症・リスク管理についてまとめる
第8回	摂食嚥下障害におけるチームアプローチ (担当: 澤田)	【事前】 チームアプローチについて予習する 【事後】 チームアプローチ、歯科衛生士の役割についてまとめる

学修の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> 摂食嚥下障害の原因を理解できる 摂食嚥下機能、評価方法、訓練方法について理解できる 食支援における歯科衛生士の役割について理解できる

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①食支援を実践するために必要な知識・技能を身につけている (専門力)	秀	オーラルリハビリテーションについての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。 なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	オーラルリハビリテーションについての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	オーラルリハビリテーションについての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	オーラルリハビリテーションについての知識・技術を身につけている。
	不可	オーラルリハビリテーションについての知識・技術を身につけていない。
②学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びを覚えることができる (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつながられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びを覚えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	10	0	0	0	10	100
評価項目	① 専門的な知識	80	10	0	0	0	0	90
	② 自発的に学ぶ	0	0	0	0	0	10	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	筆記試験を実施する
	②	
提出物	① レ	小テストを実施する 学んだ内容を理解しているかどうかを評価する。
	②	
その他	①	積極的な授業参加・態度
	② レ	

履修に必要な知識・技能・態度など
人体の構造・機能、口腔の構造・機能について復習をしておくこと。 摂食嚥下機能に興味を持ち、日常生活の中の食事場面などで可能な観察をおこなうように心がける。 臨地実習中の授業となるため、体調に配慮し、欠席しないように気を付けること。
教科書・参考書
教科書：『歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版』 社団法人日本歯科衛生士会 監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：随時紹介します 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
オーラルリハビリテーション演習 (O23170)	演習	1	30	2	後期	必修	-	上原弘美	5号館3階 研究室他
全身状態に応じた口腔健康管理を学ぶ								複数担当	
科目担当者	上原弘美、澤田美佐緒、中村美紀、川野亜紀								

授業の概要	在宅や施設・病院など、生活・療養環境および全身状態を考慮した口腔健康管理を実践するためのアセスメント・評価に関する理論と技術について演習を通じて学修する。医療・介護・保健・福祉などの分野で有機的な多職種協働を実践するために多職種の臨床実践や活動を学び、演習を通じて多職種協働の中で活動する歯科衛生士の役割を理解したうえで実践できる態度を身に付ける。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	口腔と全身のリスク評価 (担当者：上原・澤田)	【事前】 口腔健康管理を実践するために必要な情報について教本を読む 【事後】 授業内容についてまとめる
第2回	摂食嚥下機能に関する所見、摂食嚥下機能評価(検査) (担当者：中村)	【事前】 摂食嚥下機能および評価方法について学習する 【事後】 実習レポートの作成
第3回	全身状態の把握方法、高齢者・麻痺体験とアセスメント (担当者：澤田・中村・川野)	【事前】 高齢者の生活機能評価について学習する 【事後】 機能評価方法についてまとめ
第4回	ベットサイドにおける口腔のケア、摂食嚥下訓練 (担当者：澤田・中村・川野)	【事前】 間接訓練・直接訓練について学習する 【事後】 実習レポートの作成
第5回	栄養管理と食形態の調整・食事介助の実際食事介助の実際 (担当者：澤田・中村・川野)	【事前】 食事観察における評価項目、栄養評価方法について学習する 【事後】 食事観察ポイント、栄養評価についてまとめ
第6回	薬と口腔衛生管理 (担当者：上原)	【事前】 薬と口腔衛生管理の関係について学習する 【事後】 レポートの作成
第7回	全身疾患と口腔衛生管理(グループワーク、発表) (担当者：上原)	【事前】 全身疾患と口腔衛生管理の関係について学習する 【事後】 授業内容についてまとめる
第8回	口腔外科疾患患者の口腔衛生管理、周術期等口腔機能管理 (担当者：上原)	【事前】 周術期等口腔機能管理について学習する 【事後】 授業内容についてまとめる

学修の到達目標
1. 全身状況と口腔の関連を理解する。 2. 全身疾患を持つ対象者の適切な口腔衛生管理がおこなえる。 3. 摂食嚥下機能および評価法・訓練法を理解する。 4. 食支援における歯科衛生士の役割を理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士の実務遂行に必要な知識・技術を身に付けている (専門力)	秀	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていない。
② 学ぶこと・知ること、楽しさと喜びを覚えることができる (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこで自ら楽しさと喜びを見出して達成感を得ることができる。そして、その経験を踏まえて更なる主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこで自ら楽しさと喜びを見出して達成感を得ることができる。
	良	自発的に学修することができ、そこで自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができない。
③ 自己の行動や考えを振り返り、改善の道を常に模索することができる (省察力)	秀	演習で学んだ内容について、自身の行動や考えを客観的に検証し、反省の上にさらなる望ましい行動につなげることができる。
	優	演習で学んだ内容について、自身の行動や考え客観的に検証し、反省の上に次につなげることができる。
	良	演習で学んだ内容について、ある程度自身の行動や考えを客観的に検証し、次につなげることができる。
	可	演習で学んだ内容について、他者からの助言のもと、次につなげることができる。
	不可	演習で学んだ内容について、次につなげることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	15	0	0	0	5	100
評価項目	① 専門力	80	0	0	0	0	0	80
	② 知欲	0	5	0	0	0	5	10
	③ 省察力	0	10	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	筆記試験
	②	
	③	
提出物	①	授業後・実習後レポート (10点) 自己学習ノート(予習・復習・配布プリントやレポートの整理)を作成し、定期試験終了後に提出する (5点)
	②	
	③	
その他	①	受講態度
	②	
	③	

履修に必要な知識・技能・態度など

1. 1年次の「臨床歯科医学の知識」、2年次の「オーラルリハビリテーション」で学習した内容が基本になるので整理・復習しておくこと。
2. 教本だけでなく、参考書などを使用して自ら学習すること。
3. 学習した内容を振り返り、実習後レポートに簡潔にまとめること。
4. 実習には積極的に参加すること。
5. 臨地実習中の演習となるため、体調に配慮し、欠席しないように気を付けること。
6. 欠席・遅刻・早退は認めないので、体調を自己管理して臨むこと。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション第2版』 公益社団法人日本歯科衛生士会 監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 歯科放射線』

参考書：随時紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科衛生過程Ⅱ (O23220)	講 義	1	30	2	前 期	必 修	-	中村美紀	5号館3階 研究室
歯科衛生過程の展開								複数担当	
科目担当者	中村美紀、浅枝麻夢可								

授業の概要	歯科衛生過程Ⅰの応用力および実践力を高める。ここでは事例を用いて具体的に授業を進める。また、歯科衛生アセスメントの情報分類方法として、色々な分類方法があることを理解する。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) (レ) その他(ワークシート)

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション・歯科衛生アセスメント理論の理解 (担当者：中村)	【事前】 シラバスの確認 【事後】 授業内容の振り返り
第2回	歯科衛生アセスメント・診断(事例：成人) (担当者：浅枝)	【事前】 歯科衛生過程Ⅰの復習、及び成人について学修しておく 【事後】 授業内容の振り返り
第3回	歯科衛生計画立案・介入(事例：成人) (担当者：浅枝)	【事前】 歯科衛生過程Ⅰ及び前回授業の復習 【事後】 授業内容の振り返り
第4回	歯科衛生評価・振り返り(事例：成人) (担当者：浅枝)	【事前】 歯科衛生過程Ⅰ及び前回授業の復習 【事後】 授業内容の振り返り
第5回	歯科衛生アセスメント・診断(事例：学童) (担当者：中村)	【事前】 歯科衛生過程Ⅰの復習、及び学童について学修しておく 【事後】 授業内容の振り返り
第6回	歯科衛生計画立案・介入(事例：学童) (担当者：中村)	【事前】 歯科衛生過程Ⅰ及び前回授業の復習 【事後】 授業内容の振り返り
第7回	歯科衛生評価・振り返り(事例：学童) (担当者：中村)	【事前】 歯科衛生過程Ⅰ及び前回授業の復習 【事後】 授業内容の振り返り
第8回	歯科衛生アセスメント・診断(事例：妊産婦) (担当者：中村)	【事前】 歯科衛生過程Ⅰの復習、及び妊産婦について学修しておく 【事後】 授業内容の振り返り
第9回	歯科衛生計画立案・介入(事例：妊産婦) (担当者：中村)	【事前】 歯科衛生過程Ⅰ及び前回授業の復習 【事後】 授業内容の振り返り
第10回	歯科衛生評価・振り返り(事例：妊産婦) (担当者：中村)	【事前】 歯科衛生過程Ⅰ及び前回授業の復習 【事後】 授業内容の振り返り
第11回	歯科衛生アセスメント・診断(事例：乳幼児) (担当者：中村)	【事前】 歯科衛生過程Ⅰの復習、及び乳幼児について学修しておく 【事後】 授業内容の振り返り
第12回	歯科衛生計画立案・介入(事例：乳幼児) (担当者：中村)	【事前】 歯科衛生過程Ⅰ及び前回授業の復習 【事後】 授業内容の振り返り
第13回	歯科衛生評価・振り返り(事例：乳幼児) (担当者：中村)	【事前】 歯科衛生過程Ⅰ及び前回授業の復習 【事後】 授業内容の振り返り
第14回	TEACCHプログラムの活用(事例：障がい児・者) (担当者：中村)	【事前】 歯科衛生過程Ⅰの復習、及び障がい児・者やTEACCHプログラムについて学修しておく 【事後】 授業内容の振り返り

第 15 回	まとめ	(担当者：中村)	【事前】 歯科衛生過程Ⅱの見直し 【事後】 歯科衛生過程Ⅱの振り返り
--------	-----	----------	---------------------------------------

学修の到達目標	
1. 歯科衛生過程は歯科衛生業務を行うための考え方であることを理解する。 2. 歯科衛生アセスメントができる。 3. 歯科衛生診断ができる。 4. 歯科衛生計画立案ができる。 5. 歯科衛生介入ができる。 6. 歯科衛生評価ができる。 7. 歯科衛生業務を书面化することができる。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生過程の各過程および書面化に関する知識・技術が身についている。 (専門力)	秀	歯科衛生過程の各過程および書面化に関する十分な知識が身についており、それらを活用して実践につなげ、さらに理解を深めることができる。
	優	歯科衛生過程の各過程および書面化に関する十分な知識が身についており、それらを活用することができる。
	良	歯科衛生過程の各過程および書面化に関する十分な知識・技術が身についている。
	可	歯科衛生過程の各過程および書面化に関する必要最低限の知識・技術が身についている。
	不可	歯科衛生過程の各過程および書面化について必要最低限の知識・技術が身についていない。
② 口腔健康管理の実践に関し、思考や判断に必要な情報を収集・整理・分析し、応用することができる。 (情報力)	秀	自身の適切な判断に基づいて、口腔健康管理の実践に必要な情報の収集・整理・分析し、応用できるとともに他者と情報共有ができる。
	優	自身の適切な判断に基づいて、口腔健康管理の実践に必要な情報の収集・整理・分析し、応用ができる。
	良	他者の助言があれば適切な判断を行い、口腔健康管理の実践に必要な情報の収集・整理・分析し、応用ができる。
	可	他者の助言があれば、口腔健康管理の実践に必要な情報の収集・整理・分析ができる。
	不可	口腔健康管理の実践に必要な情報の収集・整理・分析ができない。
③ 歯科衛生アセスメントや歯科衛生診断に関し、理解し、客観的な根拠と論理的思考に基づき、応用ができる。 (論理的思考力)	秀	歯科衛生アセスメント・診断に関し、十分な客観的根拠を得て、論理的に理解し、応用ができる。
	優	歯科衛生アセスメント・診断に関し、十分な客観的根拠を得て、論理的に理解できる。
	良	歯科衛生アセスメント・診断に関し、ある程度の客観的根拠を得て、論理的に理解できる。
	可	他者の助言があれば、歯科衛生アセスメント・診断に関し、ある程度の客観的根拠を得て、論理的に理解できる。
	不可	歯科衛生アセスメント・診断に関し、ある程度の客観的根拠を得られず、論理的に考えることができない。
④ 歯科衛生計画立案に関し多面的な検討を行い、それらを統合・結論づけし、評価することができる。 (批判的思考力)	秀	歯科衛生計画立案に関し、多面的な検討を行い、それらを統合して結論づけし、評価することができる。
	優	歯科衛生計画立案に関し、多面的な検討を行い、それらを統合して結論することができる。
	良	歯科衛生計画立案に関し、多面的に検討することができる。
	可	歯科衛生計画立案に関し、2-3の側面から検討することができる。
	不可	歯科衛生計画立案に関し、一方向からしか検討することができない。
⑤ 自己の思考や行動を振り返り、改善の道を常に模索することができる。 (省察力)	秀	自己の診断に対し適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へと模索し続けることができる。
	優	自己の診断に対し適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を客観的に検証し、望ましい思考・感情・行動を模索することができる。
	良	自己の診断に対し適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を客観的に検証することができる。
	可	他者の助言があれば、診断に対し疑問を持ち、自身の思考・感情・行動を検証することができる。
	不可	自己の診断に対し疑問を持たず、その思考・感情・行動を検証することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	20	0	0	10	10	100
評価項目	① 専門力	15	0	0	0	5	0	20
	② 情報力	15	0	0	0	5	0	20
	③ 論理的思考力	15	5	0	0	0	0	20
	④ 批判的思考力	15	5	0	0	0	0	20
	⑤ 省察力	0	10	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	筆記試験（持ち込み不可）
	②	
	③	
	④	
	⑤	
提出物	①	提出物の内容以外に、提出期限の順守の評価の対象とする。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
ポートフォリオ	①	指示した様式で提出。様式・内容以外に、提出期限の順守の評価の対象とする。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
その他	①	出席状況、忘れ物、受講態度等を評価の対象とする。
	②	
	③	
	④	
	⑤	

履修に必要な知識・技能・態度など
歯科衛生過程Ⅰで使用した教本や資料を使用します。 授業の準備物等について必ず事前に manaba にて確認してください。 欠席のないように体調管理には注意してください。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』 全国歯科衛生教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
コミュニケーション・医療面接 (O23270)	講 義	1	15	2	前 期	必 修	—	中條信義	7号館2階 非常勤講師 控室
信頼関係を獲得するための面接法								単独担当	
科目担当者	中條信義。								

授業の概要	医療現場では、患者からの言語情報だけでなく非言語情報を敏感に受け取り返す会話力が求められる。さらに患者だけでなく、歯科医師、患者家族、他の医療職の人々とのコミュニケーションも必要となる。このために科学的根拠に基づいた臨床心理学の知識とスキルを教科書中心に解説し、問診の取り方、トラブル対応などを模擬患者10例をもとに具体的な対応例を講義する。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク (レ) プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	対人関係におけるの基本的なコミュニケーションの目標	【事前】教科書10～23頁まで読む 【事後】教科書19～23頁まで読む
第2回	初診時の患者の想い(心理的ニーズ)を理解する	【事前】教科書26頁の模擬患者を読む 【事後】教科書27～30頁まで読む
第3回	多弁な患者の会話の脱線への対応とTBI、説明の途中で、勝手に歯ブラシを使いだす患者への対応	【事前】教科書31頁と35頁を読む 【事後】教科書32～34頁と36～39頁を読む
第4回	心を開かない患者との信頼関係を構築する法や質問を繰り返す不信感のある患者の心理的背景	【事前】教科書40頁と47頁を読む 【事後】教科書41～46頁と48～51頁を読む
第5回	指示に従ってくれない患者、どうしよう？	【事前】教科書52頁を読む 【事後】教科書53～58頁を読む
第6回	診療現場での状況に応じた対人関係の構築方法	【事前】教科書59頁を読む 【事後】教科書60～64頁を読む
第7回	口腔内違和感を訴える神経質な患者への対応	【事前】教科書65頁を読む 【事後】教科書66～70頁を読む
第8回	患者からのクレームへの対応方法	【事前】教科書71頁と80頁を読む 【事後】教科書72～79頁と81～84頁を読む

学修の到達目標
来院する患者の抱えている歯学的、心理的、社会的背景に配慮しながら、患者理解を基礎にした対人関係能力の発揮や診療室で遭遇する患者からのクレームに対応できる、トラブル回避能力を身につける。また歯科医療現場での歯科医師や医療スタッフとの意思疎通する会話力を身につける。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①社会の一員として知っておくべき知識・振る舞いを身につけている (常識力)	秀	一般常識や礼儀等の社会性を、人間関係のあらゆる場面で十分に発揮させ、様々な場面で他者と深く交流できる。
	優	一般常識や礼儀等の社会性を、人間関係のあらゆる場面で十分に発揮させることができる。
	良	一般常識や礼儀等の社会性を、人間関係の多くの場面で発揮させることができる。
	可	一般常識や礼儀等の社会性を、馴染みのある限られた人間関係の中では機能させることができる。
	不可	一般常識や礼儀等の社会性が身につけていない。
②情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる (判断力)	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で十分適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	適切な状況判断ができない。
③想いや考えを表現し、他者に伝えることができる (表現力)	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のすべてにおいて十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。
④他者の声に耳を傾け、創造的な対話をすることができる (傾聴力・対話力)	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、相手を感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解した上で共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に身を置いて話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者に大きな関心はないが、会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。
⑤自他の利害をこえて、協力して物事に取り組むことができる (協調性・協働力)	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が社会に還元される場合もある。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	協調・協働への興味は薄いですが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調・協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げってしまう。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	0	30	0	0	0	100
評価項目	① 常識的な対応	0	0	10	0	0	0	10
	② 適切な対応能力	0	0	10	0	0	0	10
	③ 表現力	20	0	0	0	0	0	20
	④ 傾聴力、会話力	50	0	0	0	0	0	50
	⑤ 協調性、協働力	0	0	10	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	五者択一式試験、教科書の持ち込み不可。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
成果発表 (口頭・実技)	①	講義中の発表態度から評価
	②	
	③	
	④	
	⑤	

履修に必要な知識・技能・態度など
<p>スマホやタブレット、携帯電話などはマナーモードにするか電源を切ってください。飲料水は水分補給のため可。講義中に教科書の朗読をお願いするが、他の学生の朗読を真剣に聞く態度、発表者の気持ちに思いを馳せた講義受講態度を希望する（私語やいねむりなど）。また講義の中で得た知識やスキルを日常会話に応用して使用する生活態度を希望する。</p>
教科書・参考書
<p>教科書：『パワーアップ！デンタル・コミュニケーション』 水木さとみ クインテッセンス出版 2008 参考書：『最新歯科衛生士教本 心理学』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2007 『患者さんの心と信頼をつかむコトバづかいと話し方』 山岸弘子 クインテッセンス出版 2006</p>

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
栄養指導法 (O23280)	講義	1	15	2	前期	必修	-	吉田幸恵	5号館3階 研究室
食生活は歯科疾患予防の基本								単独担当	
科目担当者	吉田幸恵								

授業の概要	食生活はう蝕や歯周病の重要な発症要因である。本講義では、食生活と歯科疾患、食生活と健康との関わりを知り、歯科疾患予防および健康増進の観点から望ましい食生活（栄養摂取）について理解する。さらに、日本人の栄養摂取の現状など栄養指導に必要な情報や望ましい食生活への改善方法について学ぶ。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	歯科疾患や健康と食生活の関わり	【事前】 歯科疾患の原因を確認する 【事後】 学修内容を確認する
第2回	食生活と栄養摂取	【事前】 2日分の食事を記録する 【事後】 学修内容を確認する
第3回	身体に必要な栄養（エネルギーと栄養素）	【事前】 栄養の役割を確認する 【事後】 学修内容を確認する
第4回	日本人の食事摂取基準	【事前】 食事摂取基準について下調べをする 【事後】 学修内容を確認する
第5回	日本人の栄養摂取の現状（国民健康栄養調査）	【事前】 国民栄養調査について下調べをする 【事後】 学修内容を確認する
第6回	食生活改善の取り組み（食事調査、第2次健康日本21）	【事前】 健康日本21について下調べをする 【事後】 学修内容を確認する
第7回	栄養指導の展開 （食品成分表、食事バランスガイド、食生活指針）	【事前】 食事バランスガイドについて下調べをする 【事後】 学修内容を確認する
第8回	食生活の評価 まとめ	【事前】 望ましい食事メニューを作成する 【事後】 学修内容を確認する

学修の到達目標
1. 身体および口腔の健康と栄養や食生活の関係を知る。 2. 歯科疾患予防を目的とした栄養指導の必要性を理解する。 3. 栄養指導を実施するための基本的な知識を習得する。 4. 食生活改善の方法論を理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①栄養指導を実施するための基本知識を身につけている。 (専門力)	秀	栄養指導を実施するための基本知識を十分高いレベルで身につけている。
	優	栄養指導を実施するための基本知識を高いレベルで身につけている。
	良	栄養指導を実施するための基本知識を身につけている。
	可	栄養指導を実施するための基本知識を身につけているが、十分ではない。
	不可	栄養指導を実施するための基本知識を身につけていない。

②栄養指導を論理的に展開することができる。 (論理的思考力)	秀	対象者に合わせた栄養指導を論理的に展開する能力が十分にある。
	優	対象者に合わせた栄養指導を論理的に展開する能力がある。
	良	栄養指導を論理的に展開する能力がある。
	可	栄養指導を展開できるが論理的には十分でない。
	不可	栄養指導を論理的に展開できない。
③学ぶこと・知ること に楽しさと喜びを覚 えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつなげられる。
	優	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見いだすことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	30	0	0	0	20	100
評価項目	① 専門力	50	0	0	0	0	0	50
	② 論理的思考力	0	30	0	0	0	0	30
	③ 知欲	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	筆記試験
	②	
	③	
提出物	①	レポート
	②	
	③	
その他	①	授業振り返りシートによる積極的な質問
	②	
	③	

履修に必要な知識・技能・態度など
教科書のⅡ編「歯と口の生化学」を熟読し、理解を深めておいて下さい。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 2 栄養と代謝』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：随時紹介します。必要に応じて資料を配付します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科予防処置演習 A II (う蝕) (O23310)	演習	1	30	2	前期	必修	-	破魔幸枝	5号館3階 研究室他
う蝕の予防方法を実践できる 能力を習得する								複数担当	
科目担当者	破魔幸枝、高橋由希子、小林容子								

授業の概要	歯科予防処置演習 A IIでは、1年次の「歯科予防処置演習 A I (う蝕)」に続き、う蝕予防方法とその具体的な処置方法に対する理論と実際の方法について演習を通じて学ぶ。また、相互実習では実際の臨床を想定しながらう蝕予防の術式により実践に近い形で授業を展開する。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学习支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション 情報収集・口腔内診査・歯面研磨マネキン実習 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 シラバスの確認 歯科予防処置論 A、歯科予防処置演習 A I、口腔衛生学授業振り返り 【事後】 授業内容の確認
第 2 回	情報収集・口腔内診査・歯面研磨相互実習 (前半) (同上)	【事前】 前回の授業内容の確認 【事後】 演習内容の反省・考察
第 3 回	情報収集・口腔内診査・歯面研磨相互実習 (後半) (同上)	【事前】 前回の授業内容の確認 【事後】 演習内容の反省・考察
第 4 回	う蝕予防処置法 1 (フッ化物歯面塗布法) (同上)	【事前】 該当するページの確認 【事後】 演習内容の反省・考察
第 5 回	う蝕予防処置法 1 相互実習 (フッ化物歯面塗布法) (同上)	【事前】 前回の授業内容の確認 【事後】 演習内容の反省・考察
第 6 回	う蝕予防処置法 2 (小窩裂溝充填塞法) (同上)	【事前】 前回の授業内容の確認 【事後】 演習内容の反省・考察
第 7 回	リスクに応じた予防処置方法 (歯周病も含む) (同上)	【事前】 前回の授業内容の確認 【事後】 演習内容の反省・考察
第 8 回	リスクに応じた予防処置方法 発表 (歯周病も含む) (同上)	【事前】 前回の授業内容の確認 【事後】 授業内容の振り返り

学修の到達目標
患者の情報収集・口腔内診査・歯面研磨ができる。 フッ化物歯面塗布法について説明、器具・器材の取り扱い、患者指導ができる。 小窩裂溝充填塞法について説明、器具・器材の取り扱い、患者指導ができる。 リスクに応じたう蝕予防処置方法を選択、実践することができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①う蝕予防処置の基礎的な知識を身につけている (専門力)	秀	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていない。
②う蝕予防処置の実践に必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる (情報力)	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
③う蝕予防の根拠に基づき、論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっている。よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
④う蝕予防処置法に対して、自己の思考を振り返り、模索することができる (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	15	30	0	0	5	100
評価項目	① 専門力	50	5	10	0	0	65
	② 情報力	0	5	5	0	0	10
	③ 論理的思考力	0	5	10	0	0	15
	④ 省察力	0	0	5	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験
	②		
	③		
	④		
提出物	①	レ	レポート課題
	②	レ	
	③	レ	
	④		
成果発表 (口頭・実技)	①	レ	実技評価
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
その他	①		受講態度の評価
	②		
	③		
	④	レ	

履修に必要な知識・技能・態度など

歯科衛生士に必用な知識・技術を習得するための授業である。体調を整え、講義・演習には必ず出席すること。前期の口腔衛生学・歯科予防処置 A の教科書と授業冊子は熟読し、必ず復習してから臨むこと。演習では学習したことを理解してすぐ実践する能力や他の学生との協調性も重要である。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『歯科衛生士のための齲蝕予防処置法 第2版』中垣晴男 加藤一夫 石飛國子 高坂利美 編著 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 保健生態学 第3版』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
参考書：『最新歯科衛生士教本 口腔保健管理』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科予防処置演習 B II (歯周病) (O23330)	演 習	2	60	2	前 期	必 修	-	高橋由希子	5号館3階 研究室他
スケーリング・ルートプレーニング 技術の習得								複数担当	
科目担当者	高橋由希子、吉田幸恵、破魔幸枝、小林容子								

授業の概要	1年次の歯科予防処置論 B、歯科予防処置演習 B I で習得した知識と予防的歯石除去の基礎技術をもとに、歯周疾患予防と治療に必要な技術を習得する。また、相互実習により歯周疾患の患者への対応法なども習得する。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input checked="" type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学习支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション キュレットスケーラーの基礎知識マネキン実習 (上顎前歯部) (担当者：科目担当者全員)	【事前】 必要なし 【事後】 演習内容の復習
第 2 回	キュレットスケーラー操作マネキン実習 (下顎前歯部) (同上)	【事前】 教科書の確認 【事後】 演習内容の復習
第 3 回	キュレットスケーラー操作マネキン実習 (下顎臼歯部) (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 4 回	キュレットスケーラー操作マネキン実習 (上顎臼歯部) (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 5 回	キュレットスケーラー操作実技テスト① (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 6 回	キュレットスケーラー操作実技テスト② (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 7 回	キュレットスケーラー操作相互実習 (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 8 回	キュレットスケーラー操作相互実習 (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 9 回	歯周治療の流れ・SOAP 記載法 (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 10 回	歯周組織診査・業務記録記入法相互実習 (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 11 回	歯周組織診査・業務記録記入法相互実習 (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 12 回	パワースケーラー・PMTC 相互実習 (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 13 回	パワースケーラー・PMTC 相互実習 (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 14 回	根分岐部の診査 (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 15 回	歯周病と全身疾患 (糖尿病) (同上)	【事前】 教科書、実習資料の確認 【事後】 演習内容の復習

学修の到達目標

- 1) キュレットスケーラー操作法を習得する。
- 2) 口腔内診査を行い、健康状態と病的状態を確認することができる。
- 3) 多目的超音波スケーラーの目的を理解する。
- 4) 歯面研磨を習得する。
- 5) PMTC を実践することができる。
- 6) ルートプレーニングの操作方法を習得する。
- 7) 根分岐部の診査方法を理解する。
- 8) 歯周病と全身疾患の関連について理解する。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①必要な歯科予防処置の基礎的な知識を身につけている。 (専門力)	秀	必要な歯科予防処置の知識を確実に身につけている。
	優	必要な歯科予防処置の知識を十分なレベルで身につけている。
	良	必要な歯科予防処置の知識を一定のレベルで身につけている。
	可	必要な歯科予防処置の知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	必要な歯科予防処置の知識を身につけていない。
②歯科予防処置に対し知識・技能を学び、考え、行動する。 (継続力)	秀	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって、楽しみながら物事に打ち込み続けることができる。
	優	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって物事に打ち込み続けることができる。
	良	ある程度自発的に、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	可	他者からの助言や何らかの外的条件づけのもと、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	不可	忍耐力・継続的実行力がない。
③情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる。 (判断力)	秀	すでに持っている知識、演習中得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使し、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	すでに持っている知識、演習中得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使し、短時間で正確な状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、演習中得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力等のいくつかを機能させつつ、自力で適切な課題の遂行ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、与えられた課題を一定レベルにおいて実行することができる。
	不可	与えられた場面において何をしたらいいのかわからない。
④自らの学びに対して正しく振り返ることができる。 (省察力)	秀	自身の知識・技能の修得のための考察を確実に行うことができ、次回の学修につなげることができる。
	優	自身の知識・技能の修得のための考察を十分なレベルで行うことができ、次回の学修につなげることができる。
	良	自身の知識・技能の修得のための考察を一定のレベルで行うことができる。
	可	自身の知識・技能の修得のための考察を最低限のレベルで行うことができる。
	不可	自身の知識・技能の修得のための考察を行うことができない。または振り返りレポートを提出しない。
⑤歯周治療の必要性や知識習得に愉しさを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、学修に愉しさを見出し、達成感を得ることができる。また、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修に導くことができている。
	優	自発的に学修することができ、学修に愉しさを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、学修に愉しさを見出すことができる。
	可	他者からの促しによって学修し、他者からの指摘により愉しさを見出すことができる。
	不可	学修や知識習得に愉しさを見出すことができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	0	30	0	15	5	100
評価項目	① 専門力	30	0	10	0	5	45
	② 継続力	5	0	5	0	5	20
	③ 判断力	0	0	5	0	0	5
	④ 省察力	10	0	5	0	5	20
	⑤ 知欲	5	0	5	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	筆記試験を実施する。 試験は教科書と配布資料から出題し、講義過程において知識が修得できているかを確認する。
	② レ	
	③	
	④ レ	
	⑤ レ	
成果発表 (口頭・実技)	① レ	実技テストを実施する。
	② レ	
	③ レ	
	④ レ	
	⑤ レ	
ポートフォリオ	① レ	各自実習の取り組みを自ら振り返り評価するポートフォリオを、それぞれの学びの成果として蓄積していく。ポートフォリオ評価は蓄積された成果を公平な観点から評価する。 欠落している場合は減点の対象となる。
	② レ	
	③	
	④ レ	
	⑤	
その他	①	出席状況および学内評価
	② レ	
	③	
	④	
	⑤	

履修に必要な知識・技能・態度など
1年次の歯科予防処置演習 B I での基本的なインスツルメンテーションの習得をした上で学習する内容である。やむ得ない場合を除き以外は原則として欠席を認めない。技術習得は繰り返し行う事で身につくため、自己学習を必須とする。チェアの取扱い、患者対応などは臨床実習に直接につながる内容であるため、患者を想定して演習に取り組む。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：『目で見るとペリオドンタルインスツルメンテーション I ベーシックスキル』 Jill S. Nield-Gehrig 著 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 年度別歯科衛生士国家試験問題集 2020年度版 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科保健指導演習Ⅱ (O23350)	演 習	1	30	2	前 期	必 修	-	中村美紀	5号館3階 研究室他
ライフステージに応じた 歯科保健指導の学修								複数担当	
科目担当者	中村美紀、福田昌代、浅枝麻夢可、龍野耕一								

授業の概要	ライフステージごとの事例を通し、ライフステージに応じた歯科保健指導の実践力、応用力、コミュニケーション能力を培う。また、多様な事例を学修することで、歯科衛生士は全てのライフステージに関わる職業であることの意識化を図る。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) (レ) その他(ロールプレイ)

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション 矯正歯科治療中の患者に対する歯科保健指導 (担当者：中村、龍野)	【事前】 シラバスを読んでおく 矯正歯科について学修しておく 【事後】 授業内容の振り返り
第2回	成人期の歯科衛生介入演習 補綴装着患者に対する歯科保健指導 (担当者：中村)	【事前】 成人期の歯科衛生介入について学修する 【事後】 授業内容の振り返り
第3回	学童期の歯科衛生介入演習 (担当者：中村)	【事前】 学童期の歯科衛生介入について学修する 【事後】 授業内容の振り返り
第4回	患者体験・3年生によるアセスメント(合同演習①) 医療面接・情報収集 (担当者：全員)	【事前】 医療面接・情報収集の復習 【事後】 患者体験の記録、授業内容の振り返り
第5回	患者体験・3年生によるアセスメント(合同演習②) 口腔内 状況等情報収集 (担当者：全員)	【事前】 3年生への質問事項の準備 【事後】 患者体験の記録、授業内容の振り返り
第6回	障がい児・者に対する歯科衛生介入演習 (担当者：中村)	【事前】 障がい児・者に対する歯科衛生介入について学修する 【事後】 授業内容の振り返り
第7回	周産期の歯科衛生介入演習 (担当者：福田)	【事前】 周産期の歯科衛生介入について学修する 【事後】 授業内容の振り返り
第8回	乳幼児期の歯科衛生介入演習 まとめ (担当者：中村)	【事前】 乳幼児期の歯科衛生介入について学修する 【事後】 授業内容と歯科保健指導演習Ⅱの振り返り

学修の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージの概念を理解する。 ・歯科衛生過程に基づき、ライフステージに応じた歯科保健指導計画の立案方法を学修する。 ・歯科保健指導の実践を理解する。 ・歯科保健指導に必要なコミュニケーション能力を理解する。 ・歯科衛生士は全てのライフステージに関わる職業であることを理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①生活背景や身体との関係を考慮し、ライフステージに応じた歯科保健指導ができる (専門力)	秀	生活背景や身体との関係を考慮し、ライフステージに応じた十分な知識と技術を身につけている。また、それらを応用して実践につなげ、さらに理解を深めることができる。
	優	生活背景や身体との関係を考慮し、ライフステージに応じた十分な知識と技術を身につけている。また、それらを応用することができる。
	良	生活背景や身体との関係を考慮し、ライフステージに応じた一定の知識と技術を身につけている。
	可	ライフステージに応じたある程度の知識と技術を身につけている。
	不可	ライフステージに応じた知識と技術を身につけていない。
②客観的な根拠と論理的思考に基づいた計画立案および介入ができる。 (論理的思考力)	秀	客観的な根拠と十分な論理的思考に基づいた計画立案および介入ができる。
	優	客観的な根拠と論理的思考に基づいた計画立案および介入ができる。
	良	客観的な根拠と論理的思考に基づいた計画立案ができる。
	可	客観的な根拠は欠けるが、ある程度論理的思考に基づいた計画立案ができる。
	不可	根拠に基づき、論理的に思考することができない。
③自己の思考や行動に対し、客観的な評価ができる (省察力)	秀	常に自己の思考や行動を客観的に捉え、適切な評価を行うことができる。また、そこからさらに望ましい思考や行動へ繋げることができる。
	優	自己の思考や行動を客観的に捉え、評価を行うことができる。また、そこから望ましい思考や行動へ繋げようとする努力がみられる。
	良	自己の思考や行動を客観的に捉え、評価を行うことができる。
	可	他者の助言があれば、自己の思考や行動を捉え、評価を行うことができる。
	不可	自己の思考や行動を捉えられず、評価を行うこともできない。
④対象者の話を聴いたうえで、分かり易い言葉で会話し、対象者の共感を得ることができる。 (傾聴力・対話力)	秀	対象者の話に真摯に耳を傾け、その意向を十分に理解したうえで、対象者に分かり易い言葉で会話ができ、共感を得ることができる。
	優	対象者の話に耳を傾け、その意向を理解したうえで、対象者に分かり易い言葉で会話ができる。
	良	対象者の話を聴き、ある程度その意向を理解することができ、対象者と会話ができる。
	可	他者の助言があれば、対象者の話よりその意向を理解することができる。
	不可	対象者の話を聴いてもその意向をくめず、会話が成り立たない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	10	10	0	0	0	100
評価項目	① 専門力	40	5	0	0	0	0	45
	② 論理的思考力	20	5	0	0	0	0	25
	③ 省察力	20	0	5	0	0	0	25
	④ 傾聴力・対話力	0	0	5	0	0	0	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	筆記試験（持ち込み不可）
	②	
	③	
	④	
提出物	①	内容以外に、提出期限の順守も評価の対象とする。
	②	
	③	
	④	
成果発表 (口頭・実技)	①	演習内で行う成果発表。出席状況、受講態度、忘れ物等も評価の対象とする。
	②	
	③	
	④	

履修に必要な知識・技能・態度など

歯科衛生過程で学修した内容を復習しておいてください。
欠席のないように体調管理には注意してください。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科保健指導演習Ⅲ (O23360)	演 習	1	30	2	後 期	必 修	-	福田昌代	5号館3階 研究室他
個別・集団歯科保健指導技法の学修 他者への歯科保健指導を実践しよう								複数担当	
科目担当者	福田昌代、中村美紀、浅枝麻夢可								

授業の概要	<p>集団指導の技法を学修する。様々なライフステージの対象者から集団指導を依頼されたと想定し、対象となる集団の現状把握から課題抽出・分析・指導案の作成・実施・評価という一連の流れを理解し、集団指導の展開プロセスを学修する。本授業で作成した講話原稿は3年次地域口腔保健支援実習Ⅱにおいて実際に使用する。</p> <p>1年生を患者として個別歯科保健指導を行う。対象者の口腔状況や生活状況の把握をし、歯科衛生過程の考え方にに基づき、問題の明確化、介入方法の決定までを行う。</p>
アクティブ・ラーニングの要素	<p>(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ICT (manaba) 活用の自主学习支援</p> <p>() ディスカッション、ディベート (レ) グループワーク () プレゼンテーション</p> <p>(レ) 実習、フィールドワーク (レ) 課題解決型学習(外部協定 有・無)</p> <p>() 反転授業 () その他 ()</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション 個別歯科保健指導と集団歯科保健指導について 担当学年の決定 (担当：福田)	【事前】 シラバスを読んでおく 【事後】 配布資料の見直し、担当学年の資料収集
第2回	指導案の作成① (ストーリーの設定) (担当：福田・中村・浅枝)	【事前】 担当学年の資料収集 【事後】 指導案作成の続き
第3回	指導案の作成② (時間配分の決定・原稿作成に必要な資料収集) (担当：福田・中村・浅枝)	【事前】 担当学年の資料収集 【事後】 指導案作成の完成
第4回	講話原稿の作成① (講和原稿の記入) (担当：福田・中村・浅枝)	【事前】 講話原稿に向けての資料収集 【事後】 講話原稿作成の続き
第5回	講話原稿の作成② (指導媒体の決定) (担当：福田・中村・浅枝)	【事前】 講話原稿作成の続き 【事後】 講話原稿の完成ならびに指導媒体の決定
第6回	1・2年生合同実習① 患者アセスメント①医療面接・情報収集 患者アセスメント②口腔状況等情報収集 (担当：福田・中村・浅枝)	【事前】 患者コミュニケーション法の再確認 1年生に対して口腔内のアセスメントを行うための事前学習ならびに1年生に対して学習に対するアドバイスとなる内容を整理 【事後】 収集した情報の整理
第7回	1・2年生合同実習② 情報の伝達・簡易歯科保健指導 (担当：福田・中村・浅枝)	【事前】 収集した情報の整理 簡易歯科保健指導の準備学習 【事後】 対象患者への歯科衛生介入に向けての準備
第8回	歯科衛生診断・計画立案 (問題の明確化、目標設定、介入方法決定) 振り返り・まとめ (担当：福田・中村・浅枝)	【事前】 収集した情報の整理 対象患者への歯科衛生介入に向けての準備 【事後】 まとめ

学修の到達目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 集団指導の技法を理解する。 2. 健康教育の意義を理解する。 3. 担当学年の指導案の作成ができる。 4. 指導案に沿って講和原稿が作製できる。 5. 個別歯科保健指導実践のための情報収集ができる。 6. 収集した情報を元に問題点を抽出し、個別歯科保健指導のための介入計画が立案できる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の基礎的な知識と技能を身につけている。 (専門力)	秀	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の知識と技能を両方とも確実に身につけている。
	優	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の知識と技能を十分なレベルで身につけている。
	良	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の知識と技能を一定のレベルで身につけている。
	可	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の知識と技能を最低限のレベルで身につけている。
	不可	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の知識と技能を身につけていない。
② 担当患者の個別歯科保健指導を行うための情報を収集し、自身の知識・技能を活用して担当患者の課題解決策をデザインすることができる。 (デザイン力)	秀	自身の知識・技能を統合して、担当患者の口腔内を観察し分析した上で、患者の課題を確実に解決できる方法をデザインすることができる。
	優	自身の知識・技能を統合して、担当患者の口腔内を観察し、患者の課題を十分に解決できる方法をデザインすることができる。
	良	自身の知識・技能を統合して、担当患者の口腔内を観察し、患者の課題を一定のレベルで解決できる方法をデザインすることができる。
	可	自身の知識・技能を統合して、担当患者の口腔内を観察し、患者の課題を最低限のレベルで解決できる方法をデザインすることができる。
	不可	担当患者の課題解決策をデザインすることができない。
③ 集団指導を行うにあたり、担当学年の対象者に歯科保健に関する知識を伝達できる指導案と原稿を作製することができる。 (表現力)	秀	対象学年の歯科保健に関する資料を十分に活用した上で、健康教育を行うための指導案と原稿を素晴らしいアイデアを盛り込んで作成することができる。
	優	対象学年の歯科保健に関する資料を活用し、健康教育を行うための指導案と原稿を対象者の立場に立ち、わかりやすい内容で作成することができる。
	良	対象学年の歯科保健に関する資料を活用し、健康教育を行うための指導案と原稿を必要な内容を盛り込んで作成することができる。
	可	健康教育を行うための指導案と原稿を最低限のレベルで作成することができる。
	不可	健康教育を行うための指導案と原稿を作製することができない。
④ 指導案・原稿を作製する際に役割分担を明確にし、協力的に取り組むことができる (協調性・協同性)	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協同することができる。グループのリーダー的存在として活動し、相手の立場を理解してグループが協調・協同のモチベーションが上がるような役割を担うことができる。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協同することができる。グループが協調・協同のモチベーションが上がるような役割を担うことができる。
	良	自発的に周囲と協調・協同することができる。
	可	自発的な協調・協同行動は見られないが、他者から促されることで周囲のモチベーションを下げることなく行動することができる。
	不可	協調・協同する意思がなく、周囲のモチベーションを下げ、グループ活動に支障をきたしている。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	20	15	0	0	5	100
評価項目	① 知識の修得	60	0	0	0	0	0	60
	② 患者に対する問題解決デザイン力	0	20	0	0	0	0	20
	③ 指導案・原稿内容	0	0	15	0	0	0	15
	④ グループ活動における協調・協同性	0	0	0	0	0	5	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	授業の成果確認のため筆記定期試験を実施する。試験は教科書と配布資料、演習内容から出題し、知識が修得できているかを確認する。
	②	
	③	
	④	
提出物	①	1年生の担当患者のアセスメントから問題点の抽出、目標の設定、介入計画立案までの行い、そのレポート内容により評価する。
	②	
	③	
	④	
成果発表 (口頭・実技)	①	担当学年の指導案・原稿の成果によって評価する。
	②	
	③	
	④	
その他	①	指導案・原稿を作製するグループ間での他者評価表と教員評価表を使用して評価をおこなう。
	②	
	③	
	④	

履修に必要な知識・技能・態度など
<p>集団指導については、限られた時間の中で、グループで協同して作業を行い指導案ならびに原稿を作製する必要があるため、時間を有効に使用し、授業時間外の時間も使用して進行すること。対象学年の資料は各自で必ず収集する。</p> <p>個別指導については、今までの学修してきた知識や技能が十分に活用できる必要があるため、不安事項がある場合は事前に解決しておく。1年次、2年次前期までに学修した内容について復習しておくこと。</p>
教科書・参考書
<p>教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 保健生態学』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版</p> <p>参考書：『臨床実習 Hand book 歯科衛生士教育サブテキスト』 クインテッセンス出版 『世界最強の歯科保健指導—診療室から食育まで—上巻』 岡崎好秀 著 クインテッセンス出版 『新版 家族のための歯と口の健康百科』 伊藤公一他 著 医歯薬出版 『歯科保健指導関係資料』 財団法人口腔保健協会 『生きるちから ライフスキルを育む歯と口の健康教育』 川畑徹郎 監修 財団法人ライオン歯科研究所編 浅枝山書房 『すぐできる！楽しくできる！歯・口の健康づくり』 安井利一・安室潔・山本広美 著 浅枝山書房 『歯科衛生過程 Hand book やさしく学べる・これならわかる 歯科衛生士教育サブテキスト』 吉田直美他 著 クインテッセンス出版</p> <p>その他、必要な教科書や文献は随時紹介する。</p>

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
総合歯科実習 (O23420)	実習	3	135	2	後期	必修	-	御代出三津子	5号館3階 研究室他
歯科衛生士の3大業務を総合的に 実践する能力を身につける								複数担当	
科目担当者	御代出三津子、高橋由希子								

授業の概要	<p>歯科診療所における実習を通して、基礎および専門科目で学習した知識の理解を深め、歯科衛生士の3大業務(歯科診療の補助、予防処置、歯科保健指導)を総合的に実践する能力を身に付け、歯科診療における歯科衛生士の役割を認識することを目的とする。</p> <p>なお当該科目は、医療現場等において歯科衛生士の実務(臨床)経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。</p>	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
	<p>実習前：学内にて事前指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習概要の説明 ・各実習の目的と特徴の理解 ・連絡方法の確認 ・実習目標の設定 <p>実習施設：神戸常盤大学短期大学部歯科診療所等にて臨地実習を行う。</p> <p>実習後：学内にて振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを用いた振り返り、考察を行う。 ・振り返り内容を発表する。 <p>(担当者：科目担当者全員)</p>	<p>【事前】 実習目標を設定する。 翌日の実習に応じた予習をおこなう。</p> <p>【事後】 実習目標の達成状況を振り返る。 実習日誌に学んだ内容をまとめる。 自己学習をおこなう。</p>

学修の到達目標
歯科診療所、神戸常盤大学短期大学部歯科診療所の役割・機能を知る 歯科診療における共同動作の基本ルールを理解し、患者の安全に配慮した臨床手技を習得する 歯科チーム医療における歯科衛生士の役割と責任を理解する 歯科衛生士の3大業務の内容について理解を深める 医療安全・感染予防対策について理解する 医療職種としての歯科衛生士の基本的態度を養う

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士の実務遂行に必要な知識・技能を身につけている (専門力)	秀	歯科診療所における歯科衛生士業務についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナルリズムも持ち合わせている。
	優	歯科診療所における病歯科衛生士業務についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナルリズムも伴っている。
	良	歯科診療所における歯科衛生士業務についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	歯科診療所における歯科衛生士業務についての知識・技術を身につけている。
	不可	歯科診療所における歯科衛生士業務についての知識・技術を身につけていない。
② チーム医療の一員としての責任をもって物事に臨むことができる (責任感)	秀	歯科チーム医療の一員として必要とされていることに臨機応変に応えることができる。つまり自由意志のもとに決断し、その場に適した態度を取ることができる。
	優	歯科チーム医療の一員として必要とされていることに応えることができる。仮に応えられなかったときも、その場で取るべき態度を自覚できる。
	良	歯科チーム医療の一員として必要な存在であると十分理解している。促されてその場に適した態度を取ることができる。
	可	歯科チーム医療の一員としてその場から何かを必要とされていることはわかっている、何かをしたいという意志はある。
	不可	歯科チーム医療の一員として何かを得たいと求めることはできるが、自分がその場に何かできることはないだろうかという発想はない。
③ 情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる (判断力)	秀	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使して、自分で十分に適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者とコミュニケーションをとり、助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	他者とコミュニケーションを取って、適切な状況判断ができない。
④ 自己の思考や行動を振り返り、改善の道を常に模索することができる (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	0	0	0	0	100	100
評価項目	① 専門的な知識・技術	0	0	0	0	0	25	25
	② チーム医療を担う者としての責任感	0	0	0	0	0	25	25
	③ コミュニケーション能力を用いた正確な情報収集と適切な判断力	0	0	0	0	0	25	25
	④ 自分の学びを振り返り改善する力	0	0	0	0	0	25	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
その他	①	レ 臨地実習指導者評価 詳細な評価項目・基準は臨地実習要綱・要領に記載あり
	②	レ 臨地実習指導者評価 詳細な評価項目・基準は臨地実習要綱・要領に記載あり
	③	レ 学内評価：巡回指導者 詳細な評価項目・基準は臨地実習要綱・要領に記載あり
	④	レ 学内評価：科目責任者 詳細な評価項目・基準は臨地実習要綱・要領に記載あり

履修に必要な知識・技能・態度など
<p>臨地実習では2年次前期までに学習した全ての知識・技術が必要になる。学習した内容を整理し復習して自分のものにしておくこと。</p> <p>欠席・遅刻・早退は認めないので、体調を自己管理して臨むこと。</p>
教科書・参考書
<p>教科書：使用しない</p> <p>参考書：『新常用歯科事典』 中原 泉 医歯薬出版 『臨床実習 HAND BOOK (歯科衛生士教育サブテキスト)』 真木吉信 監著 クインテッセンス出版</p>

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
診療補助実習 I (O23430)	実習	3	135	2	後期	必修	-	中村美紀	5号館3階 研究室他
歯科診療所における歯科衛生士の役割を知り、3大業務を学ぶ								複数担当	
科目担当者	中村美紀、氏橋貴子								

授業の概要	<p>歯科診療所における臨地実習を通して、歯科治療の流れ、歯科器材や歯科材料、薬剤についての基礎的知識を確認し、理解を深める。また、歯科診療所における歯科衛生士の役割を知り、歯科衛生士3大業務を総合的に学修する。</p> <p>なお当該科目は、医療現場等において歯科衛生士の実務（臨床）経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。</p>								
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業				(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他 ()				

授業回	授業内容	授業時間外の学修
	<p>実習前：学内にて事前指導を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習概要の説明 ・実習の目的と特徴の理解 ・実習目標の設定 <p>実習施設：地域歯科診療施設にて臨地実習を実施。</p> <p>実習後：学内にて振り返りを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通し、振り返りを実施 ・振り返りの成果発表 	<p>【事前】実習目標を設定する。 翌日の実習に応じた予習。</p> <p>【事後】実習目標の達成状況を振り返る。 実習日誌に学修した内容をまとめる。 自己学習。</p>

学修の到達目標
1. 地域歯科診療施設の役割・機能を知る。 2. 歯科診療における共同動作の基本ルールを理解する。 3. 歯科チーム医療における歯科衛生士の役割と責任を理解する。 4. 医療安全・感染予防対策について理解を深める。 5. 医療職としての歯科衛生士の基本的態度を養う。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①歯科診療所における歯科衛生士の3大業務遂行に必要な知識と技能を身につけている。 (専門力)	秀	歯科診療所における歯科衛生士3大業務についての知識と技術、両方を十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	歯科診療所における歯科衛生士3大業務についての知識と技術、両方を十分なレベルで身につけている。
	良	歯科診療所における歯科衛生士3大業務についての知識と技術、どちらか一方を十分なレベルで身につけている。
	可	歯科診療所における歯科衛生士3大業務についての知識と技術を、ある程度のレベルで身につけている。
	不可	歯科診療所における歯科衛生士3大業務についての知識と技術を身につけていない。

② 歯科チーム医療の一員として責任を持ち、物事に臨むことができる。 (責任感)	秀	歯科チーム医療の一員として臨機応変に応えることができる。瞬時に決断し、その場に適した態度をとることができる。
	優	歯科チーム医療の一員として必要とされていることに応えることができる。その場に適した態度は理解できているが、決断に多少の時間がかかる。
	良	歯科チーム医療の一員として必要な存在であることは理解している。その場で取るべき態度は自覚できる。
	可	歯科チーム医療の一員として必要な存在であることは理解している。他者の助言があれば、その場で取るべき態度は自覚できる。
	不可	歯科チーム医療の一員としての必要性が理解できず、責任感を持つことができない。
③ 情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる。 (判断力)	秀	既に持っている知識やコミュニケーション能力を用いて情報を収集し、統合力や決断力をバランスよく駆使し、短時間で正確な状況判断ができる。さらにそれらを踏まえ次の創造的作業を実行する。
	優	既に持っている知識やコミュニケーション能力を用いて情報を収集し、統合力や決断力をバランスよく駆使し、短時間で正確な状況判断ができる。
	良	既に持っている知識やコミュニケーション能力を用いて情報を収集し、統合力や決断力等を機能させ、自発的で適切な状況判断ができる。
	可	他者の助言があれば、情報を収集し、その場に即したある程度の状況判断ができる。
	不可	情報が収集できず、適切な状況判断ができない。
④ 自己の思考や行動を振り返り、改善の道を常に探索することができる。 (省察力)	秀	日頃から修得した知識や技術を客観的に検証しており、さらなる望ましいものへとつなげ続けられる復習と考察ができる。
	優	日頃から修得した知識や技術を検証し、次につながる復習と考察ができる。
	良	問題提起があると自発的に修得した知識や技術を検証し、次につながる復習と考察ができる。
	可	他者の助言があれば修得した知識や技術を検証し、復習と考察ができる。
	不可	修得した知識や技術を検証することができず、復習と考察もできない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	0	0	0	10	90	100
評価項目	① 専門力	0	0	0	0	5	20	25
	② 責任感	0	0	0	0	0	25	25
	③ 判断力	0	0	0	0	0	25	25
	④ 省察力	0	0	0	0	5	20	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
ポートフォリオ	①	臨地実習日誌。提出期限の順守も評価の対象とする。
	②	
	③	
	④	
その他	①	詳細な評価項目・基準は臨地実習要綱・要領に記載。 事前・事後指導を含む、臨地実習中の欠席状況、態度、忘れ物等も評価の対象とする。
	②	
	③	
	④	

履修に必要な知識・技能・態度など

詳細な評価項目・基準は臨地実習要綱・要領に記載。
事前・事後指導を含む、臨地実習中の欠席状況、態度、忘れ物等も評価の対象とする。

教科書・参考書

教科書：『臨地実習 HAND BOOK (歯科衛生士教育サブテキスト)』 眞木吉信 監著 クインテッセンス出版
『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
参考書：随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
口腔保健衛生学実習 I (O23450)	実習	3	135	2	後期	必修	-	破魔幸枝	5号館3階 研究室他
小児歯科・矯正歯科における 歯科衛生士の役割を学ぶ								複数担当	
科目担当者	破魔幸枝、八木孝和、小林容子								

授業の概要	<p>小児歯科および矯正歯科診療所における臨地実習を通して、それぞれの専門医における歯科治療の特性と歯科衛生士の役割を学びます。また、保護者を含めた対象者への対応方法について実践的に学びます。</p> <p>なお当該科目は、医療現場等において歯科衛生士の実務（臨床）経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。</p>
アクティブ・ラーニングの要素	<p>() ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ICT (manaba) 活用の自主学习支援</p> <p>() ディスカッション、ディベート (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション</p> <p>(レ) 実習、フィールドワーク () 課題解決型学習(外部協定 有・無)</p> <p>() 反転授業 () その他 ()</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学修
	<p>実習前：学内にて事前指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習概要の説明 ・各実習の目的と特徴の理解 ・連絡方法の確認 ・実習目標の設定 <p>実習施設：以下の施設にて臨地実習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児歯科 ・矯正歯科 <p>実習後：学内にて振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを用いた振り返り、考察を行う。 ・振り返り内容を発表する。 	<p>【事前】 実習目標を設定する。 翌日の実習に応じた予習を行う。</p> <p>【事後】 実習目標の達成状況を振り返る。 実習日誌に学んだ内容をまとめる。 自己学習を行う。</p>

学修の到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児歯科・矯正歯科の役割・機能を知る。 2. 小児歯科・矯正歯科における歯科衛生士の役割を理解する。 3. 小児期・矯正中の口腔保健管理を学ぶ。 4. 小児歯科・矯正歯科における対象者や保護者への対応方法を修得する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①各専門職の実務遂行に必要な知識・技能を身につけている (専門力)	秀	小児歯科・矯正歯科の専門領域に関する知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	小児歯科・矯正歯科の専門領域に関する知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	小児歯科・矯正歯科の専門領域に関する知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	小児歯科・矯正歯科の専門領域に関する知識・技術を身につけている。
	不可	小児歯科・矯正歯科の専門領域に関する知識・技術を身につけていない。

② チーム医療の一員としての責任をもって物事に臨むことができる (責任感)	秀	チーム医療の一員として必要とされていることに臨機応変に応えることができる。つまり自由意志のもとに決断し、その場に適した態度を取ることができる。
	優	チーム医療の一員として必要とされていることに応えることができる。仮に応えられなかったときも、その場で取るべき態度を自覚できる。
	良	チーム医療の一員として必要な存在であると十分理解している。促されてその場に適した態度を取ることができる。
	可	チーム医療の一員としてその場から何かを必要とされていることはわかっている、何かをしたいという意志はある。
	不可	チーム医療の一員として何かを得たいと求めることはできるが、自分がその場に何かできることはないだろうかという発想はない。
③ 情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる (判断力)	秀	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使して、自分で十分適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者とコミュニケーションをとり、助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	他者とコミュニケーションを取って、適切な状況判断ができない。
④ 自己の思考や行動を振り返り、改善の道を常に模索することができる (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	0	0	0	0	100	100
評価項目	① 専門的な知識・技術	0	0	0	0	25	25
	② チーム医療を担う者としての責任感	0	0	0	0	25	25
	③ コミュニケーション能力を用いた正確な情報収集と適切な判断力	0	0	0	0	25	25
	④ 自分の学びを振り返り改善する力	0	0	0	0	25	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
その他	①	詳細な評価項目・基準は臨地実習実施要綱・要領に記載あり 評価：科目責任者、臨地実習指導者、巡回指導者
	②	
	③	
	④	

履修に必要な知識・技能・態度など

臨地実習では、2 年次前期までに学んだすべての知識・技術が必要になる。学んだ内容を整理し、復習して自分のものにしておくこと。また、特別な理由がない限り、臨地実習の欠席は認めないため、体調管理に留意すること。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 小児歯科』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 歯科矯正』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 保健生態学 第3版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
参考書：『新常用歯科辞典』 中原泉 医歯薬出版
『臨床実習 HANDBOOK (歯科衛生士教育サブテキスト)』 眞木吉信 監著 クインテッセンス出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

第12回	合宿⑦ 地域貢献活動 (担当者：澁谷・京極)	【事前】各自、地域貢献活動での役割について考える。 【事後】活動記録を提出
第13回	合宿⑧ 地域貢献活動 (担当者：澁谷・京極)	【事前】各自、地域貢献活動での役割について考える。 【事後】活動記録を提出
第14回	振り返り、発表会準備 合宿の目標設定、その目標の到達度、活動報告についてまとめる。 (担当者：澁谷・京極)	【事前】合宿の計画、活動報告をまとめる。 【事後】発表会の資料を作成する。
第15回	発表会 活動報告も含め、この授業で学んだこと、その学びをどのように役立てていくかについて発表する。 (担当者：澁谷・京極)	【事前】発表会の準備をする。 【事後】まとめを行う。

学修の到達目標

履修者は地域の方々との関わり、共同生活において、協力して活動するために必要な事項、社会性について自発的に考える。また考えた事項を合宿で実践し、社会性を身につける。履修期間をとおして考え、身につけた事項をどのように各専門分野に役立てていくかを考える。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①自分の考えを表現し、他者に伝えることができる (表現力)	秀	自分の考え、想いを論理的にまとめ、他者へ伝えることができる
	優	自分の考え、想いを表現でき、他者へ伝えることができる
	良	自分の考え、想いを表現することができる
	可	自分の想いを表現することができる
	不可	自分の考えを表現することができない
②必要なことを考え、判断し、行動することができる (判断力・実行力)	秀	必要なことを自ら考え、判断し、他者とともに行動することができる
	優	必要なことを自ら考え、判断し、行動することができる
	良	必要なことを他者の協力のもと考え、判断し、行動することができる
	可	必要なことを他者の協力のもと考えることができる。
	不可	必要なことを考えることができない。
③自分のやるべきことを考え、取り組むことができる (責任感)	秀	自分のやるべきことを自ら考え、他者とともに取り組むことができる
	優	自分のやるべきことを自ら考え、取り組むことができる
	良	自分のやるべきことを他者の協力のもと考え、取り組むことができる
	可	自分のやるべきことを他者の協力のもと考えることができる
	不可	自分のやるべきことを考えることができない。
④対話の場面において、他者の考え・想いを聴き、他者の気持ちを考えて行動・対話することができる (傾聴力・対話力)	秀	他者の考え・想いを聴き、他者の立場となり考え、他者の気持ちを考えた行動・対話することができる
	優	他者の考え・想いを聴き、他者の立場となり考え、行動・対話することができる
	良	他者の考え・想いを聴き、他者の立場となり考えることができる
	可	他者の考え・想いを聴きくことができる
	不可	他者の考え・想いを聴きくことができない
⑤全ての場面において、他者の立場となり考え、協力し目標達成に向けて行動することができる (協調性・協働性)	秀	他者の立場となり考え、積極的に協力し目標達成に向けて行動することができる
	優	他者の立場となり考え、協力し目標達成に向けて行動することができる
	良	積極的に協力し目標達成に向けて行動することができる
	可	協力し目標達成に向けて行動することができる
	不可	目標達成に向けて行動することができない

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	15	15	25	0	0	45	100
評価項目	① 表現力	10	10	10	0	0	35
	② 判断力・実行力	0	0	0	0	10	10
	③ 責任感	5	5	5	0	10	25
	④ 傾聴力・対話力	0	0	5	0	10	15
	⑤ 協調性・協働力	0	0	5	0	10	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レポート試験（合宿終了後の提出）
	②	
	③	
	④	
	⑤	
提出物	①	第1～13回（準備,合宿）：manabaにおいて準備、合宿に用いる資料、まとめの資料を提出 第7～8回（振り返り）：報告書、発表資料を提出
	②	
	③	
	④	
	⑤	
成果発表 (口頭・実技)	①	合宿オリエンテーション、発表会
	②	
	③	
	④	
	⑤	
その他	①	他者から評価、自分自身の評価 毎回、manabaにおいてアンケート（自分自身の評価、他者からの評価）を実施する。
	②	
	③	
	④	
	⑤	

履修に必要な知識・技能・態度など
地域の方々、先輩、同級生、教職員との関わりから、何かを学ぼうとする姿勢を持って履修すること。 再試験は実施しない。
教科書・参考書
教科書：定めず、必要時は資料配布 参考書：定めず、必要時は資料配布

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

MEMO

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
プレゼンテーション技法 (O21000)	演 習	1	30	3	前 期	必 修	-	中田康夫	7号館4階 研究室等
人を動かすプレゼンテーション								複数担当	
科目担当者	中田康夫、谷口英明、室崎友輔								

授業の概要	臨床において医療従事者のコミュニケーション能力が重要であることは誰もが疑う余地のないことであるが、情報を伝え・公開する能力であるプレゼンテーション能力が、そのコミュニケーション能力の重要な一部であることを理解している人はまだまだ多くない。患者や医療従事者にとって有用な情報があっても、情報を伝えるための技能であるプレゼンテーション技法が身につけていないためにその情報が適切に伝えられなければ、その情報は存在しないのと同じである。そこで、本科目では、プレゼンテーション能力をコミュニケーション能力の一部と位置づけ、人を動かすプレゼンテーションを実践するための基礎的技法・能力の修得を目指す。
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション・ガイダンス プレゼンテーションに向けたグループワーク 1-(1) 参考文献・資料の検索 (担当者：中田)	【事前】 シラバスを熟読してくる 【事後】 第3回の発表に間に合うように授業時間外も有効活用する
第2回	プレゼンテーションに向けたグループワーク 1-(2) 資料の作成 (担当者：中田)	第3回の発表に間に合うように授業時間外も有効活用する
第3回	プレゼンテーションとクリティーク (ピア&教員による) (担当者：中田)	【事前】 グループでの発表準備 【事後】 発表内容のリフレクション
第4回	プレゼンテーションに向けたグループワーク 2-(1) 参考文献・資料の検索 (1グループ4分) (担当者：中田)	第6回の発表に間に合うように授業時間外も有効活用する
第5回	プレゼンテーションに向けたグループワーク 2-(2) 資料の作成・予行演習・修正・完成 (担当者：中田)	第6回の発表に間に合うように授業時間外も有効活用する
第6回	プレゼンテーションとクリティーク (ピア&教員による) (担当：中田)	【事前】 グループでの発表準備 【事後】 発表内容のリフレクション
第7回	プレゼンテーションに向けたグループワーク 3-(1) スライドのデザイン1 (フォントとカラー、マスタースライド) (担当者：室崎)	【事前】 前回の発表スライドの見直し 【事後】 グループでの発表準備
第8回	プレゼンテーションに向けたグループワーク 3-(2) スライドのデザイン2 (伝わるデザイン) (担当者：室崎)	【事前】 グループでの発表準備 【事後】 グループでの発表準備
第9回	中間プレゼンテーションとクリティーク (教員による) スライドの構成 (担当者：室崎)	【事前】 グループでの発表準備 【事後】 発表内容のリフレクション
第10回	プレゼンテーションに向けたグループワーク 3-(3) 予行演習・修正・完成 (担当：室崎)	【事前】 グループでの発表準備 【事後】 グループでの発表準備
第11回	プレゼンテーションとクリティーク (ピア&教員による) (担当者：室崎)	【事前】 グループでの発表準備 【事後】 発表内容のリフレクション
第12回	自己表現の方法論① 改めて自己紹介 (各自1分) 自己紹介は評価の対象ではありません、のびのび自由に (担当者：谷口)	【事前】 1分程度の自己紹介を準備しておく 【事後】 発表内容のリフレクション
第13回	自己表現の方法論② 信頼される話し方技術・あがり症を修正 (担当者：谷口)	【事前】 これまで12回の授業内容を総合的に復習 【事後】 授業内容の復習

第 14 回	自己表現の方法論③ 自己 PR (各自 1 分) (担当者：谷口)	【事前】 1 分程度の自己 PR を準備しておく 【事後】 発表内容のリフレクション
第 15 回	自己表現の方法論④ 模擬面接 面接対策とまとめ (担当者：谷口)	【事前】 採用面接に臨むつもりで準備しておく 【事後】 第 12 回から 15 回までのリフレクションを マナバ上に提出

学修の到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの要点について述べるができる。 ・人を動かすプレゼンテーションを行うことができる。 	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①他者に対して自らの考えを表現することができる。 (表現力)	秀	自ら取り組んだ成果を、他者に向けてわかりやすく伝える努力の過程を見て取ることができ、実際にそのための工夫が認められ、その内容が優れており、他者からもそのように評価されている。
	優	自ら取り組んだ成果を、他者に向けてわかりやすく伝える努力の過程を見て取ることができ、実際にそのための工夫が認められ、その内容が優れている。
	良	自ら取り組んだ成果を、他者に向けてわかりやすく伝える努力の過程を見て取ることができ、実際にそのための工夫が認められる。
	可	自ら取り組んだ成果を、他者に向けてわかりやすく伝える努力の過程を見て取ることができる。
	不可	自ら取り組んだ成果を、他者に向けてわかりやすく興味深く伝える努力の過程が見られない。
②他者と1つの課題について協力して取り組むことができる (協調性・協働性)	秀	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができ、グループのために有益な意見を出すことができ、他者から評価されている。
	優	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができ、グループのために有益な意見を出すことができる。
	良	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができる。
	可	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行することができる。
	不可	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができ、グループのために有益な意見を出すことができ、他者から評価されている。
③社会の一員として責任をもって物事に臨むことができる。 (責任感)	秀	自らの行動のすべてに対して責任を負う腹づもりで物事に臨んでおり、他者からもそのように評価されている。
	優	自らの行動のすべてに対して責任を負う腹づもりで物事に臨んでいる。
	良	報告・連絡・相談を能動的に行うことができる。
	可	言われれば、報告・連絡・相談ができる。
	不可	報告・連絡・相談ができない、あるいは責任感が全くない。
④自らの学びに対して謙虚にリフレクト(省察)することができる。 (省察力)	秀	自己の課題が具体的に明示され、なおかつ実効性を伴った次への行動指針がみられる。
	優	自己の課題と次への行動指針がみられる。
	良	自己の課題はみられるが、次への行動指針が具体的かつ明瞭ではない。
	可	自己の課題はみられるが、抽象レベルに留まっている。
	不可	自己の課題と次への行動指針が明確にされていない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	0	60	0	0	0	100
評価項目	① 他者に対する表現	0	0	40	0	0	0	35
	② 他者との協働	0	0	10	0	0	0	10
	③ 責任をもって物事に臨む	0	0	5	0	0	0	5
	④ リフレクトする力	40	0	5	0	0	0	45

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
定期試験	①	最終レポートにて評価する。	
	②		
	③		
	④		レ
成果発表 (口頭・実技)	①	グループとしての3つの課題のプレゼンテーション内容によって評価する。	
	②		レ
	③		レ
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など
<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・能動的な学修への姿勢・態度 ・「教員が何を教えてくれるか」ではなく「自らが何を学ぶか・学びたいか」が極めて重要である
教科書・参考書
教科書：なし 参考書：適宜紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
生涯発達論 (O21130)	講 義	2	30	3	後 期	選 択	-	柳原利佳子	7号館5階 研究室
ライフプランを考えてみよう								単独担当	
科目担当者	柳原利佳子								

授業の概要	人間の発達を全生涯にわたってなされる変化・変容の視点から検討する。人間発達を受精から死に至るまでの一生涯を対象として捉え、さまざまな現象を心理学的側面から概説する。個体の生物学的要因としての発達の变化のイメージを描くだけではなく、社会・文化的要因として家族関係、進路選択など、さまざまなライフイベントについての将来展望を構築し、生涯発達の視点を理解することを目指す。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input checked="" type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	生涯発達とは	【事前】 シラバス内容を熟読する、生涯発達について調べる 【事後】 学びの確認
第2回	第1次性徴	【事前】 性の分化について調べる 【事後】 学びの確認
第3回	スキーマの獲得と循環反応	【事前】 ピアジェの発達理論について調べる 【事後】 学びの確認
第4回	思考の発達	【事前】 思考の発達について調べる 【事後】 学びの確認
第5回	感情の発達	【事前】 感情の発達について調べる 【事後】 学びの確認
第6回	ハヴィガーストの発達課題(小テスト1:第1回~第5回まで)	【事前】 第1回~第5回までを復習し小テスト対策をする、ハヴィガーストの発達課題について調べる 【事後】 学びの確認
第7回	第2次性徴	【事前】 思春期からの身体変化について調べる 【事後】 学びの確認
第8回	性役割観と自己意識	【事前】 性役割期待について調べる 【事後】 学びの確認
第9回	世代を超えた発達の影響	【事前】 世代を超えた発達の影響について調べる 【事後】 学びの確認
第10回	人格の発達(小テスト2:第6回~第9回まで)	【事前】 第6回~第9回までを復習し小テスト対策をする、ユングのパーソナリティ理論について調べる 【事後】 学びの確認
第11回	自我同一性の形成とモラトリアム	【事前】 エリクソンの生涯発達の理論について調べる 【事後】 学びの確認
第12回	自我同一性地位	【事前】 自我同一性地位について調べる 【事後】 学びの確認

第 13 回	配偶者選択	【事前】 配偶者選択の制度と現代的傾向について調べる 【事後】 学びの確認
第 14 回	結婚と子どもをもつという選択	【事前】 結婚の長所短所や子どもをもつためにどのような準備が必要か調べる 【事後】 学びの確認
第 15 回	人口減社会におけるライフスタイルの選択（小テスト 3：第 10 回～第 14 回まで）	【事前】 第 10 回～第 14 回までを復習し小テスト対策をする、人口減社会の問題点について調べる 【事後】 学びの確認、期末試験対策をする

学修の到達目標

人間の発達を乳幼児期にみられる著しい心身の発達だけではなく、死に至るまで常に変化・変容し続ける存在であるという視点でとらえることができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①人間発達についての基本的な必要な知識を身につけている。 (専門力)	秀	人間発達について十分なレベルで知識を身につけている。なおかつ、得た知識を自らの過去の経験に当てはめるだけではなく、将来設計の展望にも活用できる。
	優	人間発達について十分なレベルで知識を身につけている。なおかつ、得た知識を自らの過去の経験に当てはめて活用できる。
	良	人間発達について十分なレベルで知識を身につけている。
	可	人間発達について基本的な知識を身につけている。
	不可	人間発達についての知識を身につけていない。
②学ぶこと・知ること に、楽しさと喜びを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ること、楽しさと喜びを覚えることができない。
③心理検査の結果に基づき、論理的に考えることができる。 (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くともある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
④自らの辿ってきた道筋を振り返り、今後の人生に活かすことができる。 (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		35	50	15	0	0	0	100
評価項目	① 専門力	0	30	0	0	0	0	30
	② 知欲	0	0	15	0	0	0	15
	③ 論理的思考力	0	12	0	0	0	0	12
	④ 省察力	35	8	0	0	0	0	43

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
定期試験	①	レポート試験において、論理的に分析し省察できていたかどうかを評価する。	
	②		
	③		
	④		レ
提出物	①	小テストにおいて知識が習得できていたかどうか、また、授業内あるいは授業外の小レポートに対して、主体的に真摯に取り組んでいたかどうかを評価する。	
	②		
	③		レ
	④		レ
成果発表 (口頭・実技)	①	授業内に行う復習チェックや授業内において発言するなど積極的に授業参加していたかどうかを評価する。	
	②		レ
	③		
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など
人間の生涯発達に関して、興味、関心を持ち、ニュース等の情報に積極的に注目する意識をもつこと。また、毎回復習チェックもしくは小テストを実施するので、授業の中で出てきた専門用語など、授業後にその都度まとめて整理しておくこと。
教科書・参考書
教科書：使用しません。毎回プリントを配布します。 参考書：適宜紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
遺伝子と再生医療 (O21150)	講義	1	15	3	後期	選択	-	坂本秀生	7号館2階 研究室
再生医療のために遺伝子を知ろう								単独担当	
科目担当者	坂本秀生								

授業の概要	現時点では失った永久歯を補う為に義歯を用いているが、遺伝子の仕組みを理解し再生医療へと応用すれば、歯を再生する事も理論的には可能で理想的な治療法と言える。 本講義では遺伝子の基本的な働き、再生医療実現への技術的知識と理論を会得し、歯科医療にどのように活かすことが可能か理解する。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	細胞の基礎	【事前】細胞について 【事後】細胞の構造
第2回	遺伝子からタンパク質	【事前】アミノ酸について 【事後】遺伝子とアミノ酸の関係
第3回	タンパク質の働き	【事前】酵素について 【事後】タンパク質の立体構造
第4回	生体内での情報伝達	【事前】細胞内の構造について 【事後】情報伝達物質と受容体
第5回	DNAの姿	【事前】核酸について 【事後】DNAの構成
第6回	遺伝情報の伝達	【事前】遺伝子発現とは 【事後】転写と翻訳
第7回	遺伝子発現の調節機能	【事前】セントラルドグマについて 【事後】プロモーターとは
第8回	遺伝子と疾患	【事前】遺伝子と医療について 【事後】疾患感受性遺伝子と疾患

学修の到達目標
再生医療の基礎となる分子生物学を理解し、遺伝子の作用を学修する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①遺伝子と再生医療を理解できる (探求力)	秀	遺伝子と再生医療の関連を説明できる
	優	遺伝子と再生医療の関連を理解できる
	良	遺伝子と再生医療を理解できる
	可	遺伝子または再生医療を理解できる
	不可	遺伝子も再生医療も理解出来ない

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		100	0	0	0	0	0	100
評価項目	① 遺伝子と再生医療を理解できる	100	0	0	0	0	0	100

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ
	②	
	③	筆記試験を実施
	④	
	⑤	

履修に必要な知識・技能・態度など
図表は教科書中心に使用するので、板書を書き取るより内容を理解しながら履修すると効果的。
教科書・参考書
教科書：好きになる分子生物学 萩原清文 著 講談社サイエンティフィック 参考書：分子生物学イラストレイテッド 田村隆明 著 羊土社

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科医療と法律・制度 (O22120)	講義	1	15	3	後期	必修	-	柳田学	5号館3階 研究室他
歯科衛生士が知っておくべき 法律・制度								複数担当	
科目担当者	柳田学、吉田幸恵、高橋千鶴								

授業の概要	保健・医療・福祉の事業・制度は法律・法令に基づいて実現される。歯科衛生士や他の医療従事者の業務や役割も法律によって規制され、また資格を持つ者のみが特に従事できる業務も法律によって定められている。それら業務や役割は時代や社会の要請によって変化してきた。歯科医療をはじめとする保健・医療制度の歴史と現状を理解し、歯科医療の専門家として社会資源を活用できる幅広い知識、能力を身につける。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	医療と社会保障制度の沿革と現状 (担当者：柳田)	【事前】 日頃から新聞、website等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第2回	歯科衛生士法 (担当者：吉田)	【事前】 日頃から新聞、website等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第3回	医療関係者に関する法律など (担当者：柳田)	【事前】 日頃から新聞、website等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第4回	医療の仕組みと動向 (担当者：柳田)	【事前】 日頃から新聞、website等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第5回	保健・医療・福祉の連携 (担当者：高橋)	【事前】 日頃から新聞、website等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第6回	介護・介護予防と口腔保健 (担当者：高橋)	【事前】 日頃から新聞、website等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第7回	社会福祉の仕組みと動向 (担当者：柳田)	【事前】 日頃から新聞、website等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第8回	まとめ (担当者：柳田)	【事前】 日頃から新聞、website等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習

学修の到達目標
歯科衛生士法やその他の関連法規や制度について学び、法的根拠に裏付けられた歯科衛生士業務の重要性を認識する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①医療・福祉に関する情報を収集・整理・分析し活用することができる (情報力)	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析・活用できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	0	0	0	0	30	100
評価項目	① 情報力	70	0	0	0	0	30	100

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	筆記試験
その他	① レ	受講態度・積極的な質問、グループディスカッションを行うことがある。

履修に必要な知識・技能・態度など
学生からの意見を求めることもあるので、積極的な授業参加を希望する。新聞、ウェブサイトをはじめとする報道や雑誌・書籍を通して社会・経済と医療・歯科医療や保健・福祉に関わる情報に関心を持つことが望まれる
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科衛生士と法律・制度 第3版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 保健生態学 第3版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：なし

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
災害援助と救急医療 (O22150)	講 義	1	15	3	前 期	必 修	-	高橋由希子	5号館3階 研究室他
大規模災害時の保健医療対策								複数担当	
科目担当者	高橋由希子、宮田英和 [*] 、金千秋、室崎友輔								

授業の概要	災害時の健康被害の概要と支援の必要性を理解する。命の大切さを知り、地域貢献をも念頭に置いた高い倫理観を養う。さらに、災害だけでなく一般の歯科臨床における救急時の対応などにも広く応用できる知識を身につける。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学习支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	災害時の健康被害の概要 (担当者：高橋)	【事前】 シラバスの確認 【事後】 講義内容の復習
第2回	災害サイクルと医療支援 (担当者：高橋)	【事前】 配布資料の確認 【事後】 講義内容の復習
第3回	災害とメディア① (担当者：宮田)	【事前】 災害時のメディアの役割を予習 【事後】 講義内容の復習
第4回	災害とメディア② (担当者：宮田)	【事前】 災害時のメディアの役割を予習 【事後】 講義内容の復習
第5回	被災外国人と多文化 (担当者：金)	【事前】 被災外国人について予習 【事後】 講義内容の復習
第6回	災害時における女性の視点からの支援活動 (担当者：金)	【事前】 災害時の支援活動について予習 【事後】 講義内容の復習
第7回	防災啓発手法について (担当者：室崎)	【事前】 防災について予習 【事後】 講義内容の復習
第8回	災害時における歯科医療人の役割 (担当者：高橋)	【事前】 配布資料の確認 【事後】 講義内容の復習

学修の到達目標
1. 災害サイクルを説明できる。 2. 災害時の健康被害の概要を説明できる。 3. 災害時の医療支援を説明できる。 4. 歯科衛生士として被災者の心情を考えた支援のあり方を時系列で説明できる。 5. 歯科臨床において救急処置を必要とする場面と予防法について説明できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①災害時の歯科保健および歯科衛生の基礎的な知識を身につけている。 (専門力)	秀	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を確実に身につけている。
	優	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を十分なレベルで身につけている。
	良	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を一定のレベルで身につけている。
	可	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を身につけていない。

②失敗を恐れず、想いや考えを具体的行動にすることができる (実行力)	秀	すでに持っている専門知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力などを高いレベルでバランスよく駆使して、短時間で正確な課題の遂行ができる。またそれゆえその実行を踏まえた次の新たな創造的作業に移っていきやすい。
	優	すでに持っている専門知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力などを高いレベルでバランスよく駆使して、短時間で正確な課題の遂行ができる。
	良	すでに持っている専門知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力などのいくつかを機能させつつ、自力で適切な課題の遂行ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、与えられた課題を一定レベルにおいて実行することができる。
	不可	与えられた場面において何をしたらいいのかわからない。
③社会の一員としての責任を持って物事に臨むことができる (責任感)	秀	社会の一員として自由意志のもと決断しその場に適した態度を取る事ができる。使命感を持ち、見返りを求めることはない。メリットは結果的に副産物として生ずるものであるとわかっている。
	優	社会の一員として自由意志のもと決断しその場に適した態度を取る事ができる。
	良	その場から問われていることに応えることができ、その場に適した態度を取る事ができる。
	可	その場から何かを問われていることはわかっている、何かをしたいという意思はある。
	不可	何かを獲得しメリットを享受したいと求めるが、自分がその場に何ができないことはないだろうか、という発想はない。
④誰かの役に立つことに喜びを感じ、具体的に行動することができる (貢献力)	秀	かなり自発的に周囲に貢献できる。それにより周囲のモチベーションを高めることもできる。また自分の貢献力を社会に還元することもできる。
	優	かなり自発的に周囲に貢献できる。それにより周囲のモチベーションを高めることもできる。
	良	ある程度自発的に周囲に貢献できる。
	可	他者から支持されれば、周囲に対して何らかの貢献はできる。
	不可	貢献への積極性がなく、周囲のモチベーションを下げってしまう。
⑤物事を多角的・批判的に捉え、考えることができる (批判的思考力)	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	15	0	0	0	35	100
評価項目	① 専門力	20	10	0	0	0	10	40
	② 実行力	5	0	0	0	0	5	10
	③ 責任感	5	0	0	0	0	5	10
	④ 貢献力	5	0	0	0	0	5	10
	⑤ 批判的思考力	15	5	0	0	0	10	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ
	②	レ
	③	レ
	④	レ
	⑤	レ
提出物	①	レ
	②	レ
	③	
	④	
	⑤	レ
その他	①	レ
	②	レ
	③	レ
	④	レ
	⑤	レ

履修に必要な知識・技能・態度など

本科目は災害時の歯科衛生士の働きとリンクしており、本科目が基礎編、災害時の歯科衛生士の働きが実技・応用編になる。予習として事前に教科書の指定されたページを読んで講義に臨む。

教科書・参考書

教科書：特になし

参考書：口腔外科学・歯科麻酔学 池邊哲郎他 編集 クインテッセンス出版

『災害時の歯科保健医療対策』 日本災害時公衆衛生歯科研究会 編集 一世出版

『災害時の公衆衛生 - 私達にできること』 國井修 編集 南山堂

『歯科における災害対策 - 防災と支援』 中久木康一 編集 砂書房

『シミュレーションで学ぶ避難所の立ち上げから管理運営HAPPY エマルゴトレイン手法を用いて』

山崎達枝 監修 荘道社

『災害歯科医学』 槻木恵一 編 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
医療情報システム学 (O22160)	講 義	1	15	3	後 期	選 択	-	玉川裕夫	7号館2階 非常勤講師 控室
病院と地域を支える情報システムを知る								単独担当	
科目担当者	玉川裕夫								

授業の概要	医療情報システム学は、現代医療を支える実学であると同時に、将来の医療を生み出す大きなゆりかごでもある。本講義では、医療情報の持つ特性の理解からはじめ、病院情報システムの構成要素を知り、地域を舞台とした医療連携や遠隔医療で必要となる標準化の意義にいたるまで、情報処理技術が医療現場でどのように応用されているかについて、身近に感じられるテーマとともにとりあげる。将来、電子化された病院や診療所で活躍する立場を視野にいれ、自ら考えることを重視する。
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業 (レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () グループワーク () プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	医療情報の特性と医療情報システムの基礎	【事前】 シラバスに目を通しておく 【事後】 システムの実例をあげる
第2回	病院情報システム I (電子カルテとオーダーエントリーシステム)	【事前】 第1回目配布資料を見直しておく 【事後】 オーダエントリーシステムの基本構成を復習する
第3回	病院情報システム II (医事会計システム、医用画像システム、部門システム)	【事前】 家族の医療費負担について聞いてみる 【事後】 社会保障の仕組みについて復習する
第4回	医療情報の標準化	【事前】 医療以外での標準化の例を考えてみる 【事後】 医療の標準化の具体例を知る
第5回	広域の医療情報システム	【事前】 病院の役割分担について考えてみる 【事後】 地域医療ネットワークの例を調べる
第6回	医療情報の一次利用と二次利用	【事前】 職業として守秘義務が必要な理由を考える 【事後】 蓄積された医療情報の利活用を考える
第7回	実習 1 (医療情報を扱うものが身につけておくべきマナーとルール)	【事前】 医療情報システムの利用権限について考える 【事後】 正しいマナーとルールを再確認する
第8回	実習 2 (医療情報を扱うもののマナーとルールの評価、講義のまとめ)	【事前】 自身の行動と正しい行動とを比較する 【事後】 講義内容を整理してみる

学修の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> 医療情報の特性について説明できる。 病院情報システムを構成する要素について説明できる。 医療における標準化の意味を説明できる。 電子化された病院や診療所の職員として、利用者マナーやルールを説明できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①学ぶこと・知ること に、愉しさと喜びを 覚えることができる (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、愉しさと喜びを覚えることができない。
②物事のあり方について深く考え、その本質を見極めようとする ことができる (探究力)	秀	自発的に物事に献身し専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。そしてそこでの一定の結果に飽き足らず、さらなる探究心が生じ、それを実行に移していくことができる。
	優	自発的に物事に献身し専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。
	良	ある程度自発的に物事を突き詰めていくことができる。
	可	他者から促されれば、物事をある程度突き詰めていくことができる。
	不可	物事を自ら突き詰めていくことができない。
③思考や判断に必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる (情報力)	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
④根拠に基づき、論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くともある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
⑤想いや考えを表現し、他者に伝えることができる (表現力)	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のすべてにおいて十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	30	10	0	0	0	100
評価項目	① 知欲	30	0	0	0	0	0	30
	② 探究力	0	15	0	0	0	0	15
	③ 情報力	15	0	0	0	0	0	15
	④ 論理的思考力	15	0	10	0	0	0	25
	⑤ 表現力	0	15	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	定期試験期間中に実施する筆記試験
	②	
	③	
	④	
	⑤	
提出物	①	毎回の授業終了時に提出するレポート
	②	
	③	
	④	
	⑤	
成果発表 (口頭・実技)	①	毎回の授業開始時、授業中、終了時に提出するレポート
	②	
	③	
	④	
	⑤	

履修に必要な知識・技能・態度など
PC（または携帯）を使ってインターネットを利用するスキルを持っていること。
教科書・参考書
教科書：講義資料を適宜配布 参考書：『第4版医療情報サブノート』 日本医療情報学会医療情報技師育成部会 編 篠原出版社 ISBN:978-4-88412-398-7

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科医療と経済 (O22170)	講 義	1	15	3	後 期	選 択	-	柳田学	5号館3階 研究室
社会における歯科医療について 考えよう								単 独 担 当	
科目担当者	柳田学								

授業の概要	歯科医療を経済学や経営学の視点から学び、日本の医療政策における歯科医療の位置づけや口腔の健康と医療費の関係を学習する。	
アクティブ・ ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	医療経済学	【事前】日頃から新聞、website等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】講義資料の復習
第2回	社会保障の変遷	【事前】日頃から新聞、website等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】講義資料の復習
第3回	日本の歯科医療政策	【事前】日頃から新聞、website等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】講義資料の復習
第4回	歯科医療の需要と供給	【事前】日頃から新聞、website等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】講義資料の復習
第5回	医療マネジメント	【事前】日頃から新聞、website等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】講義資料の復習
第6回	歯科医療と歯科衛生士	【事前】日頃から新聞、website等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】講義資料の復習
第7回	医療制度の問題点	【事前】日頃から新聞、website等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】講義資料の復習
第8回	まとめ	【事前】日頃から新聞、website等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】講義資料の復習

学修の到達目標
1. 日本の医療政策における歯科医療の位置づけを知り、歯科医療や歯科保健の医療費との関係を理解する。 2. 歯科医療マネジメントと歯科衛生士の関わりを理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科医療と経済に関する情報を収集・整理・分析し活用することができる (情報力)	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析・活用できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	0	0	0	0	30	100
評価項目	① 情報力	70	0	0	0	0	30	100

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	筆記試験
その他	① レ	受講態度、積極的な講義への関与

履修に必要な知識・技能・態度など
学生からの意見を求めることもあるので、積極的な授業参加を希望する。新聞、ウェブサイトをはじめとする報道や雑誌・書籍を通して社会・経済と医療・歯科医療や保健・福祉に関わる情報に関心を持つことが望まれる。
教科書・参考書
教科書：なし 参考書：なし

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科保健指導演習Ⅳ (O23370)	演 習	1	30	3	前 期	必 修	-	福田昌代	5号館3階 研究室他
集団歯科保健指導と個別歯科保健指導 実践力の学修								複数担当	
科目担当者	福田昌代、中村美紀、浅枝麻夢可								

授業の概要	<p>歯科保健指導演習Ⅳでは、「歯科保健指導演習Ⅲ」で作成した指導案を元に、実際に使用する媒体を作成するために必要な知識と技術と態度を修得することを目的とする。また、その媒体を使用する集団指導技法について学ぶ。</p> <p>歯科保健指導演習Ⅲで担当した2年生の口腔内への介入を行い、個別歯科保健指導実践力を向上させる。</p>	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション 対象患者の介入準備 集団歯科保健指導各論：媒体作製について (担当者：福田)	【事前】対象患者への歯科衛生介入に向けての準備シラバスを読んでおく 【事後】対象患者への歯科衛生介入に向けて最終確認
第2回	媒体作成(学童3期) (担当者：福田・中村・浅枝)	【事前】媒体作成 【事後】まとめに参考書を活用
第3回	媒体作成(青少年期) (担当者：福田・中村・浅枝)	【事前】媒体作成 【事後】まとめに参考書を活用
第4回	2・3年合同実習(歯科衛生過程に基づく介入)① 情報の伝達と介入 (担当者：福田・中村・浅枝)	【事前】歯科衛生介入に向けての準備実技的内容の事前練習 【事後】介入内容に対する反省・考察次回に向けての確認
第5回	2・3年合同実習(歯科衛生過程に基づく介入)② 1回目の介入後の経過の確認 業務記録作成 (担当者：福田・中村・浅枝)	【事前】歯科衛生介入に向けての準備実技内容の事前練習2年生への学習指導内容の整理 【事後】業務記録の作成
第6回	媒体完成 講話練習 (担当者：福田・中村・浅枝)	【事前】媒体作成・講和練習 【事後】チェック内容を見直す
第7回	教員講和チェック・修正 (担当者：福田・中村・浅枝)	【事前】講話練習 【事後】チェック内容を見直す
第8回	発表 振り返り・まとめ (担当者：福田・中村・浅枝)	【事前】講和練習 【事後】まとめ

学修の到達目標
1. 対象に合わせた媒体の作成ができる。 2. 作成した媒体を用いて集団歯科保健指導ができる。 3. 集団歯科保健指導を行うに当たってのチームワークの必要性和重要性を学ぶ。 4. 対象患者に応じた、個別歯科保健指導実践のための介入ができる。 5. 個別歯科保健指導実践内容の業務記録をSOPIEの形式で記入することができる。

ループリック		
評価項目	評点	評価基準
①各ライフステージの対象者に応じた集団歯科保健指導ができる。 (専門力)	秀	各ライフステージの対象者や集団指導について十分な知識・技術が身につけており、それらを用いて実践につなげ、さらに理解を深めることができる。
	優	各ライフステージの対象者や集団指導について十分な知識・技術が身につけており、それらを用いることができる。
	良	各ライフステージの対象者や集団指導について、十分な知識・技術が身につけている。
	可	各ライフステージの対象者や集団指導について、必要最低限の知識・技術が身につけている。
	不可	各ライフステージの対象者や集団指導について、必要最低限の知識・技術が身につけていない。
②自発的に演習に取り組み、さらに探究心をもって突き詰めていくことができる。 (探究力)	秀	自発的に演習に取り組み、突き詰めていくことができる。そしてそこでの一定の結果に飽き足らず、さらなる探究心が生じ、それを実行に移していくことができる。
	優	自発的に演習に取り組み、突き詰めていくことができる。
	良	他者（グループメンバー）から促されれば、演習に取り組み、ある程度突き詰めていくことができる。
	可	他者（教員）から促されれば、演習に取り組み、ある程度突き詰めていくことができる。
	不可	演習に取り組み、突き詰めていくことができない。
③対象者に応じた適切な表現ができる。 (表現力)	秀	対象者に応じた適切な言語的表現（言葉）や非言語的表現（表情、ジェスチャー、声の大きさ・トーン、話すスピード）など、集団指導に必要な表現力を十分に持っており、実践することができる。
	優	対象者に応じた適切な言語的表現（言葉）や非言語的表現（表情、ジェスチャー、声の大きさ・トーン、話すスピード）など、集団指導に必要な表現力をある程度持っており、実践することができる。
	良	適切な言語的表現（言葉）や非言語的表現（表情、ジェスチャー、声の大きさ・トーン、話すスピード）など、集団指導に必要な表現力をある程度持っている。
	可	適切な言語的表現（言葉）や非言語的表現（表情、ジェスチャー、声の大きさ・トーン、話すスピード）など、集団指導に最低限必要な表現力を持っている。
	不可	適切な言語的表現（言葉）や非言語的表現（表情、ジェスチャー、声の大きさ・トーン、話すスピード）を用いた指導ができない。
④周囲と協調・協働して作業ができる。 (協調性・協働力)	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がり、より良い結果につなげることができる。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調・協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げってしまう。
⑤医療職に就く者としての自覚があり、心身の自己管理ができる。 (自己管理能力)	秀	医療職に就く者としての自覚をもち、自発的に心身の自己管理ができ、他学生の手本となる。
	優	医療職に就く者としての自覚をもち、ある程度自発的に心身の自己管理ができる。
	良	医療職に就く者としての自覚が芽生え、ある程度自発的に、心身の自己管理ができる。
	可	医療職に就く者としての自覚が芽生え、他者からの助言や指導のもと、心身の自己管理ができる。
	不可	医療職に就く者としての自覚が見られず、心身の自己管理ができない。
⑥対象患者に対して歯科予防処置と歯科保健指導を実施する技能を身につけている。 (専門力)	秀	対象患者に対して介入計画を立案し、十分な知識と技能をもって、応用して実践につなげることができる。
	優	対象患者に対して介入計画を立案し、十分な知識と技能をもって、応用することができる。
	良	対象患者に対して介入計画を立案するための十分な知識と技能を身につけている。
	可	対象患者に対して介入計画を立案するための知識と技能を身につけている。
	不可	対象患者に対して介入計画を立案するための知識と技能を身につけていない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	0	25	15	0	10	100
評価項目	① 対象に応じた歯科保健指導	15	0	5	5	0	25
	② 探求心をもって取り組む力	10	0	0	5	0	15
	③ 対象者に応じた適切な表現力	15	0	5	5	0	25
	④ 周囲との協調性・協働力	10	0	5	0	0	20
	⑤ 心身の自己管理	0	0	0	0	0	5
	⑥ 歯科衛生介入	0	0	10	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	定期試験期間中に実施するグループ毎の発表 (媒体を用いた集団歯科保健指導のプレゼンテーション)
	② レ	
	③ レ	
	④ レ	
	⑤	
	⑥	
成果発表 (口頭・実技)	① レ	最終回で実施するグループ毎の発表 (定期試験のリハーサル) 2年生に対する歯科衛生介入
	②	
	③ レ	
	④ レ	
	⑤	
	⑥ レ	
作品	① レ	指導のために作成した媒体
	② レ	
	③ レ	
	④	
	⑤	
	⑥	
その他	①	出席状況、忘れ物、態度など グループでの協力度
	②	
	③	
	④ レ	
	⑤ レ	
	⑥	

履修に必要な知識・技能・態度など

1. 授業時間内では媒体作成の時間確保が難しいので、授業時間外を積極的に媒体作成の時間にあてること。
2. 1年次に作成したチャートブックを持参し、積極的に活用すること。
3. パワーポイントでのプレゼンテーション方法について復習しておくこと。
4. グループでの作業となるので欠席しないよう体調管理には十分留意すること。
5. 対象者に適切な歯科衛生介入を実践するための実技的な復習を行っておくこと。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 保健生態学』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
参考書：『明日からできる地域での予防歯科』 NPO 法人ウェルビーイング 編 医歯薬出版
『新版 家族のための歯と口の健康百科』 伊藤公一他 編 医歯薬出版
『世界最強の歯科保健指導 —診療室から食育まで— 上巻』 岡崎好秀 著 クインテッセンス出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科衛生過程演習 (O23380)	演 習	1	30	3	後 期	必 修	-	吉田幸恵	5号館3階 研究室
歯科衛生業務の展開にむけて								複数担当	
科目担当者	吉田幸恵、福田昌代								

授業の概要	<p>歯科衛生過程は歯科衛生業務を展開するツールであり1年次からその習得は開始されているが、学修の範囲と深度により、その内容はより患者に相応しい的確なものになっていく。本科目は3年次後期に開講されるため、1、2年次の基礎・専門科目から3年前期の臨床実習科目まで学修した時点での歯科衛生過程の学びになる。本演習では歯科衛生過程を現場で実践することを想定し、すでに学修した知識の理解度や技術の正確性について見極めることを目的とする。</p> <p>また、歯科衛生士は医療現場や地域社会において多職種との連携が求められていることから、歯科に関連する知識にとどまらず、医療、保健、福祉等に関する継続的な学修の必要性にも言及する。この科目の受講により、関連資格取得や生涯学修のきっかけとなることを期待する。</p>
アクティブ・ラーニングの要素	<p>(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ICT (manaba) 活用の自主学习支援</p> <p>() ディスカッション、ディベート () グループワーク () プレゼンテーション</p> <p>() 実習、フィールドワーク (レ) 課題解決型学習(外部協定 有・無)</p> <p>() 反転授業 () その他 ()</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション 自己学修法の獲得について (担当者：吉田、福田)	【事前】 自分にあった効果的な学修方法を検討しておく 【事後】 自己評価・振り替りシートを完成させる
第2回	歯科衛生アセスメントのための知識の確認 (基礎科目群：人体の構造と機能) (担当者：同上)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第3回	歯科衛生アセスメントのための知識の確認 (基礎科目群：歯・口腔の構造と機能) (担当者：(同上))	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第4回	歯科衛生アセスメントのための知識の確認 (基礎科目群：疾病の成り立ち及び回復過程の促進) (担当者：同上)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第5回	歯科衛生アセスメントのための知識の確認(社会歯科科目群： 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み) (担当者：同上)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第6回	歯科衛生アセスメントのための知識の確認 (臨床歯科医学：歯科保存学・歯科補綴学・口腔外科学) (担当者：同上)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第7回	歯科衛生アセスメントのための知識の確認(臨床歯科医学： 歯科矯正学・小児歯科学・障害者歯科学・高齢者歯科学) (担当者：同上)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第8回	歯科衛生アセスメントのための知識の確認 (歯科予防処置・歯科保健指導) (担当者：同上)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第9回	歯科衛生アセスメントのための知識の確認 (歯科診療補助) (担当者：同上)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第10回	歯科衛生介入のための技術の確認 (SRP 技術、う蝕予防技術：填塞・塗布等、歯科診療補助の 手技) (担当者：同上)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第11回	歯科衛生介入のための技術の確認 (情報処理力、カウンセリング力、歯科衛生計画立案力、業務 記録) (担当者：同上)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習

第12回	実践のための応用力の習得（想定問題の解決）（担当者：同上）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】授業内容の復習
第13回	実践のための応用力の修得（想定問題の解決）（担当者：同上）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】授業内容の復習
第14回	歯科衛生士の生涯学修の必要性（担当者：同上）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】授業内容の復習
第15回	歯科衛生業務の展開に向けて（担当者：同上）	【事前】これまでの学びを整理しておく 自分の将来像を具体化しておく 【事後】歯科衛生業務の展開のために必要な知識をすべて修得できているか確認する

学修の到達目標

確実な知識と技術を身につけ、歯科衛生業務を展開できるための十分な実力と問題解決能力を養う。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士になるために必要な専門的知識を身につけている。 (専門力)	秀	歯科衛生士の専門領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	歯科衛生士の専門領域についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	歯科衛生士の専門領域についての知識を一定のレベルで身につけている。
	可	歯科衛生士の専門領域についての知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	歯科衛生士の専門領域についての知識を身につけていない。
② 歯科衛生士業務の根拠について論理的に考えることができる。 (論理的思考力)	秀	定期的に行う専門領域に関するテストで90%以上の成績をおさめている。
	優	定期的に行う専門領域に関するテストで80%以上90%未満の成績をおさめている。
	良	定期的に行う専門領域に関するテストで70%以上80%未満の成績をおさめている。
	可	定期的に行う専門領域に関するテストで60%以上70%未満の成績をおさめている。
	不可	定期的に行う専門領域に関するテストでの成績が不振である。(60%未満)

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	0	0	0	0	30	100
評価項目	① 知識の修得	70	0	0	0	0	0	70
	② 論理的思考を問う問題の成績	0	0	0	0	0	30	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	15回の授業後に、授業の成果確認のため筆記試験を実施する。試験は国家試験と同様の形式で実施する。
	②	
その他	①	論理的思考力を確認するため、状況設定問題を中心とした小テストを定期的に行い、その成績で評価する。
	②	

履修に必要な知識・技能・態度など

歯科衛生士になるための総まとめの科目のため、積極的に学修する。授業に必要と思われる教科書はすべて持参すること。また体調管理に十分注意し、欠席・遅刻・早退をしないように気をつけること。

教科書・参考書

教科書：各科目の教科書とする

参考書：『2021年度版徹底分析歯科衛生士国家試験問題集』 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進捗等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
地域口腔保健支援実習 I (O23400)	実 習	3	135	3	前 期	必 修	-	高橋由希子	5号館3階 研究室他
歯周疾患患者の口腔管理を学ぶ								複数担当	
科目担当者	高橋由希子、御代出三津子								

授業の概要	<p>学内の歯科予防処置実習を発展させ、実践能力を養う。歯科診療における歯科衛生士業務を修得するために臨床現場において、歯周治療の流れや歯周疾患の患者への対応法などを習得する。</p> <p>なお当該科目は、医療現場等において歯科衛生士の実務（臨床）経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。</p>	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
	<p>実習前：学内にて事前指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習概要の説明 ・各実習の目的と特徴の理解 ・連絡方法の確認 ・実習目標の設定 ・インシデントレポートについて <p>実習施設：以下の施設にて合計14日間の臨地実習を行う。</p> <p>①歯科診療所 13日間 ②神戸常盤大学短期大学部歯科診療所 1日間</p> <p>実習後：学内にて振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習内容について振り返り、内容を発表する。 <p>(担当者：科目担当者全員)</p>	<p>【事前】実習目標を設定する。</p> <p>【事後】実習目標の達成度について自己評価を行う。</p> <p>実習内容をそれぞれの学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。ポートフォリオとしてまとめる。</p>

学修の到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の口腔保健を担う、かかりつけ歯科に勤務する歯科衛生士の役割を学ぶ。 2. 第1次～第3次予防における歯科衛生士の役割について学ぶ。 3. 保護者実習を通じて、歯科衛生士として基本的な対象者への対応ならびに技術の習得状況を確認する。 4. 保護者を担当し、対象者に応じた歯科予防処置が実施できる。 5. 保護者を担当し、対象者に歯科衛生管理の必要性を説明できる。 6. 歯科衛生過程の考え方を理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①歯科衛生士の実務遂行に必要な技能を身につけている。 (専門力)	秀	歯科衛生士についての技能を両方とも十分なレベルで身につけている。 なおかつ幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	歯科衛生士についての技能を両方とも十分なレベルで身につけており、プロフェッショナルリズムも伴っている。
	良	歯科衛生士についての技能を身につけており、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	歯科衛生士についての技能を最低限身につけている。
	不可	歯科衛生士についての技能を身につけていない。

② 歯科衛生士になるための学修や知識習得に楽しさを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出し、達成感を得ることができる。また、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修に導くことができている。
	優	自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出すことができる。
	可	他者からの促しによって学修し、他者からの指摘により楽しさを見出すことができる。
	不可	学修や知識習得に楽しさを見出すことができない。
③ 患者の口腔内を観察し、効果的なケア方法について考察することができる。 (論理的思考力)	秀	講義演習で学んだことをふまえて、患者の口腔内を観察し分析した上で、効果的なケア方法について十分考察し、実行することができる。
	優	講義演習で学んだことをふまえて、患者の口腔内を観察し、効果的なケア方法について考察し、実行することができる。
	良	講義演習で学んだことをふまえて、患者の口腔内を観察し、効果的なケア方法について考察することができる。
	可	講義演習で学んだことをふまえて、患者の口腔内を観察し、ケア方法についてある程度考察することができる。
	不可	患者の口腔内観察やケア法について考察することができない。
④ 実習内容を振り返り、知識・技能の修得に導くための考察を行うことができる。 (省察力)	秀	実習後のポートフォリオにおいて、自身の知識・技能の修得のための考察を確実に行うことができ、次の実習につなげることができる。
	優	実習後のポートフォリオにおいて、自身の知識・技能の修得のための考察を十分なレベルで行うことができ、次の実習につなげることができる。
	良	実習後のポートフォリオにおいて、自身の知識・技能の修得のための考察を一定のレベルで行うことができる。
	可	実習後のポートフォリオにおいて、自身の知識・技能の修得のための考察を最低限のレベルで行うことができる。
	不可	実習後のポートフォリオにおいて、自身の知識・技能の修得のための考察を行うことができない。またはポートフォリオを記載しない。
⑤ 実習に対し知識・技能を学び、考え、行動する。 (継続力)	秀	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって、楽しみながら物事に打ち込み続けることができる。
	優	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって物事に打ち込み続けることができる。
	良	ある程度自発的に、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	可	他者からの助言や何らかの外的条件づけのもと、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	不可	忍耐力・継続的実行力がない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	15	0	0	45	40	100
評価項目	① 技能の修得	0	0	0	0	10	25
	② 知識習得	0	5	0	0	10	25
	③ 論理的思考力	0	5	0	0	10	20
	④ 省察力	0	5	0	0	10	20
	⑤ 継続力	0	0	0	0	5	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
提出物	①	実習に対するモチベーションについて提出物をルーブリックの評価基準に基づいて評価する。	
	②		レ
	③		レ
	④		レ
	⑤		
ポートフォリオ	①	各自実習の取り組みを自ら振り返り評価する実習日誌を、それぞれの学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。ポートフォリオ評価は蓄積された成果を公平な観点から評価する。ワークシートや実習日誌が欠落している場合は減点の対象となる。	
	②		レ
	③		レ
	④		レ
	⑤		
その他	①	出席状況および学内評価	
	②		レ
	③		レ
	④		レ
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など

歯科予防処置に関連する内容については十分に理解して実習に臨む必要があるため、臨床歯科Ⅰ、歯科予防処置論、歯科予防処置演習について関連する教科書、資料を必ず実習までに熟読する。また、PMTCの基本的な手技については復習し、実践できるように自宅や実習先で練習すること。さらに歯科衛生過程についても必ず理解を深めておくこと。

教科書・参考書

教科書：特記事項なし

参考書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『新歯科衛生士教本 歯科予防処置』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『新歯科衛生士マニュアル 歯周病学』 上田雅俊 他編 クインテッセンス出版
『歯科衛生士教育サブテキスト 臨床実習 HAND BOOK』 高阪利美 他著 クインテッセンス出版
『新常用歯科辞典』 医歯薬出版
『歯科衛生ケアプロセス実践ガイド』 佐藤陽子 他編著 医歯薬出版

※その他実習に関係のある図書は自己選択する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
地域口腔保健支援実習Ⅱ (O23410)	実 習	2	90	3	通 年	必 修	—	福田昌代	5号館3階 研究室他
地域における集団に対する 歯科保健指導								複数担当	
科目担当者	福田昌代、吉田幸恵、上原弘美、高橋由希子、澤田美佐緒、御代出三津子、破魔幸恵、中村美紀、浅枝麻夢可、小林容子、氏橋貴子、川野亜希								

授業の概要	<p>地域における各ライフステージの対象者に応じた集団歯科保健指導を推進することにより、地域活動における歯科衛生士の役割を理解し、集団指導の実践力と応用力を修得する。また、他(多)職種連携教育(IPE)の一環として、他学科の学生を対象に歯科保健指導を行い、地域活動におけるマネジメント力を培う。</p> <p>なお当該科目は、医療現場等において歯科衛生士の実務(臨床)経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。</p>	
アクティブ・ラーニングの要素	<input checked="" type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
	実 習 前：臨地実習事前指導(学内) 実 習 後：臨地実習振り返り指導(学内) 実習施設：神戸常盤大学内、神戸市内の小学校、幼稚園、高等学校、「歯と口の健康週間」に行われる地域の歯科保健活動の会場等	【事前】 集団指導の講話練習 【事後】 講話内容への反省・考察と次回改善方法の検討

学修の到達目標
1. 幼児期・学童3期・青少年期を対象に集団歯科保健指導を行うことができる。 2. 「歯と口の健康週間」「いい歯の健康活動」を実施している地域行事に参加し、地域歯科保健における歯科衛生士の役割を理解する。 3. 歯科衛生士と他(多)職種の専門性の違いを理解する。 4. 歯科衛生業務を行う上で、他(多)職種に対しマネジメント力が必要であることを理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①集団指導の場で歯科生業務を行うために必要な一般常識や礼儀が身に付いている。 (常識力)	秀	一般常識や礼儀が身に付いており、あらゆる場面で現場責任者と積極的に連絡・報告・相談して対応し、リーダー性を発揮できる。
	優	一般常識や礼儀が身に付いており、多くの場面で現場責任者と積極的に相談し指示を仰ぐことができる。
	良	一般常識や礼儀が身に付いており、現場責任者の指示に対応できる。
	可	必要最低限の一般常識や礼儀が身に付いているが、現場責任者の指示に対応できない。
	不可	必要最低限の一般常識や礼儀が身に付いていない。
②各ライフステージの場に応じた集団歯科保健指導ができる。 (専門力)	秀	各ライフステージの場に応じた集団歯科保健指導について、十分な知識・技術が身に付き実践することができ、現場の状況に柔軟に対応でき、指導者らしい態度と行動ができる。
	優	各ライフステージの場に応じた集団歯科保健指導について、十分な知識・技術が身に付き実践することができ、現場の状況に柔軟に対応できる。
	良	各ライフステージの場に応じた集団歯科保健指導について、十分な知識・技術が身に付いており、実践できる。
	可	各ライフステージの場に応じた集団歯科保健指導について、必要最低限の知識・技術が身に付いているが実践できない。
	不可	各ライフステージの場に応じた集団歯科保健指導について、必要最低限の知識・技術が身に付いていない。
③心身の自己管理ができる。 (自己管理能力)	秀	医療職に就く者としての自覚をもち、自発的に心身の自己管理ができ、他学生の手本となる。
	優	医療職に就く者としての自覚をもち、ある程度自発的に心身の自己管理ができる。
	良	医療職に就く者としての自覚が芽生え、ある程度自発的に、心身の自己管理ができる。
	可	医療職に就く者としての自覚が芽生え、他者からの助言や指導のもと、心身の自己管理ができる。
	不可	医療職に就く者としての自覚が見られず、心身の自己管理ができない。
④自分の思考や行動に対して、客観的な評価ができる。 (省察力)	秀	常に自分の思考や行動を客観的に捉え、適切な評価を行い、さらなる望ましい思考や行動へとつなげることができ、他学生の手本となる。
	優	自発的に、自分の思考や行動を客観的に捉え、適切な評価を行い、さらなる望ましい思考や行動へとつなげることができる。
	良	ある程度自発的に、自分の思考や行動を客観的に捉え、適切な評価を行うことができる。
	可	他者からの助言のもと、自分の思考や行動を客観的に捉え、適切な評価を行うことができる。
	不可	自分の思考や行動を客観的に捉え、適切な評価を行うことができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	20	0	0	30	50	100
評価項目	① 一般常識や礼儀	0	0	0	0	0	25	25
	② 実習に必要な知識・技術	0	20	0	0	0	0	20
	③ 心身の自己管理	0	0	0	0	0	25	25
	④ 自分に対する客観的評価	0	0	0	0	30	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
提出物	①	実習前レポート（事前指導終了後） 実習後レポート（振り返り終了後）	
	②		レ
	③		
	④		
ポートフォリオ	①	小学校・幼稚園・高等学校での実習記録（見学評価・自己評価）	
	②		
	③		
	④		レ
その他	①	出席状況、忘れ物、態度など	
	②		レ
	③		レ
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など

1. 1・2年で学んだことを活かす臨地実習科目である。実習に必要な知識に関して復習を十分に行ない実習に望むこと。
2. 歯科保健指導演習ⅢとⅣで学び、準備したことを実践する場である。グループで時間外に練習を重ねること。
3. オーラルリハビリテーション演習および口腔保健衛生学実習Ⅱで学んだ内容を実践に向けて復習すること。
4. 実習はグループごとに行うため、特別な理由がない限り欠席は認めない。
5. グループ内で、役割分担の役目を果たし、チームワークよく取り組むこと。
6. 一回限りの実習が多いため補講が難しい。特別な理由がない限り欠席は認めない。

教科書・参考書

教科書：特になし
参考書：特になし

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士の実務遂行に必要な知識・技能を身につけている (専門力)	秀	全身疾患を持つ患者や口腔外科疾患患者への対応についての歯科衛生士としての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナルリズムも持ち合わせている。
	優	全身疾患を持つ患者や口腔外科疾患患者への対応についての歯科衛生士としての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナルリズムも伴っている。
	良	全身疾患を持つ患者や口腔外科疾患患者への対応についての歯科衛生士としての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	全身疾患を持つ患者や口腔外科疾患患者への対応についての歯科衛生士としての知識・技術を身につけている。
	不可	全身疾患を持つ患者や口腔外科疾患患者への対応についての歯科衛生士としての知識・技術を身につけていない。
② チーム医療の一員としての責任をもって物事に臨むことができる (責任感)	秀	チーム医療の一員として必要とされていることに臨機応変に応えることができる。つまり自由意志のもとに決断し、その場に適した態度を取ることができる。
	優	チーム医療の一員として必要とされていることに応えることができる。仮に応えられなかったときも、その場で取るべき態度を自覚できる。
	良	チーム医療の一員として必要な存在であると十分理解している。促されてその場に適した態度を取ることができる。
	可	チーム医療の一員としてその場から何かを必要とされていることはわかっている、何かをしたいという意志はある。
	不可	チーム医療の一員として何かを得たいと求めることはできるが、自分がその場に何かできることはないだろうという発想はない。
③ 情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる (判断力)	秀	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使して、自分で十分適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者とコミュニケーションをとり、助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	他者とコミュニケーションを取って、適切な状況判断ができない。
④ 自己の思考や行動を振り返り、改善の道を常に模索することができる (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	0	0	0	0	100	100
評価項目	① 専門的な知識・技術	0	0	0	0	0	25	25
	② チーム医療を担う者としての責任感	0	0	0	0	0	25	25
	③ コミュニケーション能力を用いた正確な情報収集と適切な判断力	0	0	0	0	0	25	25
	④ 自分の学びを振り返り改善する力	0	0	0	0	0	25	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
その他	① レ	臨地実習指導者評価 詳細な評価項目・基準は臨地実習要綱・要領に記載あり
	② レ	
	③ レ	
	④ レ	

履修に必要な知識・技能・態度など
臨地実習では2年次後期までに学習した全ての知識・技術が必要になる。学習した内容を整理し復習して自分のものにしておくこと。欠席・遅刻・早退は認めないので、体調を自己管理して臨むこと。
教科書・参考書
教科書：使用しない 参考書：『新常用歯科事典』 中原 泉 医歯薬出版 『臨床実習 HAND BOOK (歯科衛生士教育サブテキスト)』 真木吉信 監著 クインテッセンス出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
口腔保健衛生学実習Ⅱ (O23460)	実 習	3	135	3	前 期	必 修	—	澤田美佐緒	5号館3階 研究室他
要介護者・障がい者への 対応方法を学ぶ								複数担当	
科目担当者	澤田美佐緒、中村美紀、吉田幸恵								

授業の概要	高齢者施設・口腔保健センター等における実習を通して、要介護高齢者・障がい者に対する歯科衛生士の役割について学びます。特別な配慮を要する対象者の生活している場面で実習を行うことで、対象となる方々の状態を捉え、コミュニケーションの取り方や対応方法を習得します。また、歯科衛生士が担う口腔保健の意義を理解し、口腔機能管理を実践できる能力を養います。また、保健所の実習では地域保健について学びます。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input checked="" type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
	実 習 前：学内にて事前指導を行う。 ・実習概要の説明 ・各実習の目的と特徴の理解 ・連絡方法の確認 ・実習目標の設定 実習施設：以下の①と②の施設にて臨地実習を行う。 ①高齢者施設 ②口腔保健センター・保健所・回復期医療施設などのうちいずれか1か所 実 習 後：学内にて振り返りを行う。 ・グループワークを用いた振り返り、考察を行う。 ・振り返り内容を発表する。 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 実習目標を設定する。 翌日の実習に応じた予習をおこなう。 【事後】 実習目標の達成状況を振り返る。 実習日誌に学んだ内容をまとめる。 自己学習をおこなう。

学修の到達目標
1. 高齢者施設、口腔保健センター、保健所等の役割・機能を知る。 2. 要介護高齢者・障がい者の全身状態や生活などを理解できる。 3. 障害を持つ人に対する歯科治療や回復期・維持期における支援の方法を知り、対応できる能力を養う。 4. 特別な配慮が必要な人に対する歯科衛生士の役割を理解できる。 5. 口腔保健に関わる地域支援の仕組みや歯科衛生士の業務について学ぶ。 6. 歯科診療所以外の施設における他職種との連携について学ぶ。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①各専門職の実務遂行に必要な知識・技能を身につけている (専門力)	秀	高齢者や障がい者に対する対応方法についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	高齢者や障がい者に対する対応方法についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	高齢者や障がい者に対する対応方法についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	高齢者や障がい者に対する対応方法についての知識・技術を身につけている。
	不可	高齢者や障がい者に対する対応方法についての知識・技術を身につけていない。
②チーム医療の一員としての責任をもって物事に臨むことができる (責任感)	秀	チーム医療の一員として必要とされていることに臨機応変に応えることができる。つまり自由意志のもとに決断し、その場に適した態度を取ることができる。
	優	チーム医療の一員として必要とされていることに応えることができる。仮に応えられなかったときも、その場で取るべき態度を自覚できる。
	良	チーム医療の一員として必要な存在であると十分理解している。促されてその場に適した態度を取ることができる。
	可	チーム医療の一員としてその場から何かを必要とされていることはわかっていて、何かをしたいという意志はある。
	不可	チーム医療の一員として何かを得たいと求めることはできるが、自分がその場に何かできることはないだろうかという発想はない。
③情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる (判断力)	秀	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使して、自分で十分に適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者とコミュニケーションをとり、助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	他者とコミュニケーションを取って、適切な状況判断ができない。
④自己の思考や行動を振り返り、改善の道を常に模索することができる (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	0	0	0	0	100	100
評価項目	① 専門的な知識・技術	0	0	0	0	25	25
	② チーム医療を担う者としての責任感	0	0	0	0	25	25
	③ コミュニケーション能力を用いた正確な情報収集と適切な判断力	0	0	0	0	25	25
	④ 自分の学びを振り返る力	0	0	0	0	25	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
その他	①	レ	臨地実習指導者評価 学内評価：科目責任者 詳細な評価項目・基準は臨地実習要綱・要領に記載あり
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	

履修に必要な知識・技能・態度など

臨地実習では、2年次後期までに学んだすべての知識・技術が必要になる。
特に、オーラルリハビリテーション・オーラルリハビリテーション演習で学んだ内容を整理し復習して自分のものにしておくこと。
また、特別な理由がない限り、臨地実習の欠席は認めないため、体調管理に留意すること。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 高齢者歯科第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 障害者歯科第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 保健生態学第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
『歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版』 公益社団法人日本歯科衛生士会 監修 医歯薬出版
参考書：『臨地実習 HAND BOOK (歯科衛生士教育サブテキスト)』 眞木吉信 監著 クインテッセンス出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
災害時の歯科衛生士の働き (O23500)	演 習	1	30	3	後 期	必 修	-	高橋由希子	5号館3階 研究室他
被災地での歯科保健活動								複数担当	
科目担当者	高橋由希子、室崎友輔、福田昌代、八木孝和、中村美紀								

授業の概要	災害時および防災の取り組みについて、歯科医療従事者、特に歯科衛生士の役割を理解し、危機的状況下でも柔軟に対応できる力を養う。これらの学びを通して、命の大切さを知り、高い倫理観を培う。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学习支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション (レ) 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション (担当者：高橋)	【事前】 シラバス内容の確認 【事後】 演習内容の復習
第2回	大震災の概要と問題点 災害を知る【人と防災未来センター見学】 (担当者：高橋)	【事前】 施設の概要について予習 【事後】 演習内容の復習
第3回	大震災の概要と問題点 災害を知る【人と防災未来センター見学】 (担当者：高橋)	【事前】 施設の概要について予習 【事後】 演習内容の復習
第4回	「災害時の口腔保健の重要性」 防災対策編 (担当者：高橋)	【事前】 事前課題を考察 【事後】 グループワーク内容の復習
第5回	「災害時の口腔保健の重要性」 防災対策編 (担当者：高橋)	【事前】 事前課題を考察 【事後】 グループワーク内容の復習
第6回	救急蘇生 (担当者：高橋、福田、八木、中村、他)	【事前】 教本の確認 【事後】 救急救命の意義について考察
第7回	救急蘇生 (担当者：高橋、福田、八木、中村、他)	【事前】 教本の確認 【事後】 救急救命の意義について考察
第8回	健康フェスタでのボランティア活動 (担当者：高橋)	【事前】 地域住民への口腔保健について考察 【事後】 地域住民への貢献の意義
第9回	健康フェスタでのボランティア活動 (担当者：高橋)	【事前】 地域住民への口腔保健について考察 【事後】 地域住民への貢献の意義
第10回	異なる避難所についてのワークショップ (担当者：室崎)	【事前】 事前課題を考察 【事後】 ワークショップ内容の復習
第11回	避難所体験 (担当者：室崎)	【事前】 事前課題を考察 【事後】 ワークショップ内容の復習
第12回	防災啓発手法の実際 (担当者：室崎)	【事前】 事前課題を考察 【事後】 ワークショップ内容の復習
第13回	災害と防災対策 (担当者：室崎)	【事前】 事前課題を考察 【事後】 ワークショップ内容の復習
第14回	「災害時の口腔保健の重要性」 活動編 (担当者：高橋)	【事前】 事前課題を考察 【事後】 グループワーク内容の復習
第15回	「災害時の口腔保健の重要性」 活動編 (担当者：高橋)	【事前】 事前課題を考察 【事後】 グループワーク内容の復習

学修の到達目標

1. 災害時における口腔保健の重要性を理解する。
2. 災害時における歯科および歯科衛生士の役割を説明できる。
3. 防災の重要性とその方法について説明できる。
4. 災害時の支援対象者を理解する。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①災害時の歯科衛生の基礎的な知識を身につけている。 (専門力)	秀	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を確実に身につけている。
	優	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を十分なレベルで身につけている。
	良	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を一定のレベルで身につけている。
	可	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を身につけていない。
②失敗を恐れず、想いや考えを具体的行動にすることができる (実行力)	秀	すでに持っている専門知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力などを高いレベルでバランスよく駆使して、短時間で正確な課題の遂行ができる。またそれゆえその実行を踏まえた次の新たな創造的作業に移っていきやすい。
	優	すでに持っている専門知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力などを高いレベルでバランスよく駆使して、短時間で正確な課題の遂行ができる。
	良	すでに持っている専門知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力などのいくつかを機能させつつ、自力で適切な課題の遂行ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、与えられた課題を一定レベルにおいて実行することができる。
	不可	与えられた場面において何をしたらいいのかわからない。
③社会の一員としての責任を持って物事に臨むことができる (責任感)	秀	社会の一員として自由意志のもと決断しその場に適した態度を取る事ができる。使命感を持ち、見返りを求めることはない。メリットは結果的に副産物として生ずるものであるとわかっている。
	優	社会の一員として自由意志のもと決断しその場に適した態度を取る事ができる。
	良	その場から問われていることに応えることができ、その場に適した態度を取る事ができる。
	可	その場から何かを問われていることはわかっている、何かをしたいという意思はある。
	不可	何かを獲得しメリットを享受したいと求めるが、自分がその場に何ができないことはないだろうか、という発想はない。
④誰かの役に立つことに喜びを感じ、具体的に行動することができる (貢献力)	秀	かなり自発的に周囲に貢献できる。それにより周囲のモチベーションを高めることもできる。また自分の貢献力を社会に還元することもできる。
	優	かなり自発的に周囲に貢献できる。それにより周囲のモチベーションを高めることもできる。
	良	ある程度自発的に周囲に貢献できる。
	可	他者から支持されれば、周囲に対して何らかの貢献はできる。
	不可	貢献への積極性がなく、周囲のモチベーションを下げってしまう。
⑤自他の利害をこえて、協力して物事に取り組むことができる (協調性・協調力)	秀	グループワークやワークショップの発表において、自分自身の思いや意見を他者に伝えることができる。その際、文字や話し言葉、表現方法については、他者が理解できるように配慮する能力がある。
	優	グループワークやワークショップの発表において、自分自身の思いや意見を他者に伝えることができる。その際、文字や話し言葉、表現方法は適切であり、他者が理解しやすい。
	良	グループワークやワークショップの発表において、自分自身の思いや意見を、文字や話し言葉、態度等の表現方法で他者に伝えることができる。
	可	グループワークやワークショップの発表において、自分自身の思いや意見を何らかの方法で他者に伝えることができる。
	不可	グループワークやワークショップの発表において、自分自身の思いや意見を他者に伝えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	20	25	0	20	5	100
評価項目	① 専門力	30	10	5	0	5	0	50
	② 実行力	0	5	5	0	5	0	15
	③ 責任感	0	5	5	0	5	0	15
	④ 貢献力	0	0	5	0	5	0	10
	⑤ 協調性・協調力	0	0	5	0	0	5	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	レポート試験を実施する。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
提出物	① レ	必要に応じて指示された課題に対しレポートを提出する。 ポートフォリオとして蓄積する書類のファイリングが正しくなされているかを評価する。
	② レ	
	③ レ	
	④	
	⑤	
成果発表 (口頭・実技)	① レ	成果発表をルーブリックの評価基準に基づいて評価する。
	② レ	
	③ レ	
	④ レ	
	⑤ レ	
ポートフォリオ	① レ	各自が演習で取り組むワークシートを、それぞれの学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。ポートフォリオ評価は蓄積された成果を公平な観点から評価する。ワークシートや自らの考察が欠落している場合は減点の対象となる。
	② レ	
	③ レ	
	④ レ	
	⑤	
その他	①	グループ活動において積極的に発言することや、主体的・能動的に取り組んだことについては、加点の評価対象となる。
	②	
	③	
	④	
	⑤ レ	

履修に必要な知識・技能・態度など

1. 「災害援助と救急医療」とリンクしている。相互の繋がりを意識し、講義の整理をする。
2. 日本や世界で起こっている災害（人災・天災）について意識を向け、その情報を収集し、授業内容と照らし合わせながら災害の理解を深める。
3. 講義の際は、創造力と探究心を忘れず持って臨む。
4. グループワークの際は、自身の意見を積極的に伝え、他者の意見に耳を傾けることに留意し、チーム全員で協力してグループの意見をまとめる。

教科書・参考書

教科書：『救急蘇生法の指針 2015 市民用』 日本救急医療財団心肺蘇生委員会監修 へるす出版

参考書：口腔外科学・歯科麻酔学 池邊哲郎他 編集 クインテッセンス出版

『災害時の歯科保健医療対策』 日本災害時公衆衛生歯科研究会編 一世出版

『繋ぐ 被災歯科保健医療対応への執念』 佐藤保、高橋了平他著 クインテッセンス出版

『巨大災害と医療・社会保守王を考える』 兵庫県保険医協会編 クリエイツかもがわ

『地震は貧困に襲いかかる』 いのうえせつこ著 花伝社

『震災復興の政治経済学』 齋藤誠 著 日本評論社

『災害歯科医学』 槻木恵一 他編 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

学修の到達目標

専門職、大人として、またこれから生きていく上で、社会の一員として、また隣人として、求められる場面がきっとあります。互いに支え合う「共生の社会」の実現に向け、共にその思いや知恵そしてスキルを学び、身に付けておきましょう。体験学習の機会も通して、理論と実践を修得します。「あなたが、そばに居てくれて良かった」と思ってもらえる、そんな大人をめざして。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①多様な人と関わることのできる人間性の基盤としての教養を身に着けている (教養力)	秀	「優」の категорияで、その点において人、社会に対し、影響力を持続的に持てる
	優	全ての人に自然なふるまいとして、明朗で温かい対応が取れ、弱者には寄り添う事ができる
	良	演習等で、期待されるひと通りの行動が取れ、そこからの学びでさらに向上する姿勢が見られる
	可	身近な隣人との関わりに大きな困難や違和感がなく、ひと通りの行動が取れる
	不可	隣人や困っている人への関心がなく、好意的態度を示すことがない
②情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる (判断力)	秀	失敗体験は無論、成功体験からもより学びを求める姿勢があり、常に高いレベルを求めている
	優	知識、経験を生かし、それから得られる直観や決断力を駆使し、適切な状況判断ができる
	良	ある程度の判断力があり、積極的な姿勢も見られ、自力で状況判断できる
	可	他者の助言、指導のもとに、その場に即した状況判断や協調した態度がある程度取れる
	不可	適切な状況判断ができていない
③失敗を恐れず思いや考えを身体活動に移すことができる (実行力)	秀	自らの経験や、場の情報などの状況判断から、短時間で即応的な課題対応を連続的に展開できる
	優	自らの経験や、場の情報などを判断し、決断力をもって自立的かつ適切な課題の遂行ができる
	良	自らの経験や、場の情報などの状況判断から、試行錯誤しながらも一応の課題遂行ができる
	可	他者の助言、指導のもとに、与えられた課題を一定レベルで実行することができる
	不可	いろいろな状況や場面で、自ら何をしたらよいかかわからず、行動が滞ることが多い
④誰かの何かの役に立つことに喜びを感じ、主体的に行動することができる (貢献力)	秀	自発的に周囲に貢献でき、その輪が周囲に影響を与え、さらに社会的な広がりも期待される
	優	自発的に周囲に貢献でき、それによって周囲のモチベーションをさらに上げることもできる
	良	ある程度、自発的に周囲に対しては貢献できる
	可	他者から指示、促されたりし、集団で行なうときなどには、何らかの貢献活動はできる
	不可	貢献について、積極性がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		75	0	0	0	0	25	100
評価項目	① 教養力	40	0	0	0	0	10	50
	② 判断力	15	0	0	0	0	5	20
	③ 実行力	10	0	0	0	0	5	15
	④ 貢献力	10	0	0	0	0	5	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	* 実技、演習における行動、参加態度による評価 * レポート試験（課題レポート）を実施、その内容により、それぞれの該当項目を評価
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
その他	①	レ	* 特に学外にて実施される体験学習が、参加態度を含め、その主たるものになる
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	

履修に必要な知識・技能・態度など

この科目への関心は、身近な他人や社会への関心、さらには優しさを伴った、思いや何か問題意識があつてのことでしょうか。生きる、ということは「周りに借りができること（支えてもらうということ）」、生きていくということは「その借りを返していくこと（必要な時には支える側にまわるとのこと）」というのが基本の考え方です。

人に上手に甘えることが出来、そのお返しも出来ることが、それなりに快適に生きるコツです。何でも甘え頼り、でなければ人ともつながらず一人で孤軍奮闘、それでは何とも寂しい生き方です。それなりに快適に生きていく知恵や手立てを学習する思いで受講して下さい。

教科書・参考書

教科書・参考書：使用しません

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
コミュニケーション イングリッシュ (O23520)	演習	1	30	3	前期	選択	-	脇本聡美	7号館5階 研究室
Develop English proficiency								単独担当	
科目担当者	脇本聡美								

授業の概要	The purpose of this course is to improve English proficiency through a variety of practical activities. The emphasis is also laid on motivating students to play an active role in international communities.	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	Orientation Self-introduction	【事前】 Reading the syllabus 【事後】 Writing self-introduction
第2回	Unit 1 A Taste of Mexico	【事前】 Unit 1 What Do You Know? 【事後】 Unit 1 Express Yourself
第3回	Group discussion based on Express Yourself / Survival English: At the Airport	【事前】 Listening assignment 1 【事後】 Unit 1
第4回	Unit 2 Lightning / Presentation: The city I'd like to visit (2 students)	【事前】 Unit 2 What Do You Know? 【事後】 Unit 2 Express Yourself
第5回	Group discussion based on Express Yourself / Survival English: At the Hotel / The city I'd like to visit (2 students)	【事後】 Preparing for the quiz (Unit 1 & 2)
第6回	Quiz / Unit 3 Penguins in Trouble / The city I'd like to visit (2 students)	【事前】 Unit 3 What Do You Know? 【事後】 Unit 3 Express Yourself
第7回	Unit 4 Parasomnia / The city I'd like to visit (2 students)	【事前】 Listening assignment 2, Unit 4 What Do You Know? 【事後】 Unit 4 Express Yourself
第8回	Unit 5 Maasai Teacher / The city I'd like to visit (2 students)	【事前】 Unit 5 What Do You Know? 【事後】 Unit 5 Express Yourself
第9回	Group discussion based on Express Yourself / Survival English: Shopping / The city I'd like to visit (2 students)	【事後】 Preparing for the quiz (Unit 3 - 5)
第10回	Quiz / Unit6 Living in Venice / The city I'd like to visit (2 students)	【事前】 Unit 6 What Do You Know? 【事後】 Unit 6 Express Yourself
第11回	Group discussion based on Express Yourself / Survival English: Health Problems / The city I'd like to visit (2 students)	【事前】 Listening assignment 3 【事後】 Unit 6
第12回	Unit 7 Tornado Chase / The city I'd like to visit (2 students)	【事前】 Unit 7 What Do You Know? 【事後】 Unit 7 Express Yourself
第13回	Group discussion based on Express Yourself / Survival English: Getting Directions / The city I'd like to visit (2 students)	【事前】 Listening assignment 4 【事後】 Unit 7
第14回	Unit 12 Italy / The city I'd like to visit (2 students)	【事前】 Unit 8 What Do You Know? 【事後】 Unit 8 Express Yourself
第15回	Group discussion based on Express Yourself / The city I'd like to visit (2 students) / Review	【事後】 Preparing for the exam

学修の到達目標

1. Students will increase proficiency in English.
2. Students will understand cultural diversities.

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①Listening (Information literacy)	秀	Can understand correctly
	優	Makes some mistakes in understanding but needs no help from others
	良	Makes some mistakes in understanding and sometimes needs help from others
	可	Makes some mistakes in understanding and often needs help from others
	不可	Cannot understand at all
②Speaking (Expressiveness)	秀	Always communicates with correct grammar, vocabulary and pronunciation
	優	Always communicates with appropriate grammar, vocabulary and pronunciation
	良	Often communicates with appropriate grammar, vocabulary and pronunciation
	可	Sometimes communicates with appropriate grammar, vocabulary and pronunciation
	不可	Rarely attempts to speak during classroom activities
③Reading (Critical thinking)	秀	Recognizes implications and inferences of the text
	優	Tries to understand implications and inferences of the text
	良	Identifies relations among ideas and understands the text as a whole
	可	Comprehends basic words and recognizes relations among parts of the text
	不可	Disregards or does not understand informational text features
④Writing (Logical thinking)	秀	Writes with complex sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	優	Writes with complex sentence structures, but makes some grammatical and/or spelling errors
	良	Writes with simple sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	可	Writes with simple sentence structure, and makes many grammatical and/or spelling errors
	不可	Writes without sentence structure, and does not have grammatical competence
⑤Multicultural understanding (Intelligence)	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	10	20	0	0	20	100
評価項目	① Listening	10	0	0	0	0	5	15
	② Speaking	0	0	15	0	0	0	15
	③ Reading	15	3	0	0	0	0	18
	④ Writing	15	7	3	0	0	12	37
	⑤ Multicultural understanding	10	0	2	0	0	3	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	A Written Examination
	②		
	③	レ	
	④	レ	
	⑤	レ	
提出物	①		Self-introduction & report
	②		
	③	レ	
	④	レ	
	⑤		
成果発表 (口頭・実技)	①		Presentation
	②	レ	
	③		
	④	レ	
	⑤	レ	
その他	①	レ	Quizzes
	②		
	③		
	④	レ	
	⑤	レ	

履修に必要な知識・技能・態度など

1. Class participation 2. Preparation and review 3. Completion of assignments

教科書・参考書

教科書： *World in Focus* . Rebecca Klevberg Möller センゲージラーニング

参考書： Introduced as needed

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
海外研修 (O23530)	演習	1	30	3	前期	選択	-	柳田学	5号館3階 研究室他
アメリカの歯科衛生士教育・ 業務・役割の学修								複数担当	
科目担当者	柳田学、福田昌代、浅枝麻夢可								

授業の概要	<p>歯科衛生士発祥の地であるアメリカ合衆国の歯科衛生士教育の現場見学や講義聴講により、歯科衛生士の口腔疾患予防と治療への取り組みや日本との違いを理解する。</p> <p>また、歯科医療および口腔保健に関わるグローバル企業の見学を通じて、企業の取り組みを学修する。海外研修を通じて口腔保健の立場から国際貢献できる基礎能力を養う。</p>	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学习支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	アメリカ合衆国の医療制度について (担当者：柳田、福田、浅枝)	【事前】 シラバスを事前に読んでおくこと 【事後】 学びの振り返り
第2回	アメリカ合衆国の歯科衛生士教育・業務について (担当者：柳田、福田、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第3回	アメリカ合衆国での市場調査の方法について (担当者：柳田、福田、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第4回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：柳田、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第5回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：柳田、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第6回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：柳田、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第7回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：柳田、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第8回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：柳田、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第9回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：柳田、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第10回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：柳田、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第11回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：柳田、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第12回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：柳田、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第13回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：柳田、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第14回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：柳田、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第15回	海外研修成果の発表 (担当者：柳田、浅枝)	【事前】 研修内容を整理しておく 【事後】 本授業の振り返り

学修の到達目標	
1. 日本とアメリカの歯科衛生士の教育、資格、業務内容などの相違について説明できる。	
2. アメリカの先進的な歯科医療事情や企業の取り組みを説明できる。	
3. アメリカと日本の医療制度の違いを説明できる。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 自ら心身の健康を適切に管理することができる (自己管理能力)	秀	自らの健康に非常に留意し、授業に積極的かつ集中して取り組むことができる
	優	自らの健康に留意し、授業に積極的かつ集中して取り組むことができる
	良	自らの健康に留意し、授業に取り組むことができる
	可	自らの健康に留意する意識を持って、授業に取り組もうとしている
	不可	自らの健康に留意する意識を持たず、授業に臨んでいる
② 自他の利害をこえて、協力して物事に取り組むことができる (協調性・協働性)	秀	授業において、自らの役割を積極的に見出し、他者と協力して物事に取り組むことができる
	優	授業において、自らの役割を見出し、他者と協力して物事に取り組むことができる
	良	授業において、与えられた役割を、他者と協力して物事に取り組むことができる
	可	授業において、他者と協力して物事に取り組もうとしている
	不可	授業において、他者と協力して物事に取り組む姿勢がみられない

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	30	30	0	0	40	100
評価項目	① 自己管理能力	0	15	15	0	0	20	50
	② 協調性・協働性	0	15	15	0	0	20	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
提出物	① レ	海外研修中、あるいは海外研修後のレポートを評価する
	② レ	
成果発表 (口頭・実技)	① レ	海外研修前のプレゼンテーション課題の作成、海外研修後のポスター発表、学会発表への取り組みを評価する
	② レ	
その他	① レ	あらかじめ質問したいことを英語で準備しているか、海外研修中に疑問が生じた際、臆することなく質問できるかを評価する
	② レ	

履修に必要な知識・技能・態度など	
コミュニカティブイングリッシュを必ず履修する。 第1回から第4回までの講義は必ず受講すること。 大学祭時にポスターを作成して発表する。	
教科書・参考書	
教科書：使用しない 参考書：なし	

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	25	0	0	0	25	100
評価項目	① 論理的思考力	50	25	0	0	0	25	100

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
定期試験	①	レ	筆記試験
提出物	①	レ	演習問題の復習、不得手な科目の重点的な学習を、学習態度・提出物等から評価する
その他	①	レ	受講態度、積極的な質問

履修に必要な知識・技能・態度など	
真摯な気持ちで演習問題に取り組み、解説講義を聴取すること。	
教科書・参考書	
教科書：各科目履修時に使用した教科書 参考書：なし	

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
口腔保健特論Ⅱ (ZO2070)	講義	2	60	3	後期	選択	-	福田昌代	5号館3階 研究室他
歯科衛生士に向けての総まとめ学修								複数担当	
科目担当者	福田昌代、吉田幸恵、上原弘美、高橋由希子、御代出三津子、澤田美佐緒、破魔幸恵、中村美紀、浅枝麻夢可、小林容子、氏橋貴子								

授業の概要	歯科衛生士になるために学修してきたことを、この科目で総復習して再確認し、問題解決能力を身につける。特に、歯科衛生士の主要三科目について総合的に理解できるようにする。そのために、教員がそれぞれ担当箇所を分担し、担当箇所の総合的な説明や解説を行いながら問題解決に向けた思考力と判断力を身につけて、歯科衛生士として最低限の知的基準に達することを狙いとする。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション 演習問題の実施 (担当者：福田)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 演習問題の解説
第2回	演習問題の実施 (担当者：福田)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 演習問題の解説
第3回	歯科保健指導 (食生活指導) (担当者：吉田)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第4回	歯科保健指導 (生活習慣指導) (担当者：吉田)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第5回	歯科保健指導 (総論・情報収集) (担当者：中村)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第6回	歯科保健指導 (健康教育) (担当者：中村)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第7回	歯科保健指導 (口腔衛生管理①) (担当者：浅枝)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第8回	歯科保健指導 (口腔衛生管理②) (担当者：浅枝)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第9回	歯科保健指導 (口腔機能管理①) (担当者：澤田)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第10回	歯科保健指導 (口腔機能管理②) (担当者：澤田)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第11回	歯科保健指導 (ライフステージ別①) (担当者：福田)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第12回	歯科保健指導 (ライフステージ別②) (担当者：福田)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第13回	歯科診療補助 (臨床検査) (担当者：上原)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第14回	歯科診療補助 (医療安全) (担当者：上原)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第15回	歯科診療補助 (総論・保存) (担当者：上原)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第16回	歯科診療補助 (口腔外科・高齢者歯科) (担当者：上原)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習

第 17 回	歯科診療補助（歯科補綴） （担当者：澤田）	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第 18 回	歯科診療補助（矯正歯科） （担当者：澤田）	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第 19 回	歯科診療補助（小児歯科） （担当者：御代出）	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第 20 回	歯科診療補助（障がい者歯科） （担当者：御代出）	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第 21 回	歯科診療補助（歯科材料） （担当者：氏橋）	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第 22 回	歯科診療補助（歯科放射線・救急救命） （担当者：氏橋）	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第 23 回	歯科予防処置（歯周病予防総論①） （担当者：高橋）	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第 24 回	歯科予防処置（歯周病予防総論②） （担当者：高橋）	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第 25 回	歯科予防処置（歯周病予防各論①） （担当者：小林）	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第 26 回	歯科予防処置（歯周病予防各論②） （担当者：小林）	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第 27 回	歯科予防処置（う蝕予防処置①） （担当者：破魔）	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第 28 回	歯科予防処置（う蝕予防処置②） （担当者：破魔）	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第 29 回	演習問題の実施 （担当者：福田）	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 演習問題の解説
第 30 回	演習問題の解説 まとめ （担当者：福田）	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 演習問題の解説

学修の到達目標

歯科衛生士になるための学力を身につけ、主要三科目で8割以上の知識獲得ができることを目標とする。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①歯科衛生士業務の根拠、手技について論理的に考えることができる。 (論理的思考力)	秀	歯科衛生士の専門領域である主要三科目についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	歯科衛生士の専門領域である主要三科目についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	歯科衛生士の専門領域である主要三科目についての知識を一定レベルで身につけている。
	可	歯科衛生士の専門領域である主要三科目についての知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	歯科衛生士の専門領域である主要三科目についての知識を身につけていない。
②心身の自己管理ができる。 (自己管理能力)	秀	医療職に就く者としての自覚をもち、自発的に心身の自己管理ができ、他学生の手本となる。
	優	医療職に就く者としての自覚をもち、ある程度自発的に心身の自己管理ができる。
	良	医療職に就く者としての自覚が芽生え、ある程度自発的に、心身の自己管理ができる。
	可	医療職に就く者としての自覚が芽生え、他者からの助言や指導のもと、心身の自己管理ができる。
	不可	医療職に就く者としての自覚が見られず、心身の自己管理ができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	0	0	0	0	40	100
評価項目	① 論理的思考力	60	0	0	0	0	20	80
	② 自己管理能力	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ 国家試験形式による筆記試験を実施し評価する。
その他	①	レ 授業内で実施する演習問題の成績にて評価する。また、試験問題解説の内容も参考にする。
	②	レ 出席状況、授業態度等

履修に必要な知識・技能・態度など	
自己学習を十分に行いながら、真摯な気持ちで取り組むこと。	
教科書・参考書	
教科書：各科目履修時に使用した教科書 参考書：『2021年度版 徹底分析歯科衛生士国家試験問題集』 医歯薬出版	

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

MEMO